

資料

(平成六年十月)

第三十九回「合宿教室」(阿蘇)感想文集

——日本人としての自覚をもとめて——

社団法人 国民文化研究会

— “合宿教室” 39年の歩み—

回数	年 度	開催地	参加 人員	主 要 講 師
1	昭和31年	霧 島	92	広田洋二・日下藤吾・川井修治
2	〃 32年	福 岡	127	竹山道雄・高山岩男・浅野晃
3	〃 33年	佐 賀	72	勝部真長・木下彪・森三十郎
4	〃 34年	阿 蘇	160	花田大五郎・中山優・野口恒雄
5	〃 35年	雲 仙	200	木内信胤・花田大五郎・佐藤慎一郎
6	〃 36年	雲 仙	203	小林秀雄・木内信胤・津下正章
7	〃 37年	阿 蘇	215	福田恆存・木内信胤・黒岩一郎
8	〃 38年	雲 仙	202	竹山道雄・木内信胤・木下広居
9	〃 39年	桜 島	202	小林秀雄・広田洋二・木内信胤
10	〃 40年	大 分	215	岡潔・花見達二・木内信胤・夜久正雄
11	〃 41年	雲 仙	240	福田恆存・木内信胤・戸川尚
12	〃 42年	阿 蘇	336	林房雄・太田耕造・木内信胤
13	〃 43年	霧 島	353	竹山道雄・高谷覚蔵・木内信胤
14	〃 44年	阿 蘇	403	岡潔・木内信胤・木下道雄・奥田克巳
15	〃 45年	雲 仙	491	小林秀雄・木内信胤・桑原暁一
16	〃 46年	霧 島	302	村松剛・木内信胤・戸田義雄
17	〃 47年	阿 蘇	402	木内信胤・山本勝市・胡蘭成
18	〃 48年	雲 仙	433	村松剛・木内信胤・山口宗之
19	〃 49年	霧 島	528	小林秀雄・木内信胤・戸田義雄
20	〃 50年	阿 蘇	435	福田恆存・木内信胤・夜久正雄
21	〃 51年	佐世保	372	長谷川才次・村松剛・木内信胤
22	〃 52年	雲 仙	332	木内信胤・衛藤藩吉・高木尚一
23	〃 53年	阿 蘇	440	小林秀雄・木内信胤・松本唯一
24	〃 54年	霧 島	268	木内信胤・高山岩男・山田輝彦
25	〃 55年	雲 仙	431	福田恆存・法眼晋作・宝辺正久
26	〃 56年	阿 蘇	353	齋藤忠・村松剛・青砥宏一
27	〃 57年	霧 島	321	齋藤忠・黛敏郎・幡掛正浩
28	〃 58年	雲 仙	327	齋藤忠・小堀桂一郎・長内俊平
29	〃 59年	阿 蘇	302	吉岡一郎・小堀桂一郎・加納祐五
30	〃 60年	阿 蘇	249	市原豊太・高村坂彦・小田村四郎
31	〃 61年	島 原	294	江藤淳・村松剛・小柳陽太郎
32	〃 62年	阿 蘇	269	小堀桂一郎・鈴木一・関正臣
33	〃 63年	島 原	227	児島襄・小堀桂一郎・加納祐五
34	平成元年	島 原	204	村松剛・山田輝彦・国武彦彦
35	〃 2年	阿 蘇	204	黛敏郎・小柳陽太郎・占部賢志
36	〃 3年	厚 木	244	田久保忠衛・国武彦彦・山内健生
37	〃 4年	阿 蘇	257	村松剛・平川祐弘・奥富修一
38	〃 5年	厚 木	271	村松剛・佐伯彰一・白濱裕
39	〃 6年	阿 蘇	253	徳岡孝夫・小堀桂一郎・絹田洋一

累計・参加人員 11,229名

第三十九回 “合宿教室（阿蘇）” 全参加者の感想文と和歌詠草



とき 平成六年八月六日（土）から十日（水）まで四泊五日間  
 ところ 熊本県阿蘇国立公園「阿蘇の司・ピラパークホテル」  
 参加総数 二五三名

目次

“はしがき”に代へて	……………	理事長・小田村寅二郎	2
大学別参加者数・その他の人数の内訳	……………		5
“合宿教室”の日程表（四泊五日）	……………		6
第39回“合宿教室”のあらまし	……………		7
感想文と第二回目的“短歌詠草”	……………	参加者全員	29
短歌詠草	……………	参加者全員	107
あとがき	……………		132
カメラ・レポート28枚（31ページから85ページの左頁に掲載）	……………		

## “はしがき”に代へて

小田村寅二郎（数へ、八十一歳）

（本会理事長・元亜細亜大学教授）

昭和三十一年の本会創立以来、一年も欠かすことなく続けて来た“合宿教室”は、本年で第三十九回目を迎へ、九州・熊本県・阿蘇国立公園内の「阿蘇の司・ピラパークホテル」で、八月六日（土）から八月十日（水）までの四泊五日間（リーダー学生による“事前合宿”を、それに先立って三泊、“事後検討合宿”を本合宿後一泊、従ってリーダー学生にとっては、合計八泊九日間）で開催しました。このホテルでの「朝の集ひの廣場」からは、雄大な阿蘇連山が間近く眺められ、特に最終日八月十日の朝の澄み切った大氣を通しての連山の美しさは格別であり、参加者一同は、心のなごむ思ひひとしほ一入ひとしほでした。宿舎側の設備も大變に使ひよく、この“合宿教室独自の日程の運び”にも、きはめて好都合でした。

今から三十九年前に始められたこの“合宿教室”の開催目的は、次のやうな当時の世相に起因するものでした。当時は、敗戦後約十年を経過した時点でしたが、二十歳前後の大学生諸君が、戦後教育の影響によって、日本の歴史伝統への理解が乏しくなり、いはゆる“価値観”が大きく變つて来てしまつてゐたため、僅か十歳から二十歳しか離れてゐなかつた私ども（国文研の創始者グループ）は、彼等と“人生觀を語り合ふこと”が出来なくなつてしまつてゐることに氣づき、この“歴史の断絶”をつなぎとめない限り日本の再生はない、と決然として立ち上り、「若い大学生と私たち若い社会人との会話、心の交流の場」として、この“合宿教室”を開いたわけでした。それが第三十九年目を迎へた、といふのが今回の阿蘇合宿でした。

しかし、今日の世相（特に、政界、マスコミ、教育現場）は、四十年前のそれと比較してはるかに非常識になり、さきの大戦を含め、祖国の存亡を賭けた日清・日露の両戦役をも含め、支那・朝鮮へ侵略したなどといふ護国の英靈みたまへの謝恩を顧みない精神的亡国思潮の渦巻きの中を彷徨さまよつてゐますので、私どもの今回の“第三十九回”は、この時局を憂へ、初心に立ち返つて

の「第一回目の合宿教室」にしようではないか、との私の国文研会員への訴へに、国文研参加会員が心から呼応して開かれたものでありました。

全国津々浦々から馳せ参じてくださった参加者諸君（五八大学から、男女学生一三一名、社会人及び関係者一二三名、計二五三名）は、旅装を解く間もなく開会式（八月六日午後二時）に列席し、開会宣言、国歌斉唱二回、ついで「祖国のために尊い生命を捧げられた先人の御霊」に一分間の黙祷を捧げたあと、参加学生を代表して、リーダー学生の一人、地元、熊本学園大学三年・喜多村純君が「自分自身を見つめ直す機会にしよう」と呼びかけたのに対して、全参加者は「この合宿に参加したからには、自分から進んで飛び込んでいかなくては」との氣持にさそはれていったやうでした。場所もよし、空氣は殊のほか澄み切つてゐる阿蘇高原で、夏山の展望を窓外に眺めながら、今年の「合宿教室」はスタートしました。

遠路をお招き申し上げた、ジャーナリストの徳岡孝夫先生は「国際情勢をどう見るか——マスコミを信じるべきか——」と題して、お心こもる御講義と質疑に対する御応答を、また、文学博士・明星大学教授・東大名譽教授の小堀桂一郎先生は「日本における超越者の思想の系譜——一神教的價值観と日本人——」と題して、同じくお心こもる御講義と質疑に対する御応答を、長時間にわたつて下さいました。また、主催者側の諸講師の講義・講話・所感発表・短歌創作導入講義・同全体批評さらには第五日目の「全参加者の自由感想発表」の登壇者の発言についても、一言も聞き洩らすまいとの思ひで取り組まれた参加者たちでしたので、場内にはピーンと張りつめた緊張感のみならず、この「合宿教室」ならではの、真摯な求道の場が、日を追ふにしたがつて次第に充実感を深めていくことになりました。まことに嬉しい次第でした。

さて、この「合宿教室」では、「学問」と「人生」と「祖国日本」と「世界平和」といふ四つの命題を今年も掲げました。いまの日本の大学生活では、この四つの命題に何らの統一性・関連性が見られないため、この合宿教室では、そのことへの反省の

上に立って、この四つの命題を何とかして各自の心中に統一的に把握してもらはうと、参加者諸君に強く期待しました。

これらへの対処には、結局一人びとりが、学問の名に値する真の総合的な学問を求めつつ学生生活を確立するのでなければならぬ、といふ重要事を把らへてくださった、と思はれました。

一方、大学生諸君にとって、「友情、友との付き合ひ」の問題は、重要な関心事でありますので、「上<sup>うへ</sup>つつらだけの遊び友だちではなく、真に心を許し合ふことの出来る友だちを持ちたい」といふ願望に対して、この「合宿教室」では「こちら側がどういふ心掛けで自分自身の心を整へて相手に相対していけば、真に心を許し合へる友と出会ふことができるか、それにはどう努力すべきか」についても、各班ごとの、胸襟を開いての「班別討論」、「輪読」、各自が詠んだ和歌についての「相互批評」などを通じて、具体的な経験を積んでくれたことは、各自の大きな収穫となったと思はれます。

なほ、今年の「合宿教室」は、実行委員長に澤部寿孫氏（日商岩井㈱ガス石炭本部副本部長、合宿運営委員長に白濱裕氏（熊本県立第二高校教諭）が活躍されました。ここに編じたこの『感想文集』は全参加者が「解散の間ぎは」に走り書きしてくださいました。紙面の都合上全文をそのまま載せ得なかつたことは、なにとぞご容赦いただきたく存じます。この「文集全体の編集」には、十余名の会員（編集後記に記載）が公務・社務の余暇をさいて取り組んでくださったことを、心から感謝してをります。また、最後になりましたが、この合宿事業を行ふに当りまして、本年もまた、朝野からお寄せくださいました得難い御支援御激励の数々に対しまして、会員一同に代はり、心から厚く御礼申し上げます。

ちなみに、来年（平成七年）の合宿教室（第四十回）は、八月四日（金）～八日（火）の日程（四泊五日間）で、神奈川県「厚木市立七沢<sup>ななさわ</sup>自然教室」で行ふことに決定し、合宿運営委員長には、東京在住の山口秀範氏（大成建設㈱国際推進部企画室長）を煩はすことになりました。



「第39回合宿教室」記念撮影（参加者253名）・於阿蘇国立公園「阿蘇の司」

参加者

（学生班 五八大学）（洋数字は参加学生数）

東京大 3 防衛大 4 富山大 5 金沢大 5 山形大 1  
 京都大 1 京都外語大 1 奈良大 1  
 奈良県立商科大 1 大阪市立大 1 県立山口女子大 1  
 愛媛大 1 九州大 2 福岡教育大 1 佐賀大 2  
 長崎大 4 熊本大 5 鹿児島大 2 東北女子大 1  
 東北女子短期大 2 拓殖大 14 早稲田大 4 中央大 2  
 駒沢大 1 文化女子大 1 明治学院大 1 東京農工大 1  
 亜細亜大 3 明星大 2 創価大 1 専修大 3  
 日本大 2 学習院大 1 青山学院大 2 国学院大 1  
 明治大 1 東京理科大 1 立教大 1 金沢工業大 5  
 福井工業大 6 大阪国際大 1 関西大 1  
 大阪芸術大 1 佛教大 1 龍谷大 1 関西学院大 1  
 久留米大 1 西南学院大 2 日本デザイナー学院 1  
 福岡大 2 中村学園大 2 九州国際大 1  
 第一経済大 1 九州造形短期大 1 熊本学園大 3  
 尚綱大 7 尚綱短期大 2 宮崎産業経営大 5  
 計一三一一名（うち女子四一名）

（社会人・教員参加者）三二名

（招聘講師）二名（国民文化研究会）八三名

（事務局）五名（写真）一名

総計 二五三名

夏季  
合宿  
セミナー

8月6日(土) (第1日)	8月7日(日) (第2日)	8月8日(月) (第3日)	8月9日(火) (第4日)	8月10日(水) (第5日)
(起床)	(起床)	(起床)	(起床)	(起床)
洗面・清掃 (7:00)	洗面・清掃 (7:00)	洗面・清掃 (7:00)	洗面・清掃 (7:00)	洗面・清掃 (7:00)
朝月の兼ひ(国旗掲揚 と国歌斉唱・体操) 朝月食 (8:30)	朝月の兼ひ(国旗掲揚 と国歌斉唱・体操) 朝月食 (8:30)	朝月の兼ひ(国旗掲揚 と国歌斉唱・体操) 朝月食 (8:30)	朝月の兼ひ(国旗掲揚 と国歌斉唱・体操) 朝月食 (8:30)	朝月の兼ひ(国旗掲揚 と国歌斉唱・体操) 朝月食 (8:00) 合宿生読みみて 合宿運営委員 白濱 裕氏 (8:20) (8:30)
(講義)	(講義)	(講義)	(講義)	参加者感想 自由発表
ジャーナリスト 徳岡孝夫 先生 (10:00) (10:10)	文学博士 明星大学教授 東京大学名誉教授 小堀桂一郎先生 (10:00) (10:10)	(社) 国民文化研究会・理事 長 前妻館堂大学教授 小田村實二郎 先生 (10:00) (10:10)	感想文執筆 及び 第2回短歌創作	
質疑応答 (10:40) (10:50)	質疑応答 (10:40) 記念写真撮影 (11:00) (11:10)	班別別輪読		
班別別研修 (12:30)	班別別研修 (12:30)	班別別輪読 (12:00)		班別別懇話会 (11:30) (12:00)
昼食	昼食・休憩 (1:30)	昼食・休憩 (1:30)	昼食・休憩 (1:00) (社) 国民文化研究会 常務理事・事務局長 長内俊平 先生 (2:00)	清掃 (12:30) 閉会式 (挨拶) 国文研・副理事長 (特) 千代田コンサルタント 事務取締役 上村和男氏 (このあと昼食) (両岸舞文)
休憩	(講義) 神奈川県立厚木南高校教諭 山内健生 先生 (2:00)	福岡県立水産高校教諭 菅原卓三 先生 (2:30)	班別別研修	
班別別研修 (3:30) (3:40)	山内健生 先生 (3:30) (3:40)	レクリエーション	班別別研修 (3:30) (創作短歌 全体批評) 福岡県立糸田小学校教諭 是松秀文 先生 (4:30)	
班別別自己紹介 班別別輪読 班別別国語第29課 事前連絡各 打ち合わせ (5:00)	班別別研修 (5:00)	レクリエーション	地区別懇話会 (5:00)	
夕食 入浴 休憩	夕食 入浴 休憩	夕食 入浴 休憩	夕食 入浴 休憩	
合宿導入講義 大阪府立交野高校教諭 新田洋一 先生 (8:30) (8:40)	(戸内感発表) 豊田基一氏(熊本県立花町立 佐敷小学校教諭) 大島伸一氏(福岡書店) 山口秀徳氏(大成建設 国産機 重具) (7:30) (8:30) (8:40)	映画鑑賞 (8:00) 恵霊祭の祝賀月 小柳左門氏(国立九州医療 センター) (8:30) (8:40)	班別別 短歌相互批評	
班別別研修 (10:00)	班別別研修 (10:00)	恵霊祭 (9:30) 班別別懇話会 (10:00)	班別別 短歌相互批評 (9:30)	
就床 消灯 (10:30)	就床 消灯 (10:30)	就床 消灯 (10:30)	夜の兼ひ (10:30)	



## 第三十九回 “合宿教室” のあらまし

第一日

(八月六日・土曜日)

雄大な阿蘇の五岳を望む「阿蘇の司・ピラパークホテル」において、第三十九回全国学生青年合宿教室は開催された。合宿教室の会場は二日前から現地に入った有志の学生たちによって設営され、「友よと呼べば友は来たりぬ！」の垂れ幕も張られた。全国各地から参集した学生・社会人は、この垂幕の言葉に胸を期待で膨ませながら受付を済ませ、各自の班室に向かひ、開会式に備へた。

### 開会式

参加者が一堂に会し、まづ九州国際大学法経学部四年の佐藤公治君によつて「開会宣言」がなされた。ついで壇上正面に掲げられた国旗を仰ぎつつ「国歌斉唱」が行はれた。続いて《平時戦時を問はず祖国日本のために貴い生命を捧げられたすべての祖先の御霊》に対し、一分間の黙禱をささげた。次に主催者を代表して国民文化研究会副理事長小柳陽太郎先生が登壇され「先人の懐ひを偲びその身になって考へるよう努めることはいつどの時代でも大事なことである。歴史の善悪を後世の価値観でもつて裁くのではなく、歴史の瞬間に参入して、心を通はすことが大切である。それは即ち友情に通じ、さらには学問にまでつながっていく。思索と友情は一体のものだ」と語られ、「心を開いて語り合ひ、耳を傾け合つて、生涯の友人を見いだすやうに全力をつくし、実り豊かな合宿であつて欲しい」と参加者の取組む姿勢について話された。ついで地元・熊本学園大学商学部三年の喜多村純君が参加者を代表して「お互ひに積極的に、

自分自身を見つめ直す機会になるよう努力しませう」と呼びかけた。

続くオリエンテーションでは、まづ合宿教室運営委員長の白濱裕氏（熊本県立第二高校教諭・43歳）が「心を開いて聞く、そして語る」といふ心構へで、相互に学び合ふ友として四泊五日の日程に参加しませう」と合宿の趣旨を説明された。続いて指揮班長の久保田真氏（熊本県立天草高校教諭・29歳）によって、合宿期間中の細部にわたる注意事項が伝達された。この後、直ちに参加者は六、八名で構成される各班に分かれて、合宿参加の動機や日頃から感じてゐること等を述べ合ふ「班別自己紹介」に移った。そして昨夏の合宿教室のレポートである『日本への回帰・第二十九集』の輪読から研修はスタートしていった。

## 合宿導入講義 「運命の大東亜戦争」

大阪府立交野高校教諭 絹田洋一 先生



先生は現在の日本の政治、外交、教育に関して、湾岸戦争時の政府の狼狽ぶりや、繰り返される最近の謝罪外交、学校での国旗・国歌の指導拒否を挙げて、「これはまともな国の状態ではない。日本がこんな無責任な国になってしまった原因は何か。それは大東亜戦争後の米国の占領政策に求められる」と述べられ、本論に入られた。

先生は、まづ戦争に引きずり込んだのは一般に言はれる日本の軍国主義者によるものだったのか、と問題提起され、開戦直前の日米交渉で戦争回避の為に懸命に努力を続けた日本と、参戦する為に「日本に先制攻撃させる策」を議論してゐた米国とを対比させ、「戦争に引きずり込んだのは、日本側ではなく、むしろ米国側である」と指摘された。

また、占領下に行はれた重大な事件として、神道指令と東京裁判を挙げられた。神道指令で大東亜戦争といふ呼称を禁止した背景に、「東亜の解放」といふ日本の大義名分を抹殺する目的があったことを指摘され、「東亜の解放」の理想は単なる看板ではなく、当時欧米の植民地下にあったアジア諸国から大東亜戦争に対する積極的な評価があったといふ事実を語ら

れた。東京裁判では、この戦争によって、一部の軍国主義者が戦争を引き起し、他の国々に迷惑をかけたものだといふ考へ——東京裁判史観——を我々に植まつけたもので、その本質は戦勝国の報復処置に過ぎなかつたと、その不当性について話された。

最後に日本がポツダム宣言受諾を決定した御前会議の模様を説明され、天皇陛下の御言葉や当時の人々の心情を紹介され、「間違つた戦争、侵略戦争と言ふのは単に言葉を弄んでゐるにすぎない。むしろ当時の日本人の思ひに心を寄せ、それを我々ものにする事が大切である」と話を締め括られた。

講義終了後、参加者は各班室に戻り、導入講義についての班別研修を行った。先づ皆で講義内容を確認し合ひ、その後、講師が一番伝へたかつたことは何か、どこが最も重要なことだつたかといふことに留意して討論が進められた。

尚、この班別研修は以後の各講義の後に行はれていった。全国から集まつた見ず知らずの班友を前にして、最初はやはり緊張のためか意見も少なく、発言も限られてゐたが、班員がお互ひに打ち解けるに従ひ、次第に発言も多くなり、時には反論し、時には共感し合ひながら、班員相互の心の交流が深められていった。

## 第二日

(八月七日・日曜日)

合宿の日程は「朝の集ひ」から始まる。阿蘇の山並みを望む広場には明治天皇御製の乗幕「さしのぼる朝日のごとくさはやかにもたまほしきはこころなりけり」が掲げられた。国旗掲揚、国歌斉唱の後、体操を行ひ、一日の研修を心新たに迎へた。

講義 「国際情勢をどう見るか——マスコミを信じるべきか——」

ジャーナリスト 徳 岡 孝 夫 先生

先生は、まづ、北朝鮮問題を取り上げられ、金日成の生前の功績をたたへるやうな最近の日本の論調を批判されて、「今日の東アジアは核を持った北朝鮮の指導者にハイジャックされた状態に似てゐる。ハイジャックの解決には、強行突破と話



し合ひが考へられるが、世の中は小学校のホームルームではなく、話し合ってもわからない人間がある。金日成は恐怖によって人を支配するテロリストにほかならなかった」と語られた。先生は、具体的に、朝鮮戦争や大韓航空機事件などへの北朝鮮の関与の事実を指摘され、「北朝鮮は嘘で固めた全体主義国家であり、独裁者は国民が自分で物事を考へることを許さない。北朝鮮の金日成父子の偶像是早晩崩れようが、そのとき洗脳された北朝鮮人民は大変ショックを受けることになろう」と語られた。

次に、本題であるマスコミの問題に入られ、「マスコミは何があつたかではなく、何があつてほしいかを報道するものだ」とマスコミの本質を喝破された。先生は、ご自身がかつて自由の本家とも言ふべき米国の大学院でジャーナリズムを学ばれたとき、「最初の授業で『言論は自由だが、満員の映画館で火事だと叫ぶ自由はない』といふ結論に頭をなぐられるやうな感動を受けた」と回顧され、これに比してニュースのショーアップに余念のない日本のテレビ報道を批判され、無責任・無節操な『やらせ報道』の實際を、ご自身の経験も踏まへつつ具体的に解説された。先生は「日本には新聞記者はをらず、新聞社員しかゐない。独立の気概をもつて前線に立ちつづける記者はゐない」と日本のジャーナリズムを痛烈に批判され、ご自身が体験されたベトナム戦争時の米国人のベテラン記者の感慨深いエピソードに触れられた。

最後に、「かうしたマスコミにどう対処すべきか。女子大生のやうに『テレビで言つてるから本当よ』といふのでは子供に過ぎない。雲の動きに天気を予想するやうな自らの経験に照らした世間智、大人の判断こそ求められると思ひます」と講義を締めくくられた。

さらに、その後の参加者からの質疑に応じて、「一番危険なのは我々が全体主義を敵と認識してゐないことです。平和には必ず敵がある。その敵に勝つためには我々にも平和を守るために死ぬ意思が求められます。平和な時代に口先で平和を叫ぶほど気楽なものはない。実際には日本が武装放棄したのは一日もなく、日米安保で守られてゐるから平和だったので、平和憲法が平和を守つたとはをこがましいにもほどがある。今のままでは日本の国も滅びるのではないか」と深い嘆きを語ら

れた。

講義 「其<sup>そ</sup>は『義眼』なるや、『肉眼』なるや——『本然の我』に立ち戻る日はいつか——」

神奈川県立厚木南高校教諭 山内健生 先生



先生は、はじめに、「今日の日本では、個人の幸福のみが最優先に考へられてゐる。しかし、個人の幸福は国家の自立なくして考へられず、両者は本来両立すべきものです。日本ではさういふ教育がなされず、今の政府はとりかへしのつかないことをしさうな危い状況にある」と指摘され、まづ、永野法相発言問題となつた所謂南京大虐殺をとりあげられた。先生は、当時の状況を原資料をもとに辿られ、ナチスの組織的・命令的・継続的なユダヤ人虐殺とは全く異なり、現場での一部分的混乱はあつたにせよ、組織的虐殺の根柢は何ら存在しないこと、また、最近の新聞はその点に気づき、巧妙な逃げを打ちつつ虐殺の印象のみを植ゑ付けようとしてゐることを鋭く指摘され、「当時に立ち返つて考へる努力をせず、今の論理で先人の行為を見ることが、思ひ上つた姿勢を作りあげてしまふことになる」と声を大にして語られた。

次に、戦後の占領軍の「ウォー・ギルト・インフォメーション・プログラム——戦争についての罪悪感を日本人の心に植ゑつけるための宣伝計画——」を解説され、東京裁判が国際法上の戦争状態の下での軍事裁判に外ならず、事後法の遡及など極めて不当なものであること、占領下の検閲は、被検閲者に検閲の存在自体を秘匿する義務を課し、その結果、被検閲者を占領軍と一種の共犯関係に入らせるといふ恐るべきシステムであつたことなどを指摘された。

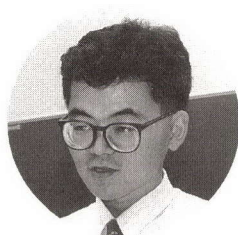
また、戦後の賠償問題に関して、全ての連合国五十五ヶ国とそれぞれ条約は結ばれてをり、相手国との合意の中で問題処理を積み重ねたこと、また、日本は誠実に賠償等の支払を済ませてをり、だからこそ昭和三十一年に国連加盟が承認されたことを話され、かうした戦中、戦後の国家的努力を無に帰するやうな現政府の安易に謝罪しようとする態度を厳しく批判さ

れ、講義を終へられた。

### 所感発表

初めに、熊本県芦北町立佐敷小学校教諭の養田誠一氏（熊本大学教育学部昭和61年卒）が登壇された。氏は以前勤務されてゐた全校六十人で、バスが一日に三台しか来ない所にある芦北町立丸米小学校での思ひ出を話された。氏はまづ学校の環境を、児童と一緒に作った俳句で紹介され、ついで温かい地域の人たちとの交流や、児童たちとの青少年赤十字の活動などを語られた。また氏は、教育訪華団に参加された時の体験を語られ、その感想として、「誇りを持つて自分の故郷や国を語ることのできる人づくりを目指して、教師は腹の底に力を入れ、性根を据えて、子どもたちに真の魂を吹き込んでいかなければならないと思ふ。そのためにも、学校と地域が連携を深め、互ひを信頼し、同じ方向性を持つて教育したい」と話された。最後に氏は、丸米小学校を去る前に児童たちの詠んだ歌と、ご自身が「丸米を去るにあたって」と題して詠まれた歌を紹介された。そして「十年たった今、本当にこの合宿に参加させて頂けて良かったと思つてゐます。学校で何か行き詰つたとき、ふと合宿の事を思ひ出し力づけられるのです」と話され、発表を終へられた。

次いで、(株)福武書店人財組織部に勤務されてゐる大島伸一氏（早稲田大学第一文学部平成4年卒）が登壇され、「自分が幸せだと感じる時」について語られた。氏はまづ、自分が幸せだと感じる時は、「心が満たされてゐて、活き活きとしてゐる時」と言はれ、「さういふ時間を一日の中で少しでも多く持ちたい」と話された。氏は具体的に充実感を感じた時として、「周りの方に支へられてゐると感じる時」、「人と心が通ひ合ふ時」、「自分の夢が叶ふ方向へ進んで行く時」の三つを挙げられ、ご自身の経験を話された。中でも二つ目の「人と心が通ひ合ふ時」は、「私が合宿を通じて学ばせて頂いた一つの財産」であり、「実際に社会人になつてすぐ自分の支へになつてゐると感じる時があります」と話された。また氏は学生の採用の仕事を担当してゐて感じることは、「若者らしく荒削りだけど破天荒で大きな夢を持った型破りな学生、熱意が満ち



溢れた学生になかなか会へないことだ」と語られ、夢を持ち、その夢の実現のためにこの合宿で出会った友達と切磋琢磨して頑張つてほしいと訴へられた。

最後に(株)大成建設に勤務されてゐる山口秀範氏(早稲田大学政経学部昭和47年卒)が登壇され、アメリカと日本の文化の違いや、契約に於ける常識の違いなどを(自身)の経験を通して語られた。また十四年間世界の一部を見て歩いた感想として、「日本を一度出ますと、なほさら祖国日本のことが懐かしく誇りに思ひたくなるものです」と話され、「懐かしく誇りに思ひたい祖国日本を外から見るときにこれだけは改めてもらひたいと思ふことがあります」と言はれ、無名戦士の墓を大事にすること、物を大切にすることを、そして大学の現状を変革していくことの三つを挙げられ、「尊敬されないまでも、外国から馬鹿にされない国にしようではありませんか」と訴へられた。最後に長年外国にゐて自分を支へてくれたものとして、家族、外国の地でできた新しい友達、そして学生の時から培ってきた友情の三つを挙げられた。氏は「歌を作るのは不思議なもので、歌を作ったときその歌を批評してくれるであろうと思はれる友達の顔が浮んでまゐります。ですから私にとっては歌を作るといふことが友達を思ふことと同じことでもあります」と語られ、発表を終へられた。

### 第三日

(八月八日・月曜日)

#### 講義

「日本における超越者思想の系譜——神教的価値観と日本人——」

明星大学教授・東京大学名誉教授・文学博士 小堀桂一郎 先生

先生はまづ、夏目漱石の大正四年の講演『私の個人主義』について触れられ、漱石が英国留学中に苦悩を続けた末、価値



評価の基準として「自己本位」の立場を発見したと述べられた。

さらに福沢諭吉、森鷗外、和辻哲郎らに言及され、「明治、大正期に『個人主義』観は重層的に研究し尽くされ、近代的倫理を完成した。また、この頃、日本は不平等条約を改正して立憲君主制の一等国となり、日本は内面的にも外面的にも近代化の達成に成功したと考へられた」と概説された。

しかし、大東亜戦争後の戦争裁判を通じて「個人」の道徳的責任の問題が論議され、またルー・ス・ベネディクトの『菊と刀』の「罪の文化と恥の文化」の概念が普及するに及んで、唯一神Godの存在を欠く日本には、真の「個人主義」は成立し得ないのではないかといふ議論が行はれるやうになった。そして、教育においても「教育勅語」に代つて「個性尊重、人格完成」といつた空虚な理念が横行するに至つたことを指摘され、「ここで私たちが、日本の精神伝統を信じ、我々の道徳に自信を持つこと、キリスト教徒の一神教的価値観の持つ強さに対抗できること、それが重大な問題である」と強調された。

続いて先生は、三島由紀夫氏が提唱した『文化防衛』の概念を紹介され、「四百年前、我々の先祖はキリスト教徒の文化攻勢に対し、自らの本質を損なふことなく、文化の多様性を増すといふ形で勝利を収めたが、戦後の日本は民族のアイデンティティを喪失しつつあるといふ点で、敗北の過程にあるのではないか」と述べられた。そして、日本は、多神教文化圏に属し、キリスト教文化圏の国々のやうに「根源的超越者」を持たないこと、そのため共有の価値がなく、他国との協力はおろか、国内の精神的統合もままならないこと、従つて、我が国の『文化防衛』のためには、「根源的超越者」に相当するものを探し出す必要があることを訴へられた。

最後に先生は、日本人が共有できる根源的価値として、西郷隆盛の「敬天愛人」、福沢諭吉の「天ハ人ノ上ニ人ヲ造ラズ」、夏目漱石の「則天去私」等にある「天」といふ言葉に注目され、「天照大神以来、千五百年間、日本人は『天』を道徳の根源として意識して来た。皆さんにとつて『天』とは何かを考へてみて下さい」と課題を提示され、ご講義を締め括られた。



福岡県立水産高校教諭 菅原亨二先生



先生はまづ、「今合宿の大切な目的のひとつに短歌を作ることがあります。この後のレクリエーションの時間も、短歌を作るのだといふ気持ちで参加すれば、今までと違ったものの見方ができると思ひます」と前置きされ、ご自身の合宿教室の体験から「歌を作ることは友を思ふことと同じであり、相互批評で自分が作った歌を皆で気持ちを汲んで語り合ひながら修正していく作業の中で、自分の気持ちにびつたりとくる歌ができ上がったときの嬉しさは何とも言へないものがある」と話された。

更に、水産高校の教員として生徒と共に乗船実習に出られた際に生徒が作った歌を、その時々の様子や状況を交へながら紹介されてゆき、短歌を通して人の素直な心の動きに触れ得た喜びを話された。

その後、短歌の作り方として、素直な感情のままに詠んでいくことの大切さを語られ、長い歴史と伝統を持つ文語体表現の意義、歴史的仮名遣ひでなければならぬ理由等を説明してゆかれた。

最後に、「誰にでも短歌は必ず作れます」と皆を励まされて話を結ばれた。

## レクリエーション

レクリエーションは当初、合宿地近くにある丘・「贄塚」への散策が予定されてゐたが、短歌創作導入講義の最中に雨雲が広がり、雷鳴が轟き始めた。雷をともしなふ夕立がきたときに、丘の上では避難する場所がないため、やむなく「贄塚」散策は取り止めとなった。

参加者はそれぞれの班に別れ、合宿地近くの「熊牧場」やホテル周辺を思ひ思ひに散策した。なかには諦め切れずに、夕立を覚悟で

「贅塚」へ向ふ班もあつた。幸ひ雨も降らず、丘の上から望む阿蘇の雄大な景色を見て、短歌を作る参加者の姿もみられた。

## 映画鑑賞

「皇室と日本人―現代に生きる伝統の心」を鑑賞するにあつて、石井雅晴氏（大分県立日田高校教諭40歳）による説明が行はれた。氏は留意事項として「わが国の美しい伝統として培はれてきた『皇室と国民との理想的な関係』とはどういふものか」、「なぜわが国の皇室は永く引き継がれてきたのか」、「古来から伝へられてきた『神話に語られた理想』とは何か」、「皇位継承の儀式で最も重要といはれる『大嘗祭』にはどのやうな意味がこめられてゐるのだろうか」の四点を挙げられた。映画は「古い歴史をもつ日本の伝統文化とは一体どのやうなものだろうか、それらは皇室とどのやうに関はつてゐるのだろうか」といふことについて儀式や伝統など様々な観点から考へてみようとするものであつた。神話や皇室伝統の世界に初めて触れる参加者も多く、戸惑つた様子も見られたが、皆一同に日本に生きる伝統の素晴らしさを再認識したやうであつた。

## 慰霊祭

先づ小柳左門氏（国立病院九州医療センター循環器センター長47歳）によつて慰霊祭の意義と祭式の説明が行はれた。小柳氏は阿蘇に向かふ途中で見た美しい水田風景や台風のために無惨な姿になつた杉林を例に引かれながら、「この美しい日本の風景も私達の祖先が祈りを込めて形づくつて来たものです。しかしこれも一瞬のうちに崩される時がある。日本の国も私達の心の中に国を守つていかうといふ気持が失なはれた時には失なはれてしまふのではないでせうか。私達は自分といふ存在が祖先から連綿と続く命の果てにあることに気付き、祖先に思ひを馳せてみる必要がある」と慰霊の意義についてわかりやすく説明された。その後、参加者は屋外に設けられた祭場に整列し、厳肅なる慰霊祭が執り行はれた。先づ、長内俊平先生（本会常務理事事務局長）による和歌朗詠と松吉基順先生（本会監事）によるお祓ひが行はれ、関正臣先生（本会参与）の警蹕が響く中、一同最敬礼を以て戦時平時を問はず祖国の為に尊い命を捧

げられた全ての祖先の御霊をお迎へした。海と山の幸をお供へし、古川修氏（本会理事）が祭文を奏上、澤部壽孫氏（本会理事）が明治天皇、昭和天皇、今上陛下の御製を拝誦した。そして小田村寅二郎先生（本会理事長）の玉串奉奠と共に一同が御霊に対して拝礼し、「海ゆかば」を斉唱した。撤饌の後、再び警蹕が響く中、最敬礼を以て御霊をお送りし、直会にて御神酒を頂き、慰霊祭を終へた。

## 祭文

平成六年八月八日 われら第三十九回全国学生青年合宿教室に集ひ学べる者らこぞりて ここ火の国阿蘇の根子岳・高岳・中岳をはじめとする秀峰の麓 さやけき草原を齋庭と定め きよめまつりて とこしえにみ国まもります遠つみ祖たち またみ国のために尊きみのちをささげまししあまたのはらから達のみ霊を招きまつり なくさめまつらむとみ祭仕へまつらむとす

今宵み空はるけく神のみ霊うつしくわれらが上のみぞみまします 顧れば 戦火おさまりて四十九年の歲月矢の如く過ぎ去り わが国の世界における地位はいよいよ高まりゆけども ことにこの一年の政治・外交 千々に乱れ み国の行末 誠に危ふき道をさまよへるがごときかと 胸ふさがれ憂ひやますばかりなり

されど われらここに集へるものたちはみな この美しき大和島根の遠き古へより今にいたる歴史を正しく学び み祖たちのきびしくも またおほらかなるみ心をしのびまつり おぞましき東京裁判史観をことごとく打ちくだき 学びのにはに 教へのににはに また言論の分野に政治・法律・実業のすみずみにまで積もりなす世のまがごとのことごとを 打ちてしやまむと誓ひまつらむ

天がけるみ祖のみたまよ 願はくはわれらのゆくてをまもらせ給へと 合宿教室参加者一同に代り 古川 修 謹み敬ひ畏み畏み白す

明治天皇御製

友

もろともにたすけかはしてむつびあふ友ぞ世に立つ力なるべき

明治三十六年

孝

たらちねの親につかへてまめなるが人のまことの始なりけり

明治四十年

歌

まごころをうたひあげたる言の葉はひとたびきけば忘れざりけり

明治四十一年

蟲聲非一

さまざまの蟲のこゑにもしられけりいきとしいける物のおもひは

明治四十四年

心

いかならむことある時もうつせみの人の心よゆたかならなむ

明治四十五年

昭和天皇御製

社頭の雪

ふる雪にこころきよめて安らけき世をこそいのれ神のひろまへ

昭和六年

戦災地視察

戦のわざはひうけし国民をおもふこころにいでたちてきぬ

昭和二十一年

わざわひをわすれてわれを出むかふる民の心をうれしとぞ思ふ  
国をおこすもとるとみえてなりはひにいそしむ民の姿たのもし

那須の秋の庭

あかげらの叩く音するあさまだき音たえてさびしうつりしならむ

昭和六十三年

今上陛下御製

沖繩平和祈念堂前

平成五年

激しかりし戦場の跡眺むれば平らけき海その果てに見ゆ

勤勞奉仕の人々に会ひて

平成五年

地方より奉仕作業に來し人に痛みつつ聞く長雨のわざ

第四日

(八月九日・火曜日)

講義 「近・現代(一八四四～一九九四)百五十年間の日本の歩みの中で天皇と大部分の日本国民は、

どのような思ひで相對して來たか」

(社)国民文化研究会・理事長 元垂細亜大学教授 小田村 寅二郎 先生

先生はまづ、文芸評論家・江藤淳氏の『諸君!』平成六年七月号に掲載された文章『十二歳の宰相たち』について触れられ「明治時代から大東亜戦争終戦までの日本の歴史は悪であり、これを帳消しにしてしまはう、さうした考へが教育界にも政界にも充滿してゐるのは何とも残念だ。この残念な思ひを若い人に伝へるには、近・現代の日本の歴史の中で天皇と国民がどのやうに相對してきたかをお話するしかない」と述べられた。

始めに先生は、幕末の時代に在位なさつてゐた孝明天皇の御文章『御述懐一帖』を示された。この御文章は当時の動亂の時局の推移と、それに対する孝明天皇のお考へを書き留め、僅かな近臣に示されたものである。先生は、語句の意味を逐一解説なさりながら御文章を読んでゆかれたが、君民一体となつて国難に立ち向かはむとされる孝明天皇の強いご意志が伝はつて來るものであり、「この文章を読めば、孝明天皇といふ方がどのやうな御心を持つて日々を過ごしてをられたかがよく

分かるでせう。かういふ貴重な文章が歴史の中に埋もれてゐるのは本当にもつたいない」といふ先生のお言葉は参加者の胸に響いた。さらに先生は、国の行く末を案じられ、国民の幸福を願はれる御心を詠まれた孝明天皇の御製數首を拝誦され、「このやうな御製は当時の日本中に伝はつてゆき、それらを見聞きした国民は天皇のお気持ちを知り感動の渦に入つていたのである。これこそ『君民一体』といふ環境が実在したこと十分な根拠と言へる」と訴へられた。

続いて先生は、臣側の代表として吉田松陰をあげられ、松陰の『対策一道』を示された。そして、「松陰は日本の対外進出について具体的な堂々たる見識を持つてゐた。これは孝明天皇のご見識と結びつくものであり、これが国を守る力となつた」と語られた。

次に先生は、明治維新が成り、明治天皇が御即位されてから發布された「五箇條の御誓文」や『大日本帝国憲法』における『三つの前文』、また「教育勅語」を示され、これらの御誓文・憲法・勅語が明治天皇のどのやうな御心から出されたものなのかを原文に即しながら話してゆかれた。即ち、「五箇條の御誓文」においては「朕躬ヲ以テ衆ニ先ンジ天地神明ニ誓ヒ」とあるやうに、この御誓文は天皇が国民に対して誓はれたのではなく、御祖先の御靈に對しお誓ひ申し上げたものであることを指摘された。また、「大日本帝国憲法」は、国民に對し上から押し付けた憲法だと論じられることがあるが、「發布の勅語」をよく読めば、明治天皇が御祖先と、そして、その御祖先のもとで国のために忠を尽くした臣民に思ひを致され、厳然とした御心で明治の国民に向かはれ、「相與ニ和衷協同シ」、「祖宗ノ偉業ヲ永久ニ鞏固ナラシム」ご決意でこの憲法を宣布されたことが明白であることを力強くお話しになつた。

先生は、ご講義の最中、居眠りをしてゐる学生に對し、「君、起きたまへ。僕の顔を見なさい。大事な話をしてゐるんだよ」と叱責されながら渾身の力を込められてお話をなさつたのである。

講話 「若き友らへ語りかける言葉―物を観る眼―」

(社)国民文化研究会・常務理事兼事務局長 長内俊平 先生

先生は先づ、学問をするとは明確な疑問を胸に抱き続けるといふことであり、二十年以上もの間「美しいものを、何故美しいと感じるのか」といふ疑問を抱き続けられた御自身のご経験を語られた。そしてその答へとして、錦江湾を船で渡る折に地平に夕陽が落ち、空も海も山も赤く染められてゐるのを御覧になり、「一木一草が神そのものであり、その神の命と自分の心とが火花を散らすやうに感応する時に美が生まれるのである」と気づかれたお話をされた。それは結局のところ物を観る自分の心を清め深めるしかないといふことであり、そのために自分自身を見つめること、そこで自分の運命を勇氣を持ち受け入れることや、両親を素直に想ふことが大切であると話された。

また、「物を観る目」を持つことが大切であるが、それは人に元來備わつてゐるが成長するにつれくもつてしまふものであると指摘され、人の心は飾らうとしなければ美しいものであつて、精神を集中し散乱やグチなどを取り払へば「まごころ」や「おさなごころ」が輝いて来ると言はれた。そしてそのためには、決まった方法といふものはなく、「自分の工夫とたゆまぬ努力」が求められると述べられた。

創作短歌全体批評

福岡市立奈多小学校教諭 是松秀文 先生

先生は最初に、短歌相互批評の意義について「優劣を競ふものではなく短歌に表れてゐる作者の心情を正確に辿り、温かく推し量るといふ態度が大切なのです」と話された。そして、合宿で心が開かれた感動を詠んだ歌、真剣に自分の話を聴いてくれた友だちのことを詠んだ歌、子馬を見て幼い頃を思ひ出した歌等々を取り上げられて「無駄な言葉を省いて必要な言葉を選ぶ」、「焦点をはっきりさせて他の人が読んでもわかるやうに正確に詠む」など短歌を詠む際に大切なことや用語や文

法の誤りを指摘されつつ、作者の気持ちを推し量りながら、作者の心情や実際に見た情景に合ふやうに一つ一つの言葉を丁寧に選ばれて添削してゆかれた。

御講義は時に笑ひの起こる和やかな雰囲気が進み、初めて歌を詠んだ多くの参加者たちも自分達の歌が先生の手によって直されてゆくのに聴き入った。

夕食後、班別短歌相互批評が行はれた。各班毎に全員が班員一人一人の歌に心を寄せて思ひを述べ合ふ中から、心の通った研鑽の場が生み出されていった。

## 夜の集ひ

厳しい日程を消化してきた参加者も、この時ばかりは大いに宴に興じた。

今年もまた、坂東一男氏（アサヒビール飲料（株）取締役）のご厚意によるビールが届けられた。

班ごとに、大学ごとに、様々のグループが登場し、寸暇を利用して練習したとつておきの出し物を披露した。会場は時に爆笑し、時に喝采し、大いに盛り上がった。

「神州不滅」、「進めこの道」の合唱によつて宴が閉ぢられた後も、各班室に戻つて最後の夜の尽きぬ思ひを、夜の更けるのも忘れて語り合った。



合宿を顧みて

合宿教室運営委員長・熊本県立第二高校教諭 白濱 裕 氏

氏は、合宿の開会式からの四泊五日を振り返へられ「わづか四泊五日前のことなのに、ずいぶん昔のことのやうに思はれる」と述べられ「それはこの合宿においての精神生活が大変激しい、動乱のものであったからではないでせうか」と語られた。そして「人間はいつも緊張してゐるわけにはいきませんが、真面目になるときは真面目にならなくてはいけない」と続けられ、友人と本当に自分の人生の大事について、国の運命に関して、真剣に語りあふことの大切さを語られた。また、諸先生方の講義について「東京裁判、大東亜戦争、知らなかった史実、見方考へ方、教科書に載つてゐない、あるひは教はつてゐない、隠された真実に関してつぎつぎに問題提起をして下さいました。皆さんは、その中で百八十度今までの自分の考へ方といふものが、ひっくり返された様な感じがするのではないでせうか。さういふ時にどういふ対応をすべきなのか」と言はれ、「物の見方や考へ方を、誰かが与へてくれるのを口を開けて待つてゐる様では、いつまで経つても自分の考へ方なり生き方を探し当てることはできない。もし、ここで話されたことがおかしと思はれたなら、そこから自分の勉強をスタートさせて頂きたい」と述べられた。また「長内先生のおっしゃる『まごころ』、『幼心』を取り戻すこと、ひたすら人の話に耳を傾け、そして『まごころ』を感得することが、最大の眼目としてこの合宿が営まれてゐる」と語られた。また、小田村先生がご講義の中で話された「孝明天皇の御製」を引用されると同時に、自らの経験を通して本當の友について熱弁され「今からでも遅くはない、この合宿において生涯の友、「不請の友」をぜひ得てほしい」と語られた。

## 全体感想自由発表

合宿教室最終日、今や全ての日程を終へようとしてゐる。参加者がこの四泊五日の合宿を通して抱いた思ひを、限られた時間の中で発表する全体感想自由発表の時間となった。司会者が発表を呼び掛けると、最初は自分の思ひを纏まとめる為に、手が挙るのに時間を要したが、後半からは次々に登壇し、自らの思ひを参加者の前で語った。講義に対する感想としては、小田村先生の孝明天皇の御文章を基にされたお話について、「何事も一所懸命にしよう」と身が引締る思ひがした」といふ感想や、長内先生の心に語りかけられるやうな講義では、「素直に親を思ふ心の大切さを感じ、自分の今迄の行動を反省した」また、明治の文豪や宗教に触れられた小堀先生の講義については、「天に就いて考へていきたい」との感想が述べられた。寢食を共にし乍らの班研修、班生活については、「自分の意見ばかり云つて反省してゐる」「意見を真面目に聴いて貰つて感動した」「色々話をして楽しく過す事が出来て良かった」「真剣に生きてゐる仲間を見て自分も頑張ろうと思つた」「後半から昔からの友達と話す様に感じられて来た」等の意見があつた。合宿を終るに当り、「生まれ変わった様ない気分」「一番頭を使つた時期」と云つた感想の他、「日本人として知っておかなくてはならない事実を今回の合宿で知る事が出来た」「何かあつた時、日本人で良かったと思へたら幸せではないか」「正しい日本文化を知り、素晴らしい日本文化を護り伝えていきたい」といふ主張もあつた。「悪い事をする為に、どうして自分の命を捧げる事が出来ませうか」と英霊の鎮れる靖國神社の危機を憂ひ、今後の決意を訴へる友もゐた。「また来たい」と発言した人もをり、中には胸を詰らせ乍ら、或は涙を堪こらへつ、発表してくれた人もゐた。皆率直な氣持を正直に語つてくれ、参加者一同、胸を打たれる思ひで聴き入つた一時間半であつた。

## 閉会式

四泊五日の合宿教室もいよいよ閉会式となった。参加者は各班において感想文執筆又最後の班別懇談を終へ、講義室に集合した。

国歌斉唱後、参加者を代表して早稲田大学政経学部四年伊藤華恵さんが登壇し、「私にとつてこの合宿は、年に一度自分の大切な場所に帰って来て、自分をもう一度確認し直し、新たに一年間頑張つていく力を与えられる場所だと思ひます。そして又、この合宿に参加すると本当に日本に伝はる美しいものが感じられてきます。さらに歴史といふものは単に記録ではなく、人の思ひがこめられたもの、先人が思ひを託されたものだと感じられるのです。私は日本の国が好きです。なぜ好きかと問はれたならば、今はこの国に生まれたから好きですとしか答へられませんが、長内先生の語られたやうに『私を見て下さい』と言へるやう、これからも自分の心を高める勉強を続けたいと思ひます。来年も厚木の地で皆さま方と会へることを心待ちにしてをります」と挨拶した。

ひき続き主催者を代表して国民文化研究会副理事長千代田コンサルタント代表取締役専務上村和男氏が「本当に日本は素晴らしい国であると思ひます。そこで皆さんに、もう一步突き進んで国のことに思ひを馳せて頂きたいと思ふのです。我々は、祖先の創られた日本の国のかたちといふものを守つて行かなければならないのです」と述べられた後、三井甲之先生の『心知る友と語れば心かみ流るる涙止めかねつも』の歌をとりあげられて、「かういふ友情関係の構築に向かつて一所懸命やらうではありませんか。本当に手を携へてこの国を良い国にしませう」と話を結ばれた。

続いて『神州不滅』を全員で斉唱後、関西学院大学文学部三年竹岡淳君が閉会宣言を行ひ、閉会式を終へた。最後に合宿教室の参加者の今後の活躍を期して『進めこの道』を斉唱し合宿教室は無事全日程を終了した。

助言者の紹介

元 日特金属工業(株) 常務取締役	加納 祐五	厚木市教育委員会 七沢自然教室参事兼所長	吉澤 涌介
(株)中央塩ビ製作所 代表取締役会長	星野 貢	(株)BBS金明 代表取締役	中田 一義
尚綱学園 監事	徳永 正巳	中島法律事務所 弁護士	中島 繁樹
不動産鑑定士	松吉 基順	国立病院九州医療センター 循環器センター長	小柳 左門
日商岩井(株) ガス・石炭本部 副本部長	澤部 壽孫	熊本市役所 保健衛生局生活環境事業部事業管理課	折田 豊生
橋本フォージング工業(株) 営業本部部长	古川 修	福岡県立太宰府高等学校 教諭	占部 賢志
新日本製鐵(株) 機械プラント事業部機械製造素形材部次長	今林 賢郁	熊本県立球磨農業高等学校 教諭	田之上正明
神奈川県立厚木南高等学校 教諭	山内 健生	山口県立高森高等学校 教諭	寶邊矢太郎
(株)講談社 広告局次長兼広告企画部長	磯貝 保博	大牟田市立橘中学校 教諭	西原 正博
東急建設(株) 東京支店建築施工工務部次長	奥富 修一	久留米大学附設高等学校 教諭	名和 長泰
(株)公正不動産 代表	安東 祐範	福岡県立福岡高等学校(定時制) 教諭	藤 寛明
元 法政大学人事部長	香川 亮二	長崎中央郵便局 郵便課総務主任	橋本 公明
舞岡八幡宮 宮司	關 正臣	大分県立日田高等学校 教諭	石井 雅晴
東京短資(株) 顧問・元 行政管理庁事務次官	小田村四郎	福岡市立原小学校 主任主事	奈田 明憲
福岡県民教育協議会 事務局長	小林 國男	(株)日本興業銀行 証券部調査課副参事	小柳志乃夫
浄土真宗本願寺派 沼田組光隆寺	岡棟 猛	福岡大学病院 精神科助手	古井 博明
元 サンデン交通(株) 取締役	加藤 善之	北九州市立八幡病院 放射線科診療放射線技師	森田 仁士
百武学園専門学校 講師	関口 靖枝	日産自動車(株) 宇宙航空事業部営業部	内海 勝彦
航空自衛隊 航空教育隊生徒隊第一教育科 教諭	村山 寿彦	安川情報システム(株) 管理部	松田 隆
宗教法人 乃木神社 祓宜	松吉 宣和	大矢野町立大矢野中学校 教諭	松岡 幹雄
新技術事業団 管理部 参事役	野間口行正	熊本赤十字病院 外科医師	福田 誠
拓殖大学 外国語学部英米語学科 教授	松本 幹男	出光興産(株) 店主室	松岡 隆
小田原市立富水小学校 教諭	岩越 豊雄	福岡県立須恵高等学校 教諭	那須 秀明
		(株)日立製作所エネルギー研究所第三部三〇ユニット研究員	松井 哲也

靖国神社 遊就館部史料課長

タマポリ(株) ラミネート営業部

熊本製粉(株) 不動産部

南国殖産(株) 経理部経理課

尚綱高等学校 講師

福岡県立春日高等学校 教諭

熊本県立第二高等学校 教諭

安信住宅販売(株) 新宿センター

福岡県立玄界高等学校 教諭

金文図書出版販売(株) 青雲学館

神奈川県立津久井高等学校 (定時制) 教諭

船橋市立法典東小学校 教諭

熊本地方法務局 八代支局

小諸市役所 建設部建設課管理係 主事

愛媛県商工労働部総務商工課 主事

熊本市立楠中学校 教諭

株RKKコンピュータサービス 第二事業部システム課

熊本交通センター 経営企画室

甘木公共職業安定所

株神戸製鋼所 資材部機械室

(株)興人 八代工場研究部

宗像市役所 総務部情報管理課 主事

大山 晋悟

吉川 理夫

吉村 浩之

京田 清人

大塚 千春

與島 誠央

今村 武人

松吉 基光

日比生哲也

竹内 昭彦

大日方 学

竹内 孝彦

徳田 恒稔

中澤 榮二

島生 秀雄

坂本 太郎

久保田 真

寺岡 伸純

清水久仁子

古川 広治

北村 公一

高藤 誠

五和町立御領小学校 講師

合宿運営委員

指 揮 班

事 務 局

写 真 班

放送・記録班

名和 長泰・徳田 恒稔・高倉 庸輔

大島 啓子・蘇原 幸枝 (本会職員)

大妻女子大学嵐山女子高等学校三年

湯前町立湯前中学校三年

慶応義塾湘南藤沢中等部二年

松吉 基光・森田 仁士・藤 寛明

田上富美子

白濱 裕・吉村 浩之・吉川 理夫

京田 清人・與島 誠央・折田 豊生

久保田 真・坂本 太郎・中澤 榮二

寺岡 伸純・高藤 誠・島生 秀雄

日比生哲也・濱地賢太郎

小林 祐子

田之上 滝

山口 蝶子

高倉 庸輔

田苗安希子



# 走り書きの感想文集

(各班別に収録)



これは閉会間ぎはの一時間余で参加者全員に、四泊五日間の感想を走り書きで書いてもらったものです。「仮名遣ひ」は原文のまま掲載してあります。

なほ、各人の感想文の末尾に小さい活字で載せられてゐる和歌は、この感想文とともに提出された第二回目的のものです。

## 第一班—男子学生—

### 視野が広がった

(第一経済大学 経 一年 八波幸司)

この合宿に参加して大変視野が広がって、自分のためになつたと思ひました。全国津々浦々から集まつた人たちの考へ方や思想などが千差万別であり、色々なことを学ぶことが出来ました。講義内容も普段友達と話しもしないことをよく学べ、合宿に参加したことによつて、大量に知識を増すことができました。その上、天皇制や第二次世界大戦のことなど、普段忘れがちなことを、みんなで真剣に語り合つたことも新たな驚きでした。

来年も参加し、知識を広げ、友情を深めようと思ひます。  
班友と共にすこせし五日間もはやてのごとく過ぎゆきにけり

### 先祖を敬う意味を知った

(金沢大学 文 一年 熊谷真利)

今まで事実であると教えられていた事を突然「それはまちがっている」と言われれば、反発したくなるのは当然である。四泊五日の短い期間で、今まで積み重ねてきたものがひっくり返されるような気がして、私にとってはつらい経験であった。私は、むずかしい理屈抜きで自分の生まれた「日本」と

いう国が大好きである。先祖を敬うことも、これといった理由もなく、祖父・祖母をはじめ父、母に教えられ、行なってきた。その行為の意味を知つたという点で、今回の合宿は有意義であった。

緑燃ゆ五岳を前にわれ思ふいつか必ずのほつてやるぞと

### 合宿で学んだ三つの事

(長崎大学 経 三年 悦 真彰)

ここに来て学んだことが三つある。一つ目は、父母を大切にしなければならぬということ。二つ目は、新聞などのマス・メディアを完全に信じてはいけぬということ。三つ目は、他人の意見に、しっかりと耳を傾けねばならないということだ。

最後に、この合宿で共に学んだ親友に感謝したい。

合宿で共に学びし仲間たちよみんな元気とともに励まん

### 真剣なディスカッション

(中央大学 法 三年 京極士朗)

参加していちばん印象に残つたことは、班別研修です。今まであんな真剣にディスカッションしたことはなく、初めての事でした。年齢とか関係なく思ったことをそのまま話せるというのはいへんよかったです。又、短歌の批評を班別でやった時、自分の不細工な作品をみんなが一生懸命考えてくれて、イメージ通りのいい作品が残せたこともよい思い出



なりました。

来年も知識をもっと増やしてやって来ようと思います。

阿蘇の地に何も分らず来し日からはやすぎにけり四泊五日

## 自分を鍛える

(拓殖大学 外国語 四年 高橋卓哉)

様々な先生方が私達に対して熱心に講義をして下さった。情報としての新しい発見はあったが、それ以上のことはあまり考えられなかった。しかし、一つだけ自分自身の中で確信することがあった。それは、情報はすべてが正しいのではなく、自分に必要であり、正しいと思うものを選択することが大事であるということである。あらためて、自分を鍛えるしかないという気持ちをもった。

最後に、この合宿で知り合うことのできたすばらしい仲間  
に感謝したい。

班友と本音で語らふ討論に時はすぎゆき真夜中の二時

## 課題に取りくんでゆきたい

(中央大学 文 四年 草野直樹)

白浜先輩のお話の中の「今の皆さんの頭の中は、おもちゃ箱をひっくり返したやうでせう」とのお言葉のままに、数多くの課題がまともでないまま自分の中に残った。今は混乱してゐる言葉にならないが、一緒に参加した友人との語らひのなかで、又、日常生活の中で、一つ一つ自分なりにまとめ、



全国各地より続々と参加者が到着する。受付で名札と資料袋を受取ってから、各自の班室へと向かふ。

カメラ・レポート1

取り組んでゆきたい。

京極君へ

うちつけに友と語らふ喜びを初めて創りし歌に詠まれり

## 第二班

男子学生一

心の窓が開かれていった

(拓殖大学 外国 二年 宮澤朝晃)

合宿が始まると、予想どおり、息苦しさを覚えずにはいられませんでした。しかし、日が進むにつれて班員とも親しくなり除々に班別研修がおもしろくなって行きました。そして難解に感じられた先生方のお話も友と語り合うことで分かるようになりました。私は、四日間の研修で心の窓を一つまた一つと開いていく自分を見つけられたような感じでした。短歌相互批評では、友の短歌創作にあたった気持ちを実感に感じとり皆それぞれ悪戦苦闘しながらも知恵を絞って相互批評をしました。この合宿で短歌を詠み終えた後のあの筆舌に尽くし難い感動を知ることができました。私はこのような、世界にも類をみない、これほど短い言葉で心を表現することができると和歌を持つ日本の文化に、誇りを持ってたような気がします。

曙に目をこすりつつ外に出れば美しきかな阿蘇の山々

旅支度心進まず来たれども時の過ぐるははやきものかな

講義で背すじの正される思いがした

(日本大学 農獣医 二年 安東高明)

相手の気持ちを理解すること、そして自分の気持ちを明確にすることの難しさを痛感した。しかし真剣に自分の気持ちを語り、そして相手の話を聞き、又相手も自分の思いに答えてくれる。そんな班友と四泊五日を過ごすことが出来た事を本当にうれしく思います。又、講義においては先生方お一人お一人が真剣に現在の日本を心配し憂国の情を我々にぶつけて頂き本当に背すじの正される思いがいたしました。国際時代であると言われる今日、非常に国を無視あるいは軽視したボーダーレスな人間の多い事に気づかされます。そういった風潮に流されず、日本の美しさとは何たるかを本当に理解出来、小堀先生のおっしゃられる日本の「天」とは何たるかを常々心がけ自国を背負った人間になれる様頑張って行きたいと思えます。

長内先生の御講話を聞いて

清らなる幼な心を持ちてこそ美しさ見ゆと師はのたまひぬ

八月十日、朝の集ひにて

風そよぐ大空の下ひるがへる日本の旗の麗しきかな

慰霊祭にて

日の本のいしずえとなりし益良夫の声なき声に背すじ正さる

## 「勇気」を与えられた

(明星大学 日本文化 二年 大屋 淳)

この合宿で最も自分に与えられたものはただ一つ「勇気」だ。私は父親が外科医でよく病気で亡くなった人の話を聞かされていたせいも、幼少の頃から「生命」や「死」についての強い関心と恐れを抱いていた。そして成長するにつれて「死」に対する恐怖心や「なぜ人は生きるのか」という疑問が増大し、半ば無気力になっていた。セミナーが始まり、感じたことは何よりも長内先生の言われた「自分の運命を勇気をもって受けとり、自分自身をみつめ、まごころをつくせば物の本質が見えてくる」と言われた時、これまでの恐怖心や疑問に一筋の光がさし、鼻血が出るほどの興奮が体を駆けめぐり、「勇気」が与えられたのであった。

長内先生の御講話をきいて

師のことは雷のごとく輝けば我が心にも鳥肌を立つ

### 学んだことを糧にして前へ進んでいきたい

(宮崎産業経営大学 経 三年 丸田武史)

先づ恐怖感だけを強く持って初日を迎えた。無関係だと言われてはいたが、やはり知識や偏差値を考えないことはできなかった。しかし日程のほとんどを終え、そんな恐怖感は吹っ飛んでいることに気づいている。五日間のうちに恐怖感が消えたのは実際に真剣に人と接したからだと思う。やはり無用

## カメラ・レポート2



主催者を代表して、国民文化研究会副理事長・小柳陽太郎先生が「この合宿では、心を開いて語り合ひ耳を傾け合つて、生涯の友人を見出すやうに全力をつくして下さい」と挨拶された。

のものは無用であつたし、そんなものを持つてゐることが逆に恐ろしくなつた。僕は班別研修において一言も自分の意見を述べていない。喋つたのは疑問点と感想だけだつた。それでも僕としての第一歩はよかつたと思う。講義から学んだことは少ない。それは本當なのだが合宿で得たことはあまりに多い。国家について文化についてなどは正直なところまだ考へることはできない。だがそこに踏み込むための材料は生活や友達から学んだつもりだ。他の人よりは遅いのは明らかであるが学んだことを糧にして前へ進んでいきたい。最後に、参加しなければ会うことのできない友達に会えたのは僕にとっての感動だつた。

合宿を終へて友らと語らへば疲れし日々の想ひ起こさるる

## 国旗掲揚を行なえた

(熊本学園大学 商 三年 濱口知久)

今合宿中に最も印象に残つた出来事は何といつても国旗の掲揚を行なつたことです。たしかに昔からかつこいい役目だと思つてはいましたが、やはりこの気持ちを決定づけたのは防大の卒業式を見に行つたからです。防大の学生さんが国旗を掲揚される姿が非常にすばらしく感動したからです。しかし、私は国旗に関しての知識は他の皆さんに比べたらほとんどもつておらず不安がありました。ですがそのような数々のきまりは係の先生方がていねいに教えてくれました。実際、朝のつどいで行なつてみて非常に緊張はしましたが、なんと

かちゃんとやれたと思います。あの時見た防大の学生さんのようにかつこよくとはいきませんでした。が、国旗の尊さをわからせてくれたよい出来事だと思いました。

日の丸を尊ぶ心学ぶこと一つだけでも得たもの多し  
日の丸をながめし私の心には国を憂ふる気持ち起れり

## 清々しい思ひが芽生えて来た

(専修大学 経 四年 田中泰行)

厳しい合宿ではありましたが、日本人の美德である礼儀・感謝の気持ちを改めて生活面で学ばさせていただきました。またその道の達人であらつしやる先生方から思ひもしない様な視点に基づいた御講義を拝聴させていただきました。今日までこれといつて問題意識をもたずに生きて来た不勉強な私ではあります。「自らの頭で考へ本當の勉強をしてゆかう」といふ清々しい思ひが芽生えてまゐりました。これから阿蘇を下つて家路につきます。またあの誘惑多き俗世間に戻つて行くわけですが、この今の思ひ(心のともしび)を絶やすことなく励んで行きたいと思ひます。

部屋内で最後の夜と思はれてこよひ眠らじと友と語りき  
早々と眠りにつきし我ために先輩はふとんをかけてくれます

## 短歌相互批評は楽しかつた

(重細亜大学 法 四年 松田裕幸)

今年も班長といふ重要な役割をいただいた。意見を述べ

べ合ふ”場ではなく”語り合へる”ことができる場にした。又、友らの語る言葉を真剣に聞き友がどのやうなことを考へてゐるのかが感じられる、そして自分自身の身に合つた言葉で思ふことをすなほに語りかけられるやうになりたいと頑張つてみた。班別討論では、最初は”意見を述べ合ふ場”であつたがぢきに無口な友も自ら話すやうになり討論が活発にできた。特に短歌の相互批評は楽しかつた。時のたつのも忘れて夜遅くまでお互ひの歌を味はひ合つた。みんなで友の歌を批評し直した時に友が嬉しやうに”かういいかつた”と言つてくれたのは自分自身でも嬉しかつたし、お互ひに心が通じ合へてゐるやうに思へた。

目の前に広がる阿蘇の山々のそびえたちたる姿をしき  
山の背に萌ゆる緑の日の影に映えて見ゆるを美しと思ふ

### 第三班 男子学生

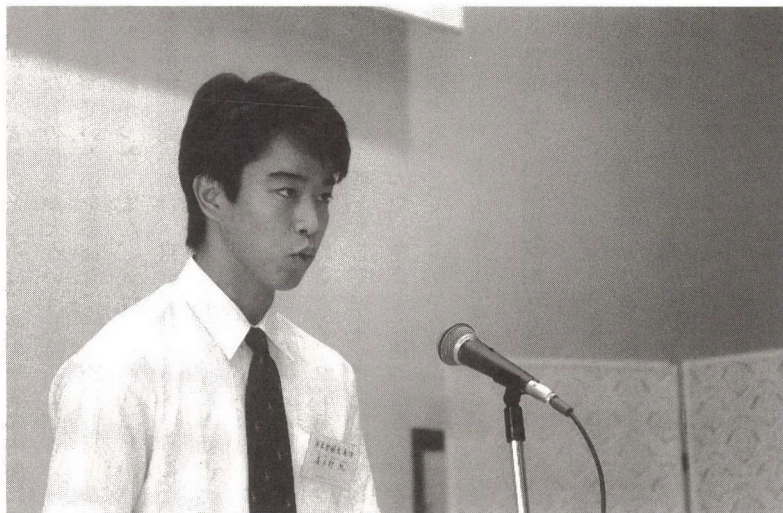
#### 短歌を作る楽しさ

(防衛大学校 人文社会 一年 古川恵司)

今思うと、この合宿もあつという間に過ぎ去つていつた気がします。皇室問題などの話題を中心に、一気にかたさもとれ、昔ながらの友人であるかのように夜遅くまで皆で語りあかしたことは、一生の思い出です。

講義のことは忘れても、皆で真剣に語り合つた創作短歌の

#### カメラ・レポート3



参加学生を代表して、熊本学園大学三年・喜多村純君が「お互ひに積極的に、自分自身を見つめ直す機会になるように努力しませう」と呼びかけた。

相互批評のことは忘れません。また、短歌を作る楽しさを決して忘れることはないでしょう。

はるかなる阿蘇の山々見渡せば雲間ゆ光のひととせ一条させる

### もつと積極性をもちたい

(日本デザイン学院 グラフィック 二年 安部雅俊)

班員の方々は皆やさしい人でした。二日目、扁桃腺で熱が出てしまった自分に対し、皆「大丈夫？」と最後の日迄心配してくれました。自分は「ありがたい」という気持ちと「申し訳ない」という気持ちがおこりました。申し訳ない、というの、皆が学校で教えられた戦争の見方とあまりにも違う見方をこの合宿で学んで苦しんでいたのに対し、自分は「これをいったら相手に反発される」といった事を思つて、真実の思いを積極的に言わなかつたからです。やはり真実はどんな事があるかと言うべきである。これは「違う」と思つたら思いきつて「違う」というべきである。自分もつと積極性をもたねばならない。

真実を伝えることは苦しくも心ふるつて伝へゆきなむ

### 喝が入つたような思い

(富山大学 経 二年 館 充良)

合宿地につき、さっそく講義があつたのに驚いた。しかもその内容が「大東亜戦争」でやばい所に来たものだと思つた。その後の講義も戦争や天皇のことが主でそういう思想の集ま

りかと思つた。

しかし、実際のところは、その事実の内面について、つまり自分たちの祖先がどういう気持ち、どういう心がまえでそれを行つていたかを参加者に問いかけ、気付かせるといふものだとわかつた。また、気付くということが、自分でいろいろな事物に問いかけ、自分で考えるということだとわかつた。だからといって、自分自身がすぐにわかるとは思えないが、何となくだが、自分に喝が入つたような思いがする。集まつた人たちの一人一人が同じ講義を聞いたり、外に出て同じ景色を見たりしても思つたことがそれぞれに違つていて、自分が気付かない、考えもしない意見を述べるのを聴き、感心してばかりだつた。今までと違つたものの考え方ができそうな気がする。とてもよかつた。

各地より阿蘇に集ひし我がともと楽しく過ごせしこの日忘れじ

### 充実していた短歌相互批評

(九州国際大学 法経 四年 佐藤公治)

講義で印象に残つたものは、徳岡先生のマスコミ論、小堀先生が紹介された漱石の「私の個人主義」だつた。又、小田村先生、長内先生の講義では、いかに真剣に自己を見つめるかといふことの大切さを身をもって痛感した。感想自由発表では壇上でスピーチされる方がいかに真剣にとり組まれたかがうかがえた。

班長としてはなかなかまとめられなくて言葉に窮する場面

も少なからずあった。しかし、班別短歌相互批評では、初めて短歌を創作した人の中から、意見が出され、最終日の班別懇談ではこの時間が充実していたという人が多かった。自分もそう思った。

班員は悩みながらも友どちに今の思ひを語りつづけぬ

### 合宿内容には反感がある

（創価大学 文 四年 遠藤直文）

この合宿では、班付の小柳さんをはじめ、長内俊平さんや多くの方々に本当にお世話になりました。班員の皆とは班別討論以外でも色々な話ができて、自分を見直すこともあり、楽しく有意義にすごすことができました。

しかし、合宿内容自体には未だに強い反感を持っておりま  
す。国旗と国歌を歴史的に伝統あるものだという理由で、時代の流れに逆らって、うやうやしさを強制するように思われた。慰霊祭についても同様に感じた。この合宿では、大東亜戦争における戦後補償は終ったとするが、在日朝鮮人の方々の戦争はまだ終っていないのです。

「伝統」と言へば反発することもなく頭たれるを恐怖に感ず

### 班員たちとうちとけた

（拓殖大学 外国語 二年 坪井 健）

松本幹男先生のご推薦で参加した。最初は九州に初上陸と心はおどっていたが、第一日目で魂がぬけ、本当に笑えぬ状



合宿運営委員長の熊本県立第二高等学校教諭・白濱裕氏が「心を開いて聞く、そして語るといふ心構へで、相互に学び合ふ友として四泊五日の日程に参加しませう」と合宿の趣旨を説明された。

態になった。しかし、班員たちとうちとけてくると楽しくなった。みな個性的でとてもよい人たちだった。

自分は大学入学まで自分の悩みは人に言わない人間だったが、大学での友人に恵まれ、変った。この合宿でさらに良い方向に変わったと思う。それより何より、こんなならばなら考えを持ち、わがままな班員をまとめた班長の佐藤さん、ご苦労様でした。班付の小柳さんのいろいろな話もありがとうございました。私は来年の厚木に行く可能性が高いので、その時はよろしくお願いします。

集ふ我ら見守ることく朝空に立ちたる山にわが父思ふ

## 仲良くなれた

(山形大学 医 一年 幸田文男)

初めての参加で、仲間とすぐにうちとけられるのか不安があった。しかし、そんな不安はすぐに解消した。第三班の仲間は私を暖かく迎えてくれてうれしかった。合宿の日程は正直言ってきつかったが、仲間と本当に仲良くなってからは、合宿の日程もスムーズに消化していった。各地から何の面識もなく集まってきた仲間が、五日間でこれだけ仲良くなり、しかも支えとなるとは、私は思いもよらなかつたので非常に驚いた。

合宿を終わるにあたって、仲間のすばらしさを本当に実感している。これからも心の支えになるような仲間を一人でも多くつくりながら、生きてゆきたいと思う。

大阿蘇の原を吹きぬける風のごとく我も故郷へはや戻りなむ

## 新しい友人ができた

(金沢大学 文 一年 中元大生)

合宿の最初は本当にイヤでした。終りになった今では、少しだけ理解できましたが、理解しがいことも多々あります。ただ広範囲の地域にわたって、知り合えた人がたくさんあったのは良かったです。僕の班は、年齢や大学の隔りなく気楽に話をすることができました。消灯時間後も夜おそくまで話が尽きませんでした。この合宿の一番の成果は、新しい知人ができたことだと思います。これからの大学生活のささえとしてがんばっていきたいです。

電気消しふとんに入つて友だちの怪談ばなしにじつと聞き入る

## 第四班—男子学生—

### 心身ともにさつぱりとした気分である

(関西学院大 文 三年 竹岡 淳)

今年は班長の大役を仰せ付かった。班長は班員をまとめたければならない。そのためには班員に真心をもって接し、一人一人の意見にじっくり耳を傾けなくてはならない。この合宿の眼目は「自分の意見を滔々と述べることよりも、人の意見に耳を傾けること」にある。普段の自分はこの逆であるこ



とが多いが、今年の合宿ではそれを実践することができた。ただしそれは合宿で自分を偽っていたのではない。人によく見せようと自分を演ずることからくる気疲れが全くないのである。それどころか、心身ともにさっぱりした気分である。それは、元々自分の中にあつた「素直さ」や「真心」をあくまで自然に表現したにすぎないからではないだろうか。そういう元来自分の心にあるものを発見できたのが今回の合宿最大の収穫である。

車座に集ひし友に頭下げ心から出る感謝の言葉

## 人の職業と人生に誇りと尊敬を持てた

(愛媛大学 法 四年 花岡伸明)

私は大学のゼミナールの教授(百地章教授)のすすめでの合宿に参加しました。今、合宿を終るに当り、私はまず恩師との不思議な縁なしにこの合宿への参加もなかったと思うと、これも「運命」であつたかと、しみじみ感謝しております。

最終日の自由感想でも申しましたが、今回、自分の父の職業と人生に誇りと尊敬を持つことが出来た事を感謝しております。特に絹田先生と山内先生のお話はこの問題を考える上でさけて通れない、共産勢力やGHQの戦略を知る上で基本的な視点を提供していただきました。

帰宅したら、父親と人生観・職業観について話し合い、その感慨を歌にして客観化してみようと思えます。

カメラ・レポート5



指揮班長の熊本県立天草高等学校教諭・久保田真氏により、合宿期間中の細部にわたる注意事項が説明される。

講義聴きて制服の父思ひ起こし感謝と誇り胸に抱けり

## 真面目な時が過せた

(学習院大学 法 四年 山内将生)

阿蘇の雄大な景色を見ながら、開放的な気分でもした五日間であつたと思います。先生方の御講義や班友の話を、ごく当然なことを当然に受けとめることの素晴らしさと難しさを感じました。最初は皆、自分を表現する際に自分をよく見せようとお互いなかなか本音で語ることができませんでしたが、同じ志を抱いているという一体感に次第に気づきはじめると少しずつ心が通じるようになったと思います。

何よりも良かったのは、この五日間、真面目な時が過ごせたことだと思えます。どんな話題になっても皆で真剣に取り組みました。そのような機会に今まで恵まれることが少なかったので新鮮な感動を覚えるとともに、また自分の勉強不足を痛感させられました。

良い経験をしたと思います。一度だけでなくこれからも参加したいと思えます。

さわやかな朝日にはえて堂々と風にたなびく美しい旗

## 他人の意見をよく聞くことの難かしさを感じた

(東京大学 文Ⅲ 一年 東中野多聞)

僕がこの合宿で感じたことは、すごく雰囲気が良いということ。ここに来ている人は、みんな真面目に茶化さずに

話し合います。やはりその様なことは普段の学校生活では経験できないことだと思えます。また、この合宿教室で他人の意見をよく聞き理解することの難かしさを感じました。

己が心まよひしこともありたれど人と打ちつけ心安まる

## つかれた

(大阪芸術大学 芸 一年 塚本将史)

つかれた。四日目の夜はもう死んでしまふのではないかと思つた。でも僕はこの人を殺してしまひさうなスケジュールがなんとなく好きだ。

風ふけど髪もゆれない窓内でしなる木枝を眺む昼時

## もう少し余裕のある日程を

(国学院大学 神 一年 高澤一基)

はつきり言って疲れました。日程がかなり厳しかったのではないのでしょうか。四泊五日という限られた時間で多くを学ぶことは厳しいと思いました。今回の日程ですと、ただスケジュールをこなすという様なことになってしまうのではないのでしょうか。是非とも、もう少し余裕のある日程を組んでいただきたいです。そうすることで考える時間も和歌を詠む時間も増えて、より学びを深め理解できると思えます。

最後に、この合宿で体験させていただいた事は、自分の今後に変参考になったと思えます。

出逢ひたる人と語らふその内にその人の友吾の後輩と知る

人々の縁とはふしぎと思ひつつ隠れし縁を見つけしうれしき

## 次回も参加する

(亜細亜大学 法 一年 黒須武士)

全国には、やはり凄い方々がたくさんあるといふことを通感いたしました。四泊五日といふ短い期間でしたが、その間いろいろなことを他大學生或ひは諸先生方から學べましたことを嬉しく思つてをります。

私は次回も参加するつもりです。次回までの一年の間に自分を磨き今回知り合つた方々に負けず劣らぬ人物になつてまた合宿に臨まうと思ひます。

廊下にて九州美人とすれ違ひ挨拶するにも顔赤らめり

## これからの勉強のヒントを得た

(大阪国際大学 政経 一年 森田泰臣)

徳岡先生の話から、特に戦争ということについて、これからの自分の勉強のヒントを得ました。

また、多くの先生方から感じたのは、私たちが受けて来た教育のことです。戦争に関するこれだけの多くの資料があるのに、一面的にしか教えられなかつたことは、客観性に欠けるなど、多くの問題があると思ひました。

この合宿で学んだことは、これからの勉強のヒントになると思ひます。

風のふく丘をのほりつつ我思ふこの風にのりて空飛べればと

カメラ・レポート6



「合宿導入講義」。大阪府立交野高等学校教諭・緒田洋一氏は膨大な資料をもとに大東亜戦争の開戦経緯や占領政策の問題を解説され、「当時の日本人の思ひに心を馳せてほしい」と語られた。

## 第五班—男子学生—

人間にとって一番大切なものを得た

(熊本学園大学 商 三年 喜多村純)

四泊五日の合宿がようやく終わろうとしている。僕の場合、事前合宿に参加したので七日目に入っている。さすがにしみじみとしたものがある。最初は本当にきつかった。阿蘇まで来たのだから、全国から友達が来ているのだから、もつとゆっくり話をしたい、そう思っていた。しかしそういつた中で、いろんなことを学んだ。いい仲間と知り合えた。

合宿では、班長という大役をおおせつかった。いい班員とめぐり会えた。真剣に語り合った。みんなが協力してくれた。ばらばらの価値観を持つ、ばらばらの出身地の、ばらばらの学部の間が一つになった。一見、いかげんそうに見えた仲間が涙を流して語った。人間にとって一番大切なものを得た。

少しづつ心打ち解け通ひあひこれが友だとしみじみ思ふ

短歌創作で心が洗われた

(金沢大学 工 三年 森田康之)

今回の合宿は初めての参加のため、最初は非常にとまどいがありました。日を追うごとに班員とも打ち解け合うこと

ができました。講義の内容も非常に濃いもので、日本文化である和歌を作ることができたこと、マスコミが信頼できないことを知った事が心に強く残っています。雑誌でよくジャーナリズムについて語られているのを、興味も持たずに見過ぎしていました。そのジャーナリズムこそ、世論を動かす力であることを思い知りました。短歌創作においては、自分の心が洗われるような気がしました。日常生活で、もやのかかった心も、歌を詠むことによって気をはりつめ、鮮明に磨き上げることができました。合宿の運営に尽力された方々に感謝し、この合宿で得たものをさらに大きく育てていきたいと思えます。

班友と語り明かした思ひを胸に国を憂へて我が道を行く

和やかな場になりホッとした

(福井工業大学 工 二年 加藤博史)

この合宿に参加したのは、大学の先輩の紹介でした。最初の頃は、班別討論で発表する事がとても苦痛でしたが、日がたつごとに班の人達とも話すことが出来るようになり、討論も熱をおびて、苦しい沈黙もない和やかな場になり、ホッとしました。ご講義では、五班の班付でもあった絹田洋一先生のご講義を興味深く拝聴させていただきました。少し疑問を持ち、先生に質問をしました所、気持ちよくお話しいただき、感謝したことを覚えております。四泊五日の合宿で、己れの意志の弱さを見た思いがしておりますが、ここで培った経験

と学んだ事を、少しでも自分の中に残すことを課題としていきたいと思えます。

夜の集ひにて

友人と自慢話を語りつつかさねあひたる酒のうまさよ

### 皆愛国心を持つてゐることに勇気づけられた

(防衛大学校 人文 一年 大庭弘継)

世の定めなきこそいみじけれ。人生は出会いと別れを繰り返すものです。この合宿でも新しい友人達との出会いがありました。大学も生まれ育った環境も違うのですが、この短い合宿期間中にこれだけ腹をうちわって真面目に話し合える友を持つてたことは希有のことだと思います。皆と話してみても、聞いたのは、国家防衛の志を抱いているのは自衛隊だけではなく、皆それぞれの形で愛国心を持っているということですから、私にとっても勇気づけられました。自分達にかけられた期待と使命を改めて認識しました。私達の使命は、侵略国の侵略の意図をくじくことです。自衛隊は敵を倒すよりも、敵に莫大な被害を与え、戦争継続意志を失なわせるものなのです。私達は命を賭してこの使命を完遂することを誓います。

過去よりも未来が長き我々は共に語りぬ夢遥かなり

### 本当に日本の事を思つて語りあえた

(福岡教育大学 教 一年 月野木健)

自分の未熟さを痛感しました。大学に入ってから堕落した

カメラ・レポート7



合宿教室の一日は「朝の集ひ」から始まる。阿蘇の朝のさやかな空気を胸一杯に吸ってラジオ体操。

生活を送り、芸術方面でも行きづまりを感じていた自分は、この合宿に新しい方向性 $\parallel$ 道を求めていました。しかし結果的に学んだものは、自己の再確認だったような気がしました。足元を見ることを忘れていることに気がつきました。先生方の講義には、分かっているにも実行できないことに胸が痛みましたし、新たな驚きや発見があつて非常に勉強になりました。特に印象に残っているのは、小堀先生の講義での「天」という言葉や、長内先生の講話でした。全国各地から若き仲間が集まつて、本当に日本の事を思つて語りあえたことは、とてもうれしかったです。慰霊祭や短歌作りなどの貴重な体験も含めて、ここで学んだ事を忘れずに頑張つていきたいです。

目を閉じて思ひ浮かぶは友の顔あつき思ひの自づと沸きたつ

## 守るべき日本の文化とは何か

(佐賀大学 農 一年 鈴木考将)

小堀氏が「現在の我々は文化防衛の敗北過程にある」と言われた事が衝撃的だった。漠然と日本の大切なものが失なわれている様に感じてはいたが、それが一宗教であるキリスト教による、などと考えた事はありませんでした。何とかして日本文化を守れないものかと思いましたが、長内先生が「君達は文化、文化と言うが、一体日本文化とは何ですか」と問題提議をされ、ハッとしました。私には守るべき日本の文化が分っていない、自分の中に文化が居座っていない事に気づかされました。今後、当時の人の姿を通じて大東亜戦争を見

つめ、自分なりの日本文化を心に住ませ、自分の視点を持ち、考え続けられる疑問を見出だしてゆきたいと思う。

日本の本に受け継がれたることを我の心に育みゆきなむ

## 祖先の心を偲びつつ国のことを考えたい

(熊本学園大学 経 一年 田苗輝昭)

始めは「なぜここまで生活規則が」と思いましたが、終わってみると、普段では到底味わえないすばらしい経験ができました。今まで間違つたことを教えられていたなんて驚きました。祖先が命をはつてこの日本国を守つてきたのに、今の世の中では祖先の精神そのものが間違つていたと言っています。僕も日本が悪い事をしてきたと思つていましたが、何も勉強せずにただ教えられたことを真実と思つていた自分が恥ずかしくなりました。祖父母に何とも言えず恥ずかしく、今まで裏切つてきたという自己嫌悪に陥りました。これから的人生をささいな事でもいいから、祖先の心を慰めつつ、国家のあり方を少しでも正しい方向に変えていけるような活動に打ちこみたいと思つています。まず身近な所からやってみてほしいです。

あ、つらし別れをしむ友たちと今度会ふ日を約束したり

## 語る程に憂國の情が深まった

打てば響く、そんな素情らしい班員に恵まれた合宿だった。

(福岡大学 経 四年 別府正寛)

「自分一人では國を動かす事は出来ないが、兎に角歴史を勉強していきたい。やれる所からやつていきたい」と切實な思ひを吐露する姿に本當に心打たれた。又「心を同じくして日の丸、君が代を語り合へる友と會へて心が踊るやうです」と述べる一年生とも深い縁を感じさせられる。語れば語る程、憂國愛郷の情を相互認識していつたやうに思ふ。しかしながら「戦後」の壁を穿つには、それは余りに厚いものと思はざるを得なかつた。小田村先生の言はれる、一人のスピリットの確立が二人の感銘を呼び、二人が意を決すれば四人が動じ、人と人とが信じ合ふ日本が蘇へる事を信じて、日々精進していきます。

合宿の終はりに臨み君が代を聲高らかに共に歌ひぬ

## 第六班

—男子学生—

### 昭和天皇様の「あかげら」の御製に泣いた

(鹿児島大学 農 二年 佐々木義和)

この合宿で一番印象に残りましたことは、慰霊祭の「御製拝誦」で、昭和天皇様の最後の御製

あかげらの叩く音するあさままだき音たえてさびしうつりしならむ

を聞いたときでした。この時の昭和天皇様の大御心をお偲び申しあげ、おこたへできてゐない自分のふがひなさとともに、

カメラ・レポート 8



二日目の午前、ジャーナリスト・徳岡孝夫先生による「国際情勢をどう見るか——マスコミを信じるべきか——」と題する御講義がなされた。先生は「日本には新聞記者ではなく、新聞社員しか居ない。独立の気概をもって前線に立ち続ける記者は居ない」と御指摘になった。

言葉で言ひあらはせないものが胸内にこみ上げてきて、自然と泣けてきました。私は「しきしまの道研究会」で歌集「あかげら」を発行してをりますが、なぜ歌集の名を「あかげら」と先輩がつけられたのが、二年目にして少しわかつたやうな気がしました。

先帝におこたへできぬふがひなき身をしおもひて吾泣きにけり

さはあれと皇御国を守らむと力足らねどいよよはげまむ

### 正直な言葉、正直な生き方をしたい

（九州大学 文 二年 井野口武志）

今回の合宿に参加して、自分自身の語る言葉といふものについて非常に考へさせられました。自分の思ふことを素直に述べるといふことは本当に難しい、と思ひました。長内先生は「かざらむと思はざりせばなかなかにうるはしからむひこのころは」といふ御製を引用されましたが、本当に自身、変に飾つたりごまかしたりしない正直な言葉、正直な生き方をしたいと思ひました。また、小田村先生が御講義の途中で、眠つてゐる学生に対して、「ぼくの顔をみなさい」と言はれた姿を見て、本当に先生の願ひといふものを感じました。単に知つてゐることを御講義されてゐるのではなく、私たちに訴へたいことを話されてゐるのだと思つた。心の底からの思ひを話されてゐるからこそ、あれだけの迫力になるのだと思ひました。自分の思ひをありのままに吐露して、人の心を動かしていける人間になりたいと強く感じた次第です。

小田村先生の御講義を聞きて

若人に切に語ります師の君の叱咤の聲は痛々しくも

「僕の目を見なさい」といふお言葉に伝はり来るは師の願ひなり  
師の君のあつき思ひに應へ得る生き方したし若人なれば

### 真剣に四日間を臨んだ

（拓殖大学 外国語 四年 成田誠悟）

今回は二度目の参加であつたが、最初とは全く違ふ気持ちで臨んだ。なぜかというと、昨年八カ月間オーストラリアに留学して、外人から日本のことについていろいろ聞かれたとき、何も答えられなかつたからだ。いざとなると全く日本について語るこのできなかつた事実には、「これではいかん、日本に帰つたら勉強しなければならぬ」という気持ちにかられた。多くのアジアの方々に、日本の戦争責任についてどう思うかと聞かれ、僕はこう答えた。

「日本人は、みんな当時の人々がしたことを反省していて天皇も、総理大臣もそう思っている。すまなかつた」と。何も知らなかつたから、それしか答えがなかつた。

阿蘇の地で学びし日々もはや過ぎて友との別れ悲しかりけり

### マスコミを監視しなければならぬ

（宮崎産業経営大学 経 一年 波多野康博）

徳岡先生の講義を聞くのを楽しみに参加しました。先生のお話は、国際社会の裏や、北朝鮮の情勢が、マスコミよりわ



かりやすかったと思います。今の政治情勢が混乱しているのは、マスメディア、特に週刊誌とテレビが悪いと思うし、それを完全に信じきっている、私を含め国民の多くがこのような事を引きおこしたと思うので、反省しつつ聞いていました。国会の不戦決議や、細川内閣の侵略戦争発言などの、いかにもマスコミ受けしきれない事を連発する政治は、マスコミが反省し正しい報道をしていくように、我々が常に監視しなければならぬと感じました。

徳岡先生の講義をききて

熱心な師のみ言葉はこのあとも忘れじとこそ思ひ定めし

### 初参加でとまどつたが良かった

(金沢工業大学 工 二年 水野伊織)

空手部の先輩から、短歌作って阿蘇山登るだけだから行ってこいと言われて参加しました。ところが考えが甘かった。講義は自分の知らないことばかりで何を言っているのかさっぱりわからないし、班別研修では話についていくことができず、だまされたと思いました。だが、そんなつらいことの中にも楽しいこともあり、日がたつにつれてそう悪くもないかなと思いはじめてきました。まったくの見知らぬ人と話すことができ、自分の知らなかった事を体験することができました。先生方の講義、講話の中では感じた点がいくつもありました。はじめての参加でとまどつたこともありましたが良かったですと思います。



班別研修では、講義のポイントをしっかりと確かめつつ、感想や意見を率直に語り合つてゆく。

阿蘇の地で友らと学びすごしたる日々思い出すらも夏がめぐれば

やらなければ何も始まらない

(福井工業大学 工 一年 安島義道)

合宿に参加したのは中田さんにさそわれたからなのですが、バイトは忙しいし、五日間もという感じがして行きたくないというのが本音でした。しかし実際合宿が始まりますと、一日目、二日目と日を追うごとに加速度を増して速くなって行くのを感じました。班の人たちとも心が打ち解け合い、すごく楽しく感じました。やはり、何もやってみないで、つまらないと言っているは何も始まらないとこの合宿にきてしまいました。運動部とは違った楽しさや苦しさの五日間、いい経験になりました。また参加したいと思います。

猛暑い夏阿蘇の司に集ひきて語り合ひたる友を忘れじ

今の自分があるのは誰のおかげか考えたい

(東京大学 教養 二年 松岡 勲)

僕は国を愛するという感覚がいまいちよくわかりませんでした。今もよくわかりません。ですが今回の合宿で、日々他人の努力の成果を享受しているだけの、しかし、そのことに無知、無関心な自分に少しだけ気づかされました。

それが物事をすぐ「他人事」としてみる姿勢につながっていると思います。もう少し、今の自分が楽しく暮らしているのが誰のおかげか考えきれたら、壇上で話されている先生方

の話も理解できたのに、と思いました。

他の人の努めによりて今日あると思ふ心の足らざる我かな

## 第七班—男子学生—

これ迄の教員生活を反省させられた

(熊本縣立第二高等學校 今村武人 32歳)

今回三度目の参加で、初めて「班長」の役目を頂いた譯だが、果して班の取り纏めが十分出来たかどうか疑問に思つてゐる。

特に私が反省した點は、物事を観念的に捉へてみたり、抽象化したりして、班員には良く傳はらず、自己満足で終つてゐた事が良く判り、もう少し班付の菅原先生の如く、事柄を實體に則し、又私事なぞ混へ乍ら、話すべきといふ事だ。この弊害は又和歌創作にも如實に表はれてゐて、私のこれ迄の教員生活を反省させられた次第である。

子を思ふ母の想ひに泪する友の所感に胸せまりくる

又合宿に参加してみたい

(拓殖大学 外国語 四年 川崎良典)

今回で三度目の参加となる合宿ですが、私としては今回も講義ないし班別研修など十分理解するには至りませんでした。というのも、恐らく、何か自分には感じることでできないも

のが自然の心の中に入ってきているからではないでしょうか。実感できないもの、それは一体何であるか。この疑問を持っている限り、私は又合宿に参加してみたいと、今回改めて感じました。

阿蘇の地に初めて踏み入る我が心はじけんほどに気持ふくらむ

### 短歌相互批評に喜びを感じた

(富山大学 工 三年 腰原 健)

今年も昨年引き続きでの参加となり、そのため講義の内容にも大部ついていけるようになりました。また、班別研修においても昨年より参加できるようになり、班友との交流も深まりました。中でも、短歌の相互批評は熱がこもっていて、喜びを感じました。

お世話になった班長や班友のみんなに感謝しています。

友どちと酒くみかはしつ語らひこの一時を我は忘れじ

### 自分自身を顧みさせられた

(早稲田大学 法 二年 濱田咲智)

講義が終わり、班別研修で班友が講義の感想ないし意見を忌憚なく発表していた。自分の思いを自分の言葉で語っていた様に思う。しかも一生懸命であった。

それに対して、自分あまり発言しなかった。これは自分自身を反省させられるものがあつた。自分はどれだけ物事を真剣に考えているだろうか。そしてそれを言葉に表そうと努



二日目の午後、「其は『義眼』なるや『肉眼』なるや——『本然の我』に立ち戻る日はいつか——」と題して、神奈川県立厚木南高等学校教諭・山内健生氏による講義が行はれた。

めているだろうか。そんなことを皆の話を聞いて痛感した。

班友の語る言葉を聞いて、自分自身が顧みさせられた班別研修であった。

ひたすらに己が内をば見つけつつ磨いてゆかむ己が言の葉

もつと早くから参加したかった

(久留米大学 医 六年 福田兼知)

思想的に共鳴するところの多い国文研の皆様と共に、今回の合宿を盛り上げることができないことを残念に思います。この合宿に、もつと早くから参加の機会があったらと思いました。

去年よりくれば良かった国文研あ、悔しきや一人去るのは

貴重な体験をした

(金沢大学 工 一年 佐野記士)

合宿を終了しての感想は貴重な体験をしたということですが、参加する前には考えもしなかった事を講義の中でお話してもらいましたが、多少理解できないところもありましたが、多くは共感できました。

班の中での個人議論では理解しにくい点もありました。しかし無事四泊五日を終了することができて本当に良かったと思います。自分は今回初めての体験でした。ありがとうございました。

朝起きて待ちに待ちたる最終日素直な気持ちでうれしきものなり

考えることの大事さを学んだ

(鹿児島大学 法 一年 野口大輔)

この合宿を終えての感想は、やはり人の意見を素直に聞くことが大切なことだと思った。合宿に来る前は周りの人達と打ちとける事ができるか心配だったが、しかしそれは不要の心配であって、すごく楽しかったし、班別討論も盛り上がった。僕は自分の意見を通したがる方だったが、今回自分と違った意見を聞いて、考えることの大事さを学んだ。それが自分にとって良かったことである。

本当にありがとうございました。

過ぎざりし光のごときこの日々はやがては我に力与へむ

勉強し直して来たい

(奈良県立商科大学 商 三年 岩瀬幸広)

この合宿には、今回特別な意識はなく、二回来たから三回目もといった漠然として気持ちで来たので新鮮さがなく、それが今迄とは違う変な違和感をもたらしたところがあります。私は何かに慣れるとそれに興味・関心がなくなるところがあるので、一年間勉強し直して、改めた気持ちで合宿に来たいと思います。

医務室で友と離れて一人寝る我は何ともなげなきかな

かけがえのない友人ができた

(金沢工業大学 工 一年 成田光彦)

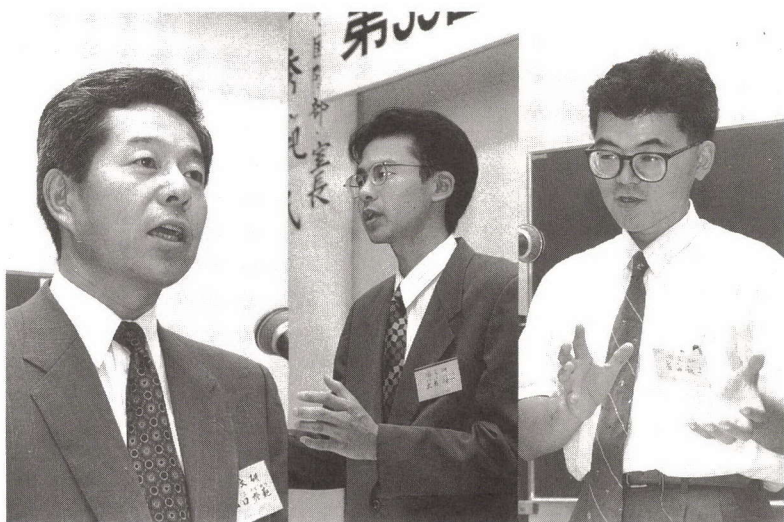
自分はこの合宿に部の先輩の勧めがあり軽い気持ちで来ました。実際に参加すると始めはだまされたと思いましたが、時間が経つにつれてだんだん班の仲間達とも打ち解けていき余計な心配ごとがなくなっていました。そして多くの講師の先生方の話をお聞きし、もう一度聞いてみたいと思った方は徳岡孝夫先生と長内俊平先生でした。このお二人のお話はこれからの自分にとって本当に大切なことを教えてくれました。そして何よりも良かったのは同じ班の仲間達です。今まで何かについて真剣に話し合うことはほとんどなかったけれど、この仲間達といろいろなことを論じ合うことは、自分にとって貴重な体験であり、かけがえのない友人ができたと思っています。また来年もぜひ参加してみたいです。

雄大な自然の中で語らへば心も不思議と開けゆくかな

別の自分を見つけることができた

(富山大学 教 一年 菅原洋光)

最初はかなり抵抗があったが、実際に参加してみて自分にとってプラスになることはたくさんあったと思う。友達と話



「青年体験発表」。熊本県芦北町立佐敷小学校教諭・蓑田誠氏(写真右)が「誇りを持って自分の故郷や国を語れる人づくりを目指したい」と語られた。(榎福武書店勤務・大島伸一氏(写真中)は「夢をもち、その実現のために友達と切磋琢磨してほしい」と訴へられた。(榎大成建設勤務・山口秀範氏(写真左)は、十四年間の海外生活で自分を支えてくれたものとして「家族、外国での友、学生の時から培ってきた友情」と語られた。

すにしても、戦争や天皇といった堅苦しいことは照れ臭くて絶対には話さないことではあるが、こんな機会に自分の考えを思いつきり言えたということは、良い経験になったと思う。

短歌を作るにしても、自分にとつては初めての経験で、班員の方々にいろいろ指摘してもらって本当に嬉しかった。見ず知らずの人間にここまで親身になってくれる人がいるなんて生まれて初めての体験だった。学校や部活での自分とは別の自分をこの合宿で見つけることができた。

ほんの数日前までは赤の他人だった人間が、ここまで腹を割って本音を言える人間に変わっていくことはすごいことだと思う。もし合宿に参加しなければ、このような経験は恐らくないと思う。

最後に合宿に参加することを勧めてくれた先輩、中田さんに感謝するとともに、この五日間を楽しいものにしてくれた八班の班員の方々に心からありがとうと言わせてもらいます。

合宿が終はりて思ふ阿蘇の地で名残惜しくも班友と別るる

### 合宿の意とするものが理解できずに苦しんだ

(拓殖大学 外国語 二年 江刈内 大)

夏の暑い日の中、友人と二人で阿蘇で行われる合宿の為に電車を乗り継ぎ東京からやってきた。初めは余り期待していなかったでここまで来るだけで大変疲れてしまった。しかし、日を追うごとに班員たちと仲良くなっていき、体は疲れ

あった。

この合宿でご講義されたことの知識をあまり蓄えていなかった為に、理解するのに大変時間がかかり、班別で話し合う時も一人で沈黙することもあった。初めて参加したこともあり、この合宿の意とするものがよく理解できず苦しみまくった時もあったが、班員たちと話し合うことでリラックスしていくのが自分でも分かった。

色々な地域から集まって来た人たちと会うという機会はありませんでしたので、この機会を逃してしまつたらもったいな

### 自分に一層の自信が持てるようになった

(専修大学 法 二年 大沼 章)

この合宿の参加の動機は、白濱先生からの一通の手紙でした。しかし、合宿の日が近づくにつれ、単身で阿蘇へ向かうことに多少の不安がありました。けれども『日本への帰郷第29集』と『短歌のすすめ』を一回読んで、日頃から関心のあった内容の記事が数多く載せられていて、先程の不安を打ち消すに足るものでした。

実際には、今自分の一番の課題として考えている、自分に自信を持ち、心の鍛錬をし、真実を見抜く目をつけたい、

これからのことを見透す眼力を持ちたいと思っていた自分に非常に合った内容の講義であり、班別研修でした。したがって今取り組んでいる課題に対して、より自信を持って対処の方法を考えられそうな気がします。また理解が一層深まるよう文献を御教示して頂いて有難いことだと思っております。この合宿で、これから自分により一層の自信が持てるようになりました。

全体感想自由発表にて

運営の仕事に心砕かれる我が師への恩ここにて述べむ

より日本人として生きていきたい

(宮崎産業経営大学 経 三年 永石白馬)

昨年、第39回の合宿教室が阿蘇で行われると知った時、近いので来年も参加しようと思っていたのだが、実のところ申し込むまで悩んでいた。しかし今は来てすぐく良かったとしみじみ思う。新たな仲間と出会い、新たななる友となり、そして新たな同志となっていく。嬉しさで一杯だ。

現在、日本は精神的にも感情的にも自国の誇りが失われつつあると思う。ただこのように知っているだけではだめで、考慮し、行動に移していくことが大切である。知っているだけで何もしないのでは、「力なき正義は正義にあらず」と同等であると思う。これからも自分は、より人間らしく、そしてより日本人として生きていけるよう努力を続けていきたい。又その努力を失わないよう、強い、強い意志を持ち続けたい。

カメラ・レポート12



三日目の午前、「日本における超越者の思想の系譜——神教的価値観と日本人——」と題する明星大学教授・東京大学名誉教授・小堀桂一郎先生の御講義。「天照大神以来、千五百年間、日本人は“天”を道徳の根源として意識してきた。皆さんにとって“天”とは何かを考へて下さい」と御指摘になった。

新たなる熱き思ひを胸に抱き阿蘇の山から発つ我が身かな

## 戦死者の魂を今も僕らが受け継いでいる

(龍谷大学 社会 三年 上戸大助)

今回の参加は自主的な参加であったが、積極的な参加姿勢が最後まで持てず、がっかりした気持ちです。この合宿に本当の事が知りたいが為に参加したにもかかわらず、僕はどうしてもどこか冷めた眼と心でこの四泊五日を過ごした気がし  
ます。何も残らなかったというのが今の僕の正直な感想です。  
大東亜戦争で死んでいった戦死者の方々がどんな想いで死んで行ったのか。戦死者の魂を今も僕らが受け継いでいる。その事を本当の学問として、これから学んでいきたい。これはこの合宿に参加して本当に感じたことです。

この合宿参加してみてもまた気付く僕の悩みは果てしなく続く

本当はきつとみんなを信じたい心の底から安心したい

班友の皆を裏切るこの思ひ本当に本当に申しわけない

## 国の命を守るもの

(神奈川県立津久井高校・定時制・教諭 大日方 学 31歳)

最後の班別懇談を終へ、若干の寂しさを感じつつも、今回班長として八班に入り班員の皆と過ごすことができ、本当に良かったといふ充実感を抱いてゐる。日を経るにつれ皆が打ち解けていき、それぞれが思ふところを開陳してくれた。班員の皆も相手の言葉が次第に心の奥の所から発せられてくる

手応へを感じてゐたことと思ふ。長内俊平先生が事前合宿で梅木紹男さんのことをお話し下さったが、合宿教室とはまさに「真剣は真剣によつて呼び覚まされる」場であることを実感した。

小田村寅二郎先生のご講義は、素晴らしいご講義で心を揺り動かされる思ひがした。「御述懐一帖」においては、孝明天皇の「朕實に斷然として：親征せんとす」とまで宣はれた悲憤慷慨された御心が胸に迫り、またこの、孝明天皇の御心をお偲びし皇居を拝したまま「悲泣して行くこと能は」ぬ吉田松陰の姿が眼前に浮かびくるやうだった。

この私利私欲を離れ、国の存亡に立ち向はむとする君民一体の力こそが国の命を守ってきたのだと思はれた。

最後の班別懇談の折に

胸うちにくぐもる思ひをとつと語り始めぬ一人の友は

班友を信ぜぬままに過こせしが苦しみなりとふ声も沈みて

思ふこと語らぬままに別れゆくことの寂しく皆うつむけり

ある友のしじま破りてその友に「信じてゐた」と語りかけるも

悩みをる友の面輪に笑顔こぼれそのひと言に救はれたりとふ



## 第九班 男子学生

日本人にとって「天」とは何か

(宮崎産業経営大学 経営 三年 矢田研人)

本合宿に参加するのはこれで三度目になりますが、今回は班長を務めさせて頂きました。二年前の合宿での自分を思ひ出しますと、また少し成長できたのではないかと思います。今回の合宿では小堀先生の御講義が印象に残りました。先生は漱石の英文学研究や鷗外の殉死小説に日本人の「個人主義」や「民族自決」の心情が現れてゐると指摘されました。また信仰についても触れられ、西洋の「ゴッド」に対して日本人の信仰の行先は「天」にあると説かれ、日本人にとって「天」とは何かといふ課題を残されました。私はこれを合宿で得た自分に対する問題提起として真剣に受けとめ、日本人として生きてゆく上での課題にしてゆきたいと思ひます。

変はりたる我を見つめて二年の流れ感ずる学びのひとつ

班長の重き責務を果たせしか合宿終はりて自問自答す

最終日班友の笑顔も見納めか呼び合ふ名前に親しみ覚ゆ

合宿で多くを学び去りゆくは大きく伸びたる初の参加者



御講義の後の質疑応答。真剣に質問する参加学生。

## 疑問こそ学問の始まり

(長崎大学 教 三年 朝久野圭一)

自分にとって今回を逃せば次はないと考え、少しもやもやした状態ながら初参加を決心した。班は皆いい人ばかりだった。最初はかたい感じだったが少しづつ本音も出るようになり、次第に意見の途切れがなくなってきた。講義で話されたことを鵜呑みにするのではなく、たとえその対極にあっても自分の意見を述べてゆく友の姿は何か強さのようなものを感ぜさせてくれた。マスコミを信じるかという話もあったが、反発であろうが疑問であろうが、自分の中に何かおやつ? というものがあればそこから学びは始まるはず。その意味でうちの班は意義ある討論ができたのではないかと思う。この合宿で何をつかんだのかまだよくわからないというのが正直なところなので、少し整理に時間がほしいと思っている。

集ひ終へ故郷めざし別れゆけど築きし友情いついづまでも

## 年来の疑問が解けた喜び

(亜細亜大学 法 三年 丸山忠一郎)

私は大学一年の時に、東中野修道先生に御指導を受けました。その中で、小林秀雄さんの「プラトンの『国家』」に触れましたが、それ以来ずっとある疑問を持ち続けてまゐりました。

この合宿には初めて参加させて頂きましたが、全ての御講

義、御講話をお聞き致しまして、小林秀雄さんの書かれた「巨獣の欲望」といふ箇所の意味が徐々に解けてゆくのを感ぜました。私にとりまして非常なる喜びです。戦後の教育と今日のマスコミが我々若人に与へる影響は甚大です。ややもすると、現状に埋もれがちな我々に一喝して下さいましたこの合宿教室に対し、感謝の念で一杯です。

長内俊平先生の御講話を聞き

父母に感謝せよとふみ言葉をとたまふ御姿胸に迫り来

先生のみ言葉心に刻み込めば勇氣となりて正義を感ず

## 有意義な討論の場

(拓殖大学 外国語 二年 橋爪貫弘)

現在の大学においてはほとんど討論の場がありません。今回合宿において、それが与えられ良かったと思います。マスプロ的講義では自分の脳で考えることはなく、ただ与えられたものを吸収することに終始します。合宿では講義の直後に討論を行い、より深い理解、他人の考えを得ることができ、ため、即座に欠点を補えることはすばらしいと思います。

多くの先生方が、教育現場では歴史的事実を一元的な視点でとらえたものを教えているとおっしゃいましたが、ある面で真実であると思います。しかしその批判の根底にある天皇観が全く理解できません。なぜ日本人が皆天皇を崇敬しなければならぬのでしょうか。先生方も一元的な見方になっていないのでしょうか。

## 今まで忘れていた大切なこと

(福井工業大学 工 一年 小泉英紀)

自分はこの合宿教室に初めて来たのですが、終わって見ると何か今まで忘れていた大切なことを教えられたような気がします。初日の絹田先生の御講義では内容が全く理解できませんでした。班別研修を前にして途方に暮れていましたが、班の人や班長、班付の方が自分の苦しまぎれに話した事を熱心に聞いて下さり、そして私の言いたい事を理解しようとしてくれたり、わからない所をわかりやすく話してもらって、自分は人と心を通わすという事はこういうことなのだなあとおおいに感動しました。

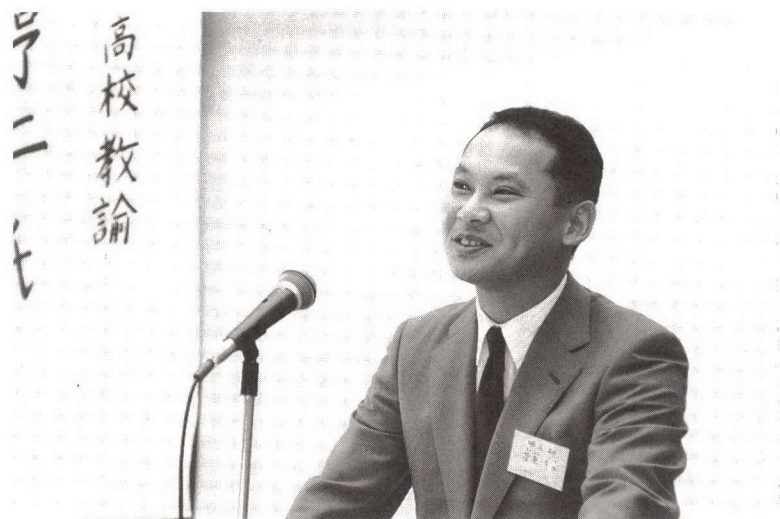
また長内先生の御講義では両親に対する感謝の気持ちがいかに深まりましたし、徳岡先生の厳しい内容ながらも、とてもユーモアあふれる話をされていたのが印象的でした。

過ぎ去りし日々思ひ出し別れゆく友の姿が涙で見えぬ

## 過去のことより未来の日本

(金沢工業大学 工 二年 大橋一仁)

私はこの合宿へは先輩に行けと言われたので来ました。その先輩がここへは行きたくないという理由で押し付けられた感じです。私は工学部で部活動は空手部、戦争や天皇についての関心もない。考え方も全くちがう人たち。僕の考え方は



三日目の午後、短歌創作の前に「短歌創作導入講義」が福岡県立水産高等学校教諭・菅原亨二氏により行はれた。高校生の短歌創作指導の体験を踏まへ、短歌を詠む喜びを語られた。

過去のことより未来の日本、いや人類や地球について考えるべき世代なのではないだろうか。大気汚染、水質汚濁等の環境破壊、そのために地球が未来の人類がダメになつては天皇も日本人としての誇りも考えることなどできないと思う。

文化というより日本の過去を肯定するような講義だけではだめじゃないかと私は思いました。

合宿がやつと終わつて今の不安はここからどうして帰らうか

## 第十班 男子学生

### 心待ちにしていた小田村先生の御講義

(九州大学 文三年 別府秀俊)

今回、初めて班長という役職をさせて戴き貴重な体験をしたように思います。

合宿では、小田村寅二郎先生の御講義を大変心待ちにして居りました。過去二回の合宿では拝聴する機会を得ず、今回御講義をいただけるということで全身全霊を以て先生が私共若人に、というよりも私にかけて下さる願い、想いを受けていくんだという思いで臨みました。

孝明天皇の「御述懐一帖」等を通して初めて、孝明天皇の大御心を拝察し、その「あらみたま」のような強い御決意に感銘を受けました。小田村先生の御講義、その御姿勢は合宿を通して最も印象深く、今後の自分の研鑽に大きな力となる

ことと思えます。最後になりましたが、講師の先生方、運営委員の皆様、四泊五日誠に有難うございました。

悩みをうち明けし班友に

悩みたるころのうちを語りたる班友のころにこたへざらめや

生くるべき道定めむとひたすらにおもふころはまなざしに見ゆ

他は他われはわれとふ友どちの言の葉聞くはさびしかりけり

傷つかむころおそれて人々とき合ふことをいとふ班友

もろともにころかよはし生きたしと君の思ひの伝はりて来ぬ

これからの人生に役立てたい

(拓殖大学 外国語 一年 藤村暢哉)

率直に言えば、この合宿へは軽い気持で参加しました。それが、初日の講義を終え、班別で討論が始まり、皆んな真剣に意見を交している光景を目の当りにして、場違いな所へやつて来てしまった、逃げだそうかと思いました。ふだん友人とこんなことを語り合わないのので討論の場ではあまり話すことができず非常に苦勞しました。

いかにふだん友人と毎日毎日つまらないことを話していたかというのがわかっただけでもこの合宿に来たかがあると思えます。

せつかく夏休みを削ってまで来たのだから、講義をして下さった先生の話を中心にとめて、これからの人生に役立てていきたいと思えます。

疲れけりこの合宿も最終日早帰りたし自分の部屋に

## 集中し、充実した生活を送った

(西南学院大学 法 一年 篠原和久)

こんなに頭を使って講義を聞いたのは生まれて初めてだ。大学の講義は休みっぱなし、たいした夢もなく社会に無関心な私がこんなに集中し充実した生活を送ったのは驚くべきことだった。漠然とした日々を過ごしていた私は、何かをつかむため、自分から求めてこの合宿に来た。心の悩みを打ち明ける友はほとんどなく、表面的な人間関係にあきあきしていた。生まれて初めてできた親友がこの合宿を教えてくれた。鳥肌が立った。生き生きしている人もいれば、私より絶望感を持っている人もいた。どちらも刺激的だった。生きていることに感謝し、やりたいことをやって生きていきたい。

居眠りを起こされし時思ひ出しぬ合宿に集ひしはじめの決意を

## 班員を信用でき、よい友になれた

(富山大学 理 一年 加藤武俊)

自分が今まで受けた教育や環境が、この合宿の講義の内容とまったく異なっていたため正直いって抵抗を感じました。しかし、班の仲間にその疑問をなげかけると、逃げずにその人の考えを述べてくれました。とても難しい天皇制の話も、互いに意見を述べ、ぶつけ合う楽しさを知りました。そして、腹の内を打ちあけて、とても班員を信用でき、よい友になれたと思います。



短歌創作をかねてのレクリエーション。合宿所近辺の牧場で童心に戻って馬とたはむれる。

合宿を終えて決意したことは、第一に、様々な本を読み、自分に欠けた近代史百十年をとらえること、第二に、親、祖父母、姉を大切にすること、第三に、若いエネルギーで夢を実現することの三つを掲げました。

今後は日々、完全燃焼していきたいと思います。

最終日朝日に映ゆる阿蘇山を見る我らの心すがしも

### あたりまえのものに感謝する心

(明治大学 法 三年 吉野裕介)

昨年来、国会での「謝罪決議」がにわかに関実味を帯びてきた。そのためか、今回の合宿では大東亜戦争に関する御講義が多かったようだ。私自身「謝罪決議」を行うことの重大さを身をもって感じ、同時に先生方の危機感をひしひしと感じることができた。このような話題は、今の大学生活の中では残念ながらもあまり語られることはない。だから、この合宿で見知らぬ全国の人と語り合えたことは新鮮で、意義深いものとなった。

又、長内先生の御講話からは「あたりまえのものに感謝する心」を改めてご教示いただいたと思う。見過ごしている感動、忘れていた感動があまりに多いことにも気付かされ、国や歴史、親、友などを本当に思える自分になれるような気がした。

全体感想発表にて

ご先祖に申しわけなしと涙する友の姿に胸を打たれる

### この合宿での四つの心がけ

(福井工業大学 工 三年 杉浦信正)

私は、二度目の参加となり、前回出来なかった事、やり残した事が出来る心がけました。一つは講義や班友の話をよく聞き、自分の考えをわかりやすく話すという事でした。講義は良く理解できなかった所もありますが、班友の言う事はよく聞いていました。しかし、己の考えをわかりやすく話すことが出来たかどうかは不安です。二つ目は、自分の知らない事、分からない事を班友と話し少しでも解決する事です。これは、班友に恵まれ、十分とはいかないまでも、かなり出来たと思います。合宿を有意義に送る事も出来ました。三つ目は人生の方針を打ち出す事でしたが、これは十分出来ませんでした。四つ目は、より多くの友人を作る事です。これは、数多くの人と話し合い友と呼べる様になり、これだけでも合宿に来て良かったと思います。

今後は、これらの経験をいかせる様に学生生活を送っていきたいと思います。

いつかまた会ふ事あると思へども良き友らとの別れは辛し

### 感ずる力を磨いていこう

(佐賀大学 理工 一年 本庄寛行)

「一輪の花の美しさをよくよく感ずる事は難しい事だ」(小林秀雄) この一文に対する理解が合宿で深まったと思います。

今まで我に囚われ、「何故一輪の花をよくよく感ずる事が必要なのか」と思っていました。

長内先生の御講話を聞き、親への感謝とは感ずるより他ない事に気付かされました。親と子との真のつながりの話を聞いて、「信じられない。けれど親子がつながりあえたらどんなにかいいだろう。」という強い気持ちにおそわれました。

又、感ずる力（感性）を、一輪の花を見る事や、日常の会話から磨いていこうと思います。国との一体感、戦没者の心を偲ぶ事、歴史を偲ぶ事も一輪の花からだ実感しました。

人の話をよく聞くことから国を背負って立つ人間になっ  
ていこうと誓いました。

あぜ歩む我等の前におのおの飛びかふトンボにしばし見とれつ

### 講師の方々の真剣さは本物だった

（熊本大学 文 一年 梅木紀宏）

今回初めて合宿に参加させていただきました。私が感じたことを正直に申し上げさせていただきますと、自分の主義に合わない所もいくつかありましたが、一つ心から感じましたことは、講師の方々の真剣さ、熱心さが本物であるということでした。

私は幼少の頃から人生を斜めにかまえて生きて来ましたが、こういう真心に接すると受け入れたくない、とかいろいろな感情がうかんでまいります。ですが、究極的には自分で決めるという考えを持っていましたから、うなづけることも

カメラ・レポート16



一汗かいた後の冷茶。心もほぐれて楽しく語り合ふ一時である。

いくつかありました。

## 第十一班 男子学生

自分なりの価値基準が持てるように勉強する

(福岡大学 経 二年 多久和明伸)

この合宿で一番心に残った講義は徳岡孝夫先生の講義でした。徳岡先生は、マスコミは無責任な言論をする。マスコミを信用してはいけないと言われていましたが、自分自身、自分の考えを持ちきれないため、マスコミの流す情報を使うのみにしてしまふ傾向が今まであったように思いました。徳岡先生は大人の知恵を持たなければならぬと言われていましたが、自分のこれからの課題として、マスコミの情報に流されない、自分なりの価値基準が持てるようにもつといろいろなことを多角的に勉強していきたいと思いました。この合宿は初参加で不安もあつたのですが、班員の人も親しくなり、参加して本当に良かったと思えました。

### 班別研修の折

自らの思ひし事を友どちに伝えることの難しさを知る

合宿で悩みが解きほぐれた

(明星大学 日本文化 二年 大西寛人)

「自分の中に何か変化がほしい」。この気持ちは私がこの合

宿に参加したただ一つの理由でした。社会の流れるままに大学というところまで進んできたわけですが、何か自分の心の中につかえる物があつてしかたがなかつたのです。この気持ちをごどこにどうぶつけて、解決したらよいのかわからず今まで来たような気がします。

しかし、その悩みもこの合宿に参加して、ようやく解きほぐされてきたような気がしました。

後の人生において、また新たな悩みが出てくるかも知れませんが、その時こそ今の仲間との友情を大切に思い、またの再会を期待しておきたいと思えます。

全国ゆ集ひ来たりし同士らとの思ひ出深き初の合宿

知らず知らずのうちにまじめになつていた

(富山大学 工 三年 新保良成)

今回初めて参加しました。最初は適当にやっておけばいいと軽い気持ちでしたが日程がすすむにつれて、知らず知らずのうちにまじめに講義を聞き、友と話し合っていました。何か新鮮なものがありました。内容はとても難しく、このくらいの短い期間ではとてもどうこう言えません。しかし何かを得た感じはします。これからの人生でこのことを考えて自分なりに答えが見つけだせたらいいなと思います。短い期間でしたが、とても楽しい人たちと同じ班になれてよかったです。この五日間は、一生の思い出の一つになりました。

阿蘇の地で友らとつどひ語らへばおのれの無知をあらためて思ふ



## 日本について深く考へたい

(拓殖大学 外国語 一年 宮本健之)

十一班の皆さんとまたどこかで会ふことがかたら光栄です。日本といふ国について、一度深く考へてみます。

## 学校では教えられない歴史を学んだ

(金沢工業大学 工 二年 小林信仁)

日本の歴史はほとんどが中学で習ったものしか頭になかった。しかしこの合宿では学校では教えないような歴史の知られていないようなことを教えていただいた。自分自身歴史には興味を持っていたが知らないようなことばかりであった。

講義中、先生方の話を聞くというよりは寝ないで起きているということに集中していて、話をされている方に対し失礼なことをしたと思う。来年、合宿に参加するようなことになれば、最低でも失礼な態度をとらないようにしたい。

(考へに考へぬきし合宿で得しよろこびを誰に伝へん)

## 心を触れあう難しさと喜び

(株神戸製鋼所 北村公一 28歳)

社会人としての生活の中で、御国の有様を憂えつつ、「自分は何をなすべきか、何ができるのか」という意識で参加しました。学生班の班長という重大な任務を授かり、合宿中は「いかに班員の心の声を引き出すか」ということばかり考へ



「慰霊祭」。夜のしじまの中、戦時・平時を問はず、祖国日本の為に尊い御命を捧げられた方々の御魂を心静かに慰めた。

ていました。班員に伝えるために、講義も全身全霊をかたむけて聞きました。班別討論を通じて得たのは、人の心に近づくといいことがいかに難しいか、ということでした。それでも少しづつでも班員の友らは心の声をさかせてくれました。

いまの思ひは、班の友らに手紙を書こう、友らのことをずっと心にとどめておこう、ということ。そして、講義をさされた先生方の声を、呼びかけを、ずっと心にとどめておこう、自分の疑問をずっと考え続けよう、という思ひです。

雲

さしのはるあさひにしろくかがやきてみ空を風に流されゆくなり

## 向上したい

(防衛大学校 人文社会 四年 二宮充史)

私は、二年前に一度参加しているのですが、二年たった今、自分あまり成長していないのを、この合宿によって、つくづくと思ひしられました。これからは、この反省を忘れることなく、日々努力して自分の人間性を高めていかなければならない。いつになるかわからないが、次に参加する時は、少しでも向上した自分が発見できるようにしたい。

日本の正しき道を求めんとつとむる友の姿たのもし

## 第十二班—男子学生—

### 楽しかった短歌相互批評

(東京理科大学 経営 一年 小島陵一)

この合宿へ参加したきっかけは、白濱裕先生に強く参加をすすめられたことでした。「友達を得るために来るぐらいの気楽な気持ちでいい。」とのことでしたので、だまされたつもりでやって来ました。感想を列挙したいと思います。

班別研修。自分も討論に加わることでいろんな意見を述べたり、聞いたたりして、考えが深まりました。

短歌相互批評。最も楽しかったものです。表現の仕方を真剣に考え、討論することで互いを理解する手段として良い方法だと感じました。

講義。内容が偏りすぎています。今回はいわゆる右派の主張ですが、左派の主張も聞いて討論するのが当然だと考えています。

それぞれがやつと慣れにし時来れど別れの時の近づきつつあり

### 人の意見を聞くことと自分の意見を言うこと

(拓殖大学 外国語 一年 山形和広)

自分は初めこの合宿について不安と緊張と疑いしかもっていなかったけれど、この四日間でかなり考えも変わった。そ

してなによりも個性的な人達と知り合えた。四日前まではまさかこんな短い期間で友達はできないだろうと考えていた。

しかし時間は短かくても肝心なのは中身の濃さで、班別研修などは一番効果があったと思う。とは言っても正直な話、自分はまだ若輩者で年上の人の知識、表現力に圧倒され、人の意見を理解するだけで精一杯で意見はとも少なかつた。そんな意見でもまじめに聞いてくれたのは本当にうれしく感謝したかった。この合宿で自分は人の意見を聞くこと、そして恥ずかしがらずに自分の意見を言うことの大切さを実感した。とても価値のある日々だったと思う。

つらねたる阿蘇の山々を眺むれば普段のくらしはしぼしぼ忘るる

## 知識のパラドックス

(福井工業大学 工 二年 富田恭夫)

部の方で強制的に参加させられまして、実にきつい合宿だということをやたら前から知っていました。自分にとっては、ほとんど使ったことのない部分(頭)を使えて良かったのではないかと思っています。

最終日の自由発表で、言いたいことをまとめていきましたが、いざ前に立つと緊張のあまり頭の中がまっ白になってしまい、言いたいことをほとんど述べることができず残念でした。合宿に参加して、大学の講義で聞いた「頭(脳)は使わなければいけない。しかし使っていない方も悪い方が悪ければサビができる」という「知識のパラドックス」という言葉を想い出



四日目の午前、(社)国民文化研究会理事長・小田村寅二郎先生のご講義。教育勅語などを取り上げられ、神代から一筋につながる天皇と国民のきづなを力を込めて語られた。

しました。合宿とは直接関係ないですが、とても大切なことだと思っています。

知りあへし友ともけふでさよならと会ふことなきと思へばかなし

### 良い班友にめぐまれた

(明治学院大学 社会 一年 城田育寛)

父がこの合宿に勝手に申し込んだために私は五日間の苦勞を背負った。しかし、今になって思えば父をうらむ心もないです。良い班友にめぐまれ、楽しい生活でした。

### いい体験ができたと思う

(金沢大学 教 三年 田中 匡)

自分は人の考えを間違っていると思つたことがない。だが反対に今まで多少なりとも生きてきて、自分の体験や環境を積み重ねて身につけた自分なりの考えや精神を人にとやかく言われても変える気はまったくない。かといって人の意見に耳を貸さないのではなく、人の意見は自分の考えに取り込んでみて生かしていくようにしている。こんな考えをもつた自分だがこの合宿ではいろいろ調べてみたい事実やものを発見したと、班員のみならず仲良くできたこと、新しい知識や考えを取り入れられたことはとても良かったと思う。特に見知らぬ班員と知りあつて、ふれあつたことは講義を聞くよりも自分の考えに影響を与え、いい体験ができたと思う。

酒や遊びは禁止でも良いが、スポーツ、運動をする時間が

あれば、もっとよく班員とわかりあえるし、リフレッシュもできるし、楽しくなると思う。厳しいだけでは押しつけられているイメージがすると思つた。

最後の夜自分の無力に憤り山に入って頭を冷やす

### どんとかまえる山々のように

(駒澤大学 経済 三年 林 晃平)

最終日の朝、素晴らしい阿蘇の山々を見て、もっと素直にもっと自分の信念を大切にしなければと思つた。と言うのも昨晩あるものをめぐって討論らしきものが起つた。自分は初めは大多数意見組だったがそれに真向から立ち向う人がいた。彼は立場がそうさせたのかもしれないが、実に見事に最後まで自分の信念を貫き通した。一方、その彼と対立する者もいた。その彼等も最後まで、最後の晩だからこそもっと皆で楽しみたいとただ班友を思う気持ちだけで最後まで引かなかつただけだ。こんないささつから雄大な阿蘇を見てもっと自分を大切に、自分の信念を貫き通さねばと思つたのである。どんとかまえる山々のように生きてゆきたいそんな気がした。

### 夜の集ひ

なつかしい昔の日々を想ひ出した。だ一心に民謡を聞く

## 我々がこの国を担うとき

(早稲田大学 教 四年 鈴木由充)

小田村寅二郎先生が御講義中最前列で居眠りしていた学生に対し「ねていてはだめだ。顔をあげよ。大事な話をしているんだから。」と喝を入れられました。「ここでどうしても諸君に伝えておかねばならぬ。」との気迫と愛情のこもったお言葉に姿勢の正される思いでした。このままでは麗しい日本の歴史・伝統・文化が崩壊してしまう。どうかそれらを守り伝える者になって欲しいとの願いが全ての講義において託されているように思いました。来年、終戦五十年を迎えます。戦後世代がこの国を支え、担っていかねばならぬ時代が、その中核を我々が担わなければならぬ時代がもう間もなく確実にやってきました。それに耐え得るだけの人になれるよう、これからも寸暇を惜しんで勉学に励んで参りたいと思います。

混迷の世を嘆かるる先生の思ひに何ぞ応へざらめや

愚かなる身にはあれども石通す水の如くに力尽くさむ

## 人生は甘くなかった

(甘木公共職業安定所 古川広治 28歳)

六回目の参加、三度目の班長、年令二十八。楽な気持ちで臨みましたが、さう人生は甘くありませんでした。いろいろな気をつかかせていただきました。特に最後の夜は格別でした。がまんしてくれてありがたう。

## カメラ・レポート19



四日目の午後、(社)国民文化研究会常務理事・長内俊平先生のご講話。「自分の運命をそのまま勇気をもって受け取ることがいかに大切か」とご自身の経験をもとに若き学生らに語りかけられた。

鈴木兄

力なき我にかはりて討論を進めてくれし君に感謝す

田中兄

班長が飲まねば俺は飲めぬとぞ言ひし言葉に男気感ず

林兄

スキーしてめしが食へればと思ふなら心を決めて励めよや友よ

富田兄

おとなしき君が勇気をふりしほり壇上に立つを見ればうれしき

城田兄

陰に陽にあの手この手でせまりくる君の誘ひにこまりし我は

山形兄

恥づかしさこらえて素直に思ふこと語る姿を見ればうれしも

小島兄

なかなか心開かぬ君にしあれどまた会へる日を楽しみにまつ

### 第十三班—男子学生—

心の底から話せる友人に出会えた

(福井工業大学 工 一年 増村博文)

まず考えつくのは自分の無知さであった。講義中、聞く事全てに新鮮な感動を受けるのはうれい事である反面、一つくらい知っている事があっても良いのではないか、と自分に腹立たしさを覚えた。特に小中高と大東亜戦争の内容の所で

絶対に正しいと思っていた所が、実は戦後の教育でゆがめられて教えられている事に気付き、正に自分の無知さを痛感した。

今後の課題として、合宿中の友人、講師の方々との交流、教えを道しるべにし、今回の合宿中に出た自身の弱点を鍛えんと共に新しい疑問を探し、答えを求めめる努力をおこたらない様にしてゆきたいと思う。

最後に、この夏季合宿教室に来て心の底から話せる人々に出会えた事に感動をしました。

朝日うけ緑生え立つ阿蘇の地の美しさ今新たに受けん

生まれ変わった気がする

(西南学院大学 経 一年 小島尚貴)

形容できないほどの充実感を得られて、自分が生まれ変わった気がする。この合宿に参加して真の心の支え、日本人としての誇り、その他いろいろなどでも貴重なものを得た。とてもこの紙一枚で書きされるものではない。

僕たち若者に渾心の思いを込めて話された先生方の講義は世代を超えて内なる日本人としての感性に訴えた。その後の班別討論でさらに素直な意見を交して理解を深められたことは、ここので終わらせるわけにはいかない。

日本の政治、文化、独特の良さ、戦前、戦後の歩みなどに皆と真剣に意見を交し合えたことが一番うれしかった。

占部先生、黒岩先生、僕に貴重なプレゼントをして下さっ

てありがとうございました。

真気で受け止めて来し先生の想ひを故郷で皆に告げたし  
偶然の出会いで得たる友達との厚木での再会今より望む

亡き父に今こそ言へるこの言葉「オレは少しもさみしくないよ」

大島さんへ

光る眼の奥に感じた温かさ明るく強き我らの班長

奥富さんへ

温かく最年少の僕の歌批評されしをうれしく思ふ

大山さんへ

若者の愛国心と悲しみを語られし声我は忘れじ

中尾さんへ

後輩を想ひて言はれる言の葉を宝と思ひ心にしまふ

前嶋さんへ

先輩と感じさせない雰囲気を我に与へし不思議な先輩

澤部さんへ

真剣な内に見えたるさはやかさ内気な我に感動与へり

鈴木さんへ

年齢を超えて感ぜし共感を再び厚木で持てたらうれし

増村さんへ

懸命に意見を言ひし君を見て同年としての安心覚ゆ

感動あふれています

(金沢工業大学 工 一年 鈴木尊之)

国文研のみなさま、こんな貴重な体験をさせていただきます

カメラ・レポート 20



福岡市立奈多小学校教諭・是松秀文氏による「創作短歌全体批評」。分厚い歌稿の中から数十首について、作者の心情や実際に見た情景に合ふやうに言葉を選びながら懇切に添削してゆかれた。

して本当にありがたいございます。本当にいい班だったと思います。本当に必死に考えて自分の意見について考えてもらうことの感動があふれています。

小田村先生の力説される姿に本当に感動いたしました。その中で一番心に残ったのは、吉田松陰の歌で「身はたとひ武蔵の野辺に朽ちぬとも留め置かまし大和魂」という歌で、いま自分たちがおかれている立場の重さを強く感じました。

一番感動したのはやはり長内先生の講義です。いまままで迷惑ばかりかけていた親、いまままで心配して自分に説教してくれた親のありがたみを本当に感じました。

これから心いれかえ、日本に誇りを持って、自分が勇氣と笑顔と自信を持ってがんばっていきたいと思います。

勇氣出し全員の前に臨みつつ本当の気持ちかたりゆきたり

班友と今日で別れる悲しさに「また会ひたい」と心から言ひたし

### 壇上に立てて幸せ

(宮崎産業経営大学 経 三年 前畠 誠)

班長さんの笑いのエールに一番感動しました。

後、僕自身、感想自由発表の時壇上に出たのですが、本当に足がちがちして足が震えて頭が真っ白になりました。この壇上でいまままで講義していた先生達は人にものを教えておられた訳であり、とても大変なことだと思つた。壇上に先生達の熱き思いが残っているような気がしてここに立てただけでも幸せでした。

また来年も来れたらいいなあと思います。

今回腰痛のため残念ながら合宿に出られなかった川井先生の分も頑張つたと思います。これからの歴史研究のためにも少しでも成長していきたいと思ひます。

大阿蘇に朝日当たりて鮮明に我の心に光当たらむ

### 先人の志を忘れず生きる

(日本大学 法 三年 澤部和道)

大東亜戦争に始まり戦前戦時戦後の日本、南京大虐殺の真実を知ることができました。また古来の日本史を今までとは違つた角度から見直すことによつて「日本国民としての心」が自分の中から呼び覚まされつつあるのを感じています。

日本のために亡くなられた先人の志を忘れて生きることのないようにすることを決心しました。

私は物心ついた頃から「何故、又は何のために自分は生まれてきたのか」という疑問を抱き続けていますが、長内先生の講話を拝聴して何か糸口をつかめたような気がします。これだけでも合宿に参加して良かったと思ひます。

班友、班長にも恵まれ、奥富先生、大山先生に逢えて本当に良かったと思ひます。

先人の日本にかけたその思ひ我受け継ぎて生きてゆきなむ



## 今までにない喜びを感じた

(九州造形短期大学 美術 二年 中尾国博)

合宿に向かう列車の中で偶然隣に乗り合わせた方が国文研の会員でいらっしやり、私が『短歌のすすめ』に目を通していた所、やさしいお声で「ピラパークの合宿に参加されるのでしょか」と尋ねられました。乗り合わせた偶然よりも気さくに声を掛けられた野間口さんの楽しそうな顔が印象に残りました。

熱弁を振るわれた御講義は大変になりました。考えさせられることも多く、最初は混沌とし素直に意見を出すことが出来ませんでした。しかし班長、班の方の熱心な御指導もあり、少しずつ整理されていき真剣に討論が行われ、今までにない喜びを感じました。

この合宿を勧めて下さった小柳先生に感謝いたします。

最後の日終はればはやく五日間笑顔浮かべてまた会へる日を

## 立派な日本人として生きたい

(株福武書店 大島伸一 25歳)

久し振りに大東亜戦争についてしつかりと学習させて頂き日常生活で日本の国の運命に思ひを馳せることがこの一年間本当に少なかったことが顧みられました。

知識面での努力不足は固より心が生きてゐないことに気がつきました。靖国神社の大山先生に紹介して頂いた緒方襄命



短歌全体批評を聴く参加者。的確でユーモラスな指摘に思はず笑ひ出すシーンも。

の辞世が特に強く印象に残つてゐます。

○いざさらば我は御国の山桜母の身元にかへり咲かなむ

母三和代さんの御歌は

○散る花のいさぎよきをばめでつつも母のこゝろはかなしかりけり

かういふ気持ちで祖国日本のために貴い命を献げて下さつたことを強くお慰びし、立派な日本人として生きてゆくやうに努めます。

小島尚貴君に

副班長をみづから進み引き受けし積極的な君に打たれり

鈴木尊之君に

班友の顔ばせしつかと見つめたる君の瞳の輝きてをり

増村博文君に

班室の少し乱れるスリッパをすつとかがみて揃へる君かな

前畠誠君に

口下手と自ら言へる言の葉の中に真摯な思ひ感ぜり

澤部和道君に

「お父さんにありがたうと言ひたい」との発表聞きて胸熱くなる

中尾国博君に

率先してすなほに語る君を見て皆リラックスして打ちとけてゆく

## 第二十一班—女子学生—

いつかあの涙の意味のわかる人間に

(尚綱短大 家政 一年 久保園えり子)

私は、この合宿に参加して、本当に貴重な体験をしたと思う。最初は不安ばかりで、講義を聴いてもあまりわからず、まず、先生が話される一つ一つの言葉を理解できなかつた。

班別研修も、初日は何を言つていいのか困つたが、班長さんが「何か心に残っている言葉や何でも、正直に話して」と言われ、少しずつ心に残っていることを話した。本当に皆一人一人真剣に考えていて、時には涙を流しながらの班別研修もあり、本当に驚いた。その研修になかなか入れなかつた自分に、今後悔している。そんな友を少しうらやましく思った。

いつの日か、先輩が涙を流しながら語つたことがわかる日が来るだろう。いや、あの涙の意味のわかる人間になりたい。

班別討論の時間に

真剣に語らるる友の涙みて感じゆきける我となりたし

## 班員と楽しく過ごした五日間

(拓殖大 外国語 一年 西村久美子)

私は正直いって、この合宿中は熱心さにやや欠けているという感じでした。こういった合宿に参加するのは初めてで、

「戦争」とか「天皇」といったことについて話し合ったこともほとんどなかったうえ、和歌についてもかなり苦手意識が強かったので、当然といえば当然だったかもしれない。

班別研修での、班のみなさんとの熱のこもった意見交換や、近くの山に登った時のすがすがしさ、全くダメだったはずの和歌も、創ってみればそれなりのおもしろさがあることなど、発見した点もいくつかありました。

班のみなさんとの五日間、楽しく過ごせていい思い出になりました。

友達と楽しく過ごせし五日間忘るるまじと心に誓ふ

### 父を頼りに参加して

(立教大学 文 二年 奥富さくや)

はじめパンフレットを読んでも、いまいちこの合宿の目的がわかりませんでした。長い間、父が力を入れて取り組んでいるほどのものであれば、きつと意味のあるものなのだろうと、それだけを頼りに熊本まで来ました。

絹田先生の講義は私にとって大変なショックでした。今まで日頃の忙しさにかまけて考えることを無意識に避けていたことを目の前で暴かれたからです。自分の国や先祖を卑屈に感じさせられていたことが悲しかった。今の私は飽和状態です。そんな私の整理しきれぬたどたどしい言葉に真剣に耳を傾けてもらい、人に語るのには完成した言葉ではなく、動き変化する気持ちを言葉にするものなのだと感じました。班員の



「班別短歌相互批評」。班友がどのやうな感動を詠まうとしたのか、その思ひを偲ぶ。歌を通じて班員相互の心が通ふ素晴らしい一時である。

皆が私の心を分かつたとしてくれたことが嬉しかったです。

がくもんはりっぱなひとになるためとちのことのはいまわかりり

## 夏季合宿セミナーに参加して

(尚綱大学 文 四年 森本美保)

今回の参加は初めてで、不安いっぱいでした。最初の講義からとても考えさせられる内容で、今までの人生の中でこれ程深く物事について考えたことはありませんでした。

班別討論では、皆と同じ考えではなく、惑いを感じたこととがありましたが、真剣に語りあえ、励まされました。物事を深く見つめる目、本気に生きる精神、人を思う心等を学ぶことができました。今まで何気なく過ごしていた毎日があったいなく思われ、一日一日、一生懸命生きていこうと思えました。先生方の御講義をお聞きして、家族のこと、戦争のこと、これからの人生のこと、再び考え続けたいと思います。

友達の間はいつもダイヤモンド私の心も光り輝かむ

## すなおな心の自分でありたい

(中村学園大 家政 四年 松隈香代子)

今回、長内先生の御講話での『美しいものを美しいと感じるには、自分の中に美しい心があるかどうかである』という言葉が、私の心に響いてきました。私達のまわりにある花や木々の美しさ、友達のやさしさや思いやりの心等、普段の生活の中から美しいもの、尊いものに感ずることの出来る、ウ

ソや迷いを払った「幼な心」|| 「すなおな心」の自分でありたいと思えました。また、『真心の自分であるためには、お父さん、お母さんと呼ぶことです』との言葉に、自分の本当の心をいつでもどんな場でも表現していけたら、どんなに自分の人生が明るく輝いたものになるだろうかと思われまます。少しづつですが、これを機に毎日何か一つずつ、今まで出来なかったことに挑戦していきたいと思えます。

班別研修の折にて

懸命に想ひ語るる友どちの熱き心ぞ伝はりて来る

## 班員の真心に触れて

(株東芝 丹羽冬紀子 28歳)

この合宿のパンフレットを目にした瞬間、私は感動で胸がいっぱいになり、社会人であることのためらいも忘れ、是非参加させて頂こうと決心していました。実際に参加して、講師の方の尊い魂の叫びのようなものに触れ、何度も心が震えました。本当に大切なことを人に語りついでいく生き方に憧れを覚えずにはいられません。今の自分にとって最も大切と思われることを体験させて頂きました。生活を共にした班員の皆さんのおかげで、どれ程私の心の中に眠っていた慈しみの気持ち、愛深き思い、本当の思いやり、優しさというものを引き出していたことか知れません。皆の真心が私の心の琴線に触れる度に、涙がこみあげてばかりいました。これから毎日を生きていく上での手がかりとなる心の姿

勢を、何かつかめたような気がします。

「全体の中で自分の役割を常に考えて行動する」「日本を愛することは、今隣にいる人を愛すること」――

日常に戻ってから、ここで得た感動を胸に刻みながら、私なりの大和撫子としての生き方をめざしてゆきます。

かたくなな我の心を柔かくほぐしてくれますありがとうございます。班友。

### 歴史の真実を伝えることの大切さを学んで

(株)神戸製鋼所 北村くみ子 28歳

この合宿には、主人の誘いで参加させて頂きました。高校を出てすぐ就職し、卒業後勉強らしい事を何一つしていませんでしたので、この様な私が講義内容についていけないのか、班別研修の時恥をかくのではないか、皆の前で恥はかきたくない、という自己防衛の気持ちがありました。しかし、恥をかこう、という気持ちでのぞみ、参加して本当によかったと思います。日本の歴史の真実を知る事がいかに大切か、歴史にはその時その時に生きていらっしやった御先祖様方の気持ちを深く含んでいるというのを、決して忘れてはいけないということを学びました。

常に自分の心を磨くことに努め、自分の子どもにも真実を語っていけることに、とてもありがたさを感じています。

全体感想発表の折に

壇上で語られし友のみことばの胸にしみみて涙とまらず



「夜の集ひ」。四日間の緊張もほぐれ、愉快的演出に歓声が上がる。班別・地区別に思ひ思ひの出し物が披露され、集ひの場を盛り上げる。

自分の役割を果たしてゆきたい

(尚綱学園 大学教務課 白杵直子 25歳)

今回、またこのような素晴らしい合宿に参加させて頂けたことに、心から喜びを感じています。合宿前日より参加し、微力ながらもお手伝いさせていただきましたが、合宿全体の運営が、これほどまで参加者全員のことを思い考え、綿密かつ慎重に行われていることを初めて知り、驚きと同時に感謝の念でいっぱいです。本当に有難うございました。

また班では、それぞれが心の中に確かに光輝く素晴らしい生命を持っており、ふとした折にそれが現れ、触れることができるかと本当にうれしくなりませんでした。その美しい生命を大切にして生きてもらいたいと強く願わずにおれません。この合宿は私にとって心の修煉の場であり、生命を開かせてもらえる一つの貴重な場です。日本の国に生まれた、一日本人として、自分に課せられた役割を果たしてゆけるよう、励んでいきたいと思います。

「この国に生まれて本当によかった」と揚がる日の丸拝しつ思ふ

## 第二十二班―女子学生―

素直な自分が見えて来た

(東北女子短期大学 生活 二年 松橋 綾)

この合宿に参加して参加しなければ会うことのなかった全国各地の友人を得、また普段真剣に考えることのない祖国日本の歴史と、あるべき姿を学ぶことができました。

初めての参加で期待する気持ちより不安の気持ちが多かったが班友と語り合い、お互いの考えを知ること次第に素直な自分が見えて来たような気がします。最初は持っている知識で自分の無知さを包み隠していた私。しかし、理解し合い共感することで飾ろうとしなければもつといろんなことが素直に受けとめられることに気付きました。

教々の心に響く講義で、日本人として正しいものを選択できる心の眼を養うことを教わりました。合宿で得たもの、今すべきこと、祖国日本のことを深めて行きたいと思う。

素晴らしき班友たちに恵まれて素直になりぬ今の我が身は

貴重な発見をした

(青山学院大学 経済 二年 衛藤美湖)

夏で良かった。太陽が強く明るくて良かった。そうでなければ本当は大したことではないはずの思想の違いを、変に思

い悩んでしまったかもしれない。居心地の良い場所へ帰りたい。居心地の悪い場所へ帰りたい。居心地の悪い場所へ帰りたい。

私は昔から左派的な考えの持主とされてきたし（実際はそうでもないけど）、友達もだいたいはそうです。でも私は一つの視点からしか、ものを見ることのできない頭の固い人間にはなりたくない。だからこの合宿に参加しました。

講義はどれもとても勉強になり、素晴らしいと思った部分もたくさんありました。街のない国文研の先生方にも学生の皆さんにも本当に人間的魅力を感じます。これは貴重な発見です。

まごころをもちてゆきたしと思ふならいろうなたちはを知るべきと思ふ

もつと勉強していききたい

（専修大学 経済 二年 上田和花子）

この合宿に参加してまず感じたのは、自分の知識の無さでした。班別研修でほぼ同じ年齢の人との差を痛感し恥ずかしさを覚えました。それは、自分が生まれ暮らしてきた国のことなのでなおさらでした。しかし、ここでただ落ち込むのではなく班友の姿を見て、感じ、自分もそういう姿になれるよう努力するきっかけを作ろうと考えました。今、自分の無知を悲観するのではなく、これからもつと勉強していききたいという前向きな気持ちを持つことができ本当に良かったと思います。

短歌の創作では、三十一文字の中に気持ちを表現すること

カメラ・レポート24



合宿運営委員長・白濱裕氏による「合宿を顧みて」。白濱運営委員長は「内的平等の世界が実現できたとすればそれにまさる喜びはない。心にともつた灯を消さずに、来年の厚木で再会したい」と語られた。

の難しさ、言葉の美しさを学べたような気がしました。

こういった機会を与えて下さった方々と、未熟な私と五日間共に過ごしてくれた班友の方々に感謝します。

最終日に別れ惜しみつつ友どちとまた会はうよと言葉を交はす

### どれも貴重なお話だった

(大阪市立大学 文Ⅱ 一年 利川恭子)

この合宿に参加して、初めは単に日本文学とか文化のようなものについてのお話なのだろうと軽い気持ちでいました。

九州も初めてだし私は山が好きなので阿蘇の山でも見に行こうかなという観光気分だったので、送られてきた予定表を見ると国歌斉唱などがあったので、これはちょっとちがうような不安な気持ちになりました。

今、日程がほぼ終了し、自分に何が残ったのだろうと思うとうすぽんやりとしか言葉に表せない自分がとてもどかしくて、一体何が自分に足りないのかそれを考えています。

私が考えていた講義とはかけはなれてはいましたが、どれも貴重なお話だったと思います。班の人達の明るさがとてもうれしくてすぐにうちとけてしまいました。

おほいなる自然に頭たれるとき人の心に隔たりはなし

### 「生きる覚悟」を学んだ

(尚絅短期大学 家政科助手 武内倫子)

あつという間の五日間でした。実を言うといやいやながら

の参加でしたが、今は何か清々しい気持ちで一杯です。「この合宿で学んだことは」と問われればこう答えます。「生きる覚悟です」と。講義の時、先生方が壇上から発せられる言葉は言葉となつて私の胸に響きました。慰霊祭では古代にタイムスリップしているようで、自分が自分でないような、昔からいるような気がしました。先祖を、そして国をいとおしく思えたのもこの時が初めての経験でした。又、班別研修の際、私のくだらない発言にも一生懸命耳を傾けてくださる先生のおかげで素直な意見が言えたような気がします。班友にも恵まれました。班長さんのおだやかな口調にホッとさせられ、緊張の中のオアシスだったように思います。皆さん、五日間本当にありがとう。

八月十日、朝の集ひ

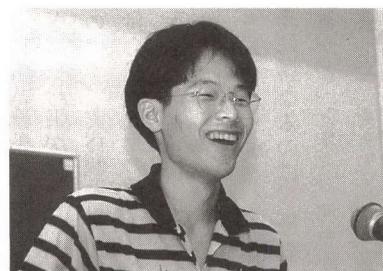
ゆく雲に時の流れを感じつつ今日が最後と仰ぐ日の丸

### 貴重な体験ができた

(市ヶ谷漢方クリニック 杉本幸絵 22歳)

四泊五日の合宿が終って、正直いつてほつとしました。最初は、本当にどうなるのだろうと不安でしたがありませんでした。合宿に参加したのはクリニックの先生のおともといふことで、九州をはじめだし、観光もできるしと安易な考えからでした。一日目が始まって講義を聞いている時にだんだん帰りたくなり、何で自分がこんなことをしているんだらうと後悔し、まだ四日も残っていると思うと夜もねむれない





「全体感想自由発表」。友らは次々と登壇し、この新宿教室で何を学び、何を感じたか、各々こみあげてくる思ひを率直に語ってくれた。

位でした。しかし、二日、三日とすごしていくうちにだんだんとなれ、楽しくすごせるようになりました。私は今まで戦争の事や日本の歴史などを深く考えたり、友と語り合ったりした事がなかったので、すごく貴重な体験ができました。先生がたの熱のこもった話を聞いているうちに、日本人なのに日本のことを全くといっていい程理解していないことを実感させられました。この機会に日本のことをもっと勉強しようと思いました。

運命に導かれつつわれはきぬ遠い都会まちからこの阿蘇の地に

陛下に思ひをよせる日本人が絶えまなく續いてほしい

(佛教大学 通信教育 新谷幸恵)

今回は三回目の参加でしたが、慣れてきた為か傲慢さが出てきて謙虚になれなかった所が多かった様に思ひます。人と相對する時に祖国くにへの思ひを「いつかわかつてほしい」といふ思ひと「無理なのではないか」といふ気持ちがゆききしてゐました。中でも、小田村先生の「『大きな穴』を埋めて差しあげたい」といふお言葉にこめられた思ひをおしのびした時、国文研の先生方も自分に対して「差」を感じられつつも心をこめて接して下さるお姿が思ひ返されました。「夜の集ひ」で歌った「神洲不滅、我らは信ず」といふ言葉の響きに涙を流して感じられる自分を信じてゆきたく思ひます。

小田村先生の「天皇と国民」のつながりをお聞きし、陛下へ思ひを寄せる日本人が、今、細くならうとも絶えまなく續

いてほしいといふ願ひを強く持ちました。

長内先生の御講義をおききして

吾がことに心痛めるわが母の姿いくたびも心をよぎりぬ

## 第二十三班 女子学生一

本物を見据えることを学んだ

(熊本大学 文 聴講生 延塚恭子)

精神のとても高まった四泊五日間でした。本物をしっかりと見据える、ということ学びました。初日、戦争・平和を論じる自分の意見があまりにも観念的で、もどかしい思いをしました。自分で言葉に虚飾や誇張が分かり、つらく、初めて知識が邪魔だと思ったのです。実体験と思ひひとつをそのままに話して下さる、班付の徳永先生の前で、恥ずかしくてなりませんでした。けれども私は心に感じたことをただ発していくしかない。力を抜いて研修に臨みました。

そんな時、班のみなさんの明るさに救われました。普段の環境も性格もさまざまに異なるのに、班の中には一人のちよつとしたしぐさに皆がどつと笑う、和やかな雰囲気、安心感が醸し出されました。そうした情の通い合った中でこそ、心の内が打ち明けられる。思索が深められる。友のあたたかさ、有難さを感じました。本当にありがとうございました。

徳永先生のお話を聞いて

戦場<sup>いくさば</sup>で己<sup>おのれ</sup>が心をしかと持ち生き来し証<sup>あかし</sup>示<sup>しめ</sup>さる師<sup>し</sup>はも

馬場にて馬<sup>うま</sup>とたはむれながら

背後よりすりつけし鼻<sup>はな</sup>のぬくもりにおののきつつも手をさしのべぬ

なめらかな黒き毛<sup>け</sup>のぬくき肌<sup>かわ</sup>かきなでをればなつかしく思ふ

これ程充実した休暇はなかった

(防衛大学校 国際関係 三年 大谷三穂)

今回が初めての参加といふことで、不安と期待を胸にこの阿蘇の地へやって来ました。もちろん防大の女子学生の参加はこの私が最初ですから自分自身に課された責任は重大で、何か不適切な言動に出れば、それが防大女子学生として受けとめられるのではないかと、常に緊張していました。しかし班の雰囲気は活気に満ちあふれ、それぞれ個性を持った班員が私を温かく迎え入れてくれたのです。

四泊五日という短かい期間ではありましたが、私はこれ程充実した休暇を過ごしたことはありませんでした。日頃防大というある意味で閉鎖された社会で生活している私にとって、各地からいらっしやった学生や国文研の方々との会話が余りに新鮮で、この合宿以降再び出会うことを願わずにはいられません。本当に皆さんありがとうございました。

共に泣き笑ひし友との再会を心に誓ひ阿蘇を背にする

カメラ・レポート 26



閉会式で学生を代表して挨拶をする早稲田大学四年の伊藤華恵さん。「歴史は単なる記録ではなく、先人の思ひが託されたものと感じました。来年も厚木で会へるのを心待ちにしてをります」と語りかけた。

## これからの生き方を学んだ

(尚綱短期大学 家政 二年 枝川美紀)

初めてこの合宿に参加して、本当に良かったと思います。

それは友達が出来たということもあるのですが、やはり一番は、これから生きてゆくための生き方を学んだということです。最初は、難しい話をされていて本当に大変でした。討論の時も自分の意見が十分話せず、涙が出そうになりましたが、慣れてくるにつれて意見も出来、皆さんの話も理解出来るようになって本当に良かったと思います。やつと皆さんと仲良くなったのに、今日で終わるのかと思うと少し悲しい気がします。この合宿に参加して、日本各地に友が出来て本当に良かったです。また出席できればと思います。

班友とやつと仲良くなれたからもっと一緒にいたいと思ふ

## 学びの再スタートとなった合宿

(長崎大学 教 二年 白石由美子)

今回二度目となったこの合宿は自分にとって学びの再スタートとなるものでした。昨年、戦没学徒の方々の遺稿集と出会い、真剣に日本の歴史、文化について学びたいと思っていました。しかし、いざまわりに語ろうとする時、自分には具体的に語るものがないことに気が付きました。今回、小田村先生や小堀先生、徳岡先生のお話を聞き、自分には「侵略

国家ではない」という確信はあってもそれを語る時、歴史事実をしっかりとおさえていないために、うまく伝えられないのだと思いました。真剣に学びたい、歴史を知りたいと思いました。

長内先生は父・母を大切にしなければと言われましたが、それは父母をおもひ気持ちと同じ様に国も大切におもつてくれと言っておられるのではないかと思います。「守るに値する国守るべき国を守った」と先人の方々は言われました。先人の方々が守って下さった日本を私は守っていきたく思います。先人の方々に恥じない生き方をしたいと思います。

布団敷き枕ならべて故郷さとのこと語りつ夜はふけてゆくなり

## みんなの発言が楽しみに

(尚綱大学 文 二年 浜元美千代)

初めての参加で、初日は慣れないホテル、日程に追われて過ぎてしまいました。実際に大変な合宿に参加してしまっただと思っただのは二日目からで、講義の内容や質問がとても難しく、班に帰って研修に参加出来るかどうか不安でした。しかし、班員とうちとけてくるうちに、みんなの発言が楽しみになり始め、実のある合宿だったと思います。初めのうちは「私の考えを聞いてよ」という気持ちでしたが、いつの間にか「あなたの考えを聞かせて」という気持ちになっていたのが今回が一番良かった点だと思います。

語りあひうちとけ合って笑み浮かぶなごりをしみつわかれ近づく

## 先人の意志を私の方法で受け継ぎたい

(東京農工大学 農 一年 濱口香織)

この合宿は兄のすすめで来たのですが、最初はこの合宿に参加したら自分で右翼だという兄の活動に巻き込まれるのではないかと、洗脳されるのではないかと思いついて参加するのを拒んでいました。しかし志望の大学に入り東京での生活を始めるのと何か満たされないものを感じ、何か一つでもヒントになるものを探したいという気持ちで参加しました。

私は中学校三年間担任の先生が共産党支持者だったせいか、この合宿で講義された内容にひどくショックを受けました。どちらが正しいかは今は答えを出す気にはなりません、これから自分で追求していきたいと思えます。しかし戦争体験者の徳永先生のお話を聞いて、戦場に行った人々は日本を守るために行かれたのだなということは確信出来ました。私はその人々の意志を私の方法で受け継いでいきたいと思えます。友達とまた会おうねと約束しその日に向けて勉強しました。

## たくさんさんの貴重な体験をした

(拓殖大学 外国語 一年 渡辺佳代子)

大学の先生に勧められて参加したこの合宿もあつという間に五日間が過ぎてしまいました。初日はまだ慣れていないせいで疲れました。しかし、日を追うごとに班の人達とも親しくなっていき、だんだん楽しくなっていきました。



主催者を代表して(社)国民文化研究会副理事長の上村和男先生が「手を携へて、祖先の創つた日本の国がらを守つていかうではありませんか」と語られた。

この合宿でたくさんの貴重な体験をしました。短歌を詠んだり慰霊祭に出席したり、いろいろな先生の講義を聞いたたりしてとても勉強になりました。班別討論ではみんなの真剣な意見を聞き、こんな考え方もあるのかなどと思いました。また、班付の徳永先生の戦時中の体験談をお聞きして、実際の戦争というものがどういものであるのかが分かりました。この合宿に参加して本当に良かったと思います。またいつか、この仲間たちと会える日を楽しみに毎日を過ごしていきたいと思います。

たくさんさんの思ひ出残し阿蘇の地を去り行く今はさみしさつゝのる

## 第二十四班—女子学生

### 日常考えることのない問題を考えた

(関西大学 商 二年 山下牧子)

大阪から電車に乗り、遠いこの阿蘇の地で、多くの先生方に出会いました。日常生活の中ではなかなか足をとめて考えることのない数々の問題に直面し、自分の中を整理し、頭で考えていることを言葉にして表すことができました。そして班員の皆さんの意見を聞くことができました。

心静かに自分と向き合い、仲間と向き合い、日本の伝統・文化、両親に対する気持、過去の戦争などについて考える時間が大学二年のこの夏に本当に不可欠だったと思います。

班員のみんなともこんなに自然に交わりのひとときが持てよかったです。

今回与えられ、生まれた問題について、大学生活の中でじっくり学んでいこうと思います。

班室で神様について語る

「聞きたし」と問ひてくれたる友どちにあふるる言葉で主を語らひぬ

### 未来を託す姿に感動

(文化女子大学 造形 三年 城田和見)

今回が初めての合宿参加だったのでとても不安でした。親に勝手に申し込まれたので、合宿の終日まで九州のどこかに潜んでいて行ったふりをしようかとも思いましたが、その勇氣もなく結局この阿蘇に来てしまいました。初日は予想どおりきつくて泣きたくなりました。二日目からは「私はやっぱり人間だ」と思いました。慣れてきたのです。人間で良かったと思います。そして楽しくもなりました。

私達のおじいさんに当たるような年齢の方々が真剣に私達に語りかけてくれる、この国の未来を託すため力をつくしておられる姿に感動しました。

縁濃き大阿蘇の地のカルデラの出会いの喜び我は忘れじ

### 日本の素晴らしさに誇りを感じる

(早稲田大学 政経 四年 伊藤華恵)

この合宿に参加し、先生方のお話を伺う中で、本当に日本

の素晴らしさや美しさを感じ誇りを感じます。世の中は色々なことが起きていて、どこかおかしなことも多くありますが、それでもきっと日本は続いていくと思いますし、自分もそんな日本の伝統精神をしつかりと守っていきたくと思っています。また長内先生が言われたように「おさなごころ」を守り、自分の心を更に磨いていきたいと思っています。毎年この合宿に参加して、国文研の先生方にお会いできることが本当に嬉しくて仕方ありません。そして、こうした貴重な機会を与えてくれて下さることに心から感謝します。

かはりなき先生方にお会ひして再び言葉を交はす嬉しさ  
戦場に征かれし人の歌詠みてその尊さに心うたれる

## 大和魂に触れることが出来た

(尚絅大学 英文 一年 東 陽子)

この合宿で、最も感動したのは、日本人の持つ大和魂に自分が触れ、感じる事が出来た事です。特に絹田先生が、私の心の中にあつた、どちらかと言えばマイナスの感情を拭い去って下さったばかりでなく、日本独特の心の有り方を教えていただいたことに感動し、胸のつまる思いがしました。

誤解されている陛下、兵士の方々の胸中を思うとやるせない気持ちでいっぱいです。

今まで適当に生きて来た自分に、熱い使命感が沸き上がって来るのを感じます。

みんなが心の底から、日本人で良かったと思える日が来た



別れの時。名残りつきない思ひを胸に「さやうなら。また会はう！」と再会を期して、合宿地を後にする。

時、殉死された方々や、肉親を亡くされた方々が救われるのではないでしようか。

前線へ向かふ兵士によせて

進みゆく兵士の胸を察すれば心ふるえてしばし声も出ず

### 素直に感じることの大切さ

(京都外国語大学 外国語 一年 井川裕美子)

今回初めてこの合宿に参加して私は班員や先生方のいろんな意見や考え、体験を聞いて心が研ぎ澄まされていくのを感じた。たった四、五日間で、これだけの量の話を受け止め、自分のものにするのはとても大変だったが、普段ではできない貴重な経験ができたのは、本当によかったと思う。

概念や観念といったものに振り回されることなく、素直に自分の中で感じるといったことの大切さを身をもって認識したように感じる。頭で考えるのではなく心で感じる。和歌を詠むことができ、ほんの少しだが日本の心に触れることができたと思う。

合宿を終へて

どうしよう先を考へ悩むより自分を信じ一歩踏み出すべし

### 分らない点を受けとめる力を持ちたい

(中村学園大学 家政 一年 前田美幸)

大東亜戦争や天皇制に関する御講義をお聞きすると、あまりの難しさに啞然としてしまった。先生はあんなに熱心に話

されているのに、周りの人々はあんなに真剣に聞いているのに、私は理解できず、申し訳ない思いだった。しかし私なりに精一杯臨んだつもりである。短歌や長内先生のお話になると、すんなりと受けとめることができた。これは自分の心の中で真に自分の課題としてきたからだろうか。戦争や天皇制について学んでも、どこか関係ないという気持からぬけられず、自分に問われているのだという意識がなかった。それゆえ今回のすばらしい講義を受けとめる力がなかったのだと思う。合宿から帰ったら分らない点を勉強し、自分のものとしていきたいと思う。

朝露にぬれしつゆくさ輝きてこくうつくしく咲きにけるかな

呼びとめて「頑張ってね」とのたまひし先輩の言葉そありがたかりき

### 閉ざされていた心が開かれた

(熊本県荒尾市荒尾第五中学校 坂本順子 28歳)

合宿で人の話を聞き、その意見に応え、また私の言葉にも真剣に耳を傾けてくれる友に、新たな知識を授かり、今まで閉ざっていた心の扉が、この四泊五日で開かれ、その心には豊かなる友の心が一つにまとまったような気がします。これからは自分の中にある矛盾、疑問に対して前向きに答えを見つけていきたいと考えます。

朝の集ひにて

風さそふラベンターか番せり吾れもまたすがし心をもたむとぞ思ふ



## 自分の思い上がりに気づかされた

(東北女子大学 家政 四年 寺山知寿)

今回、この合宿に参加でき、本当に良かった。最初は自分の考えが変わってしまうのではないかと不安な気持ち、でも自分の考えというのは本当に自分のものなのだろうか。偏った情報だけしか受けていないのではないかという思いもあり、不安と何か得るものがあるのではないかという期待を胸にこ、阿蘇の地までやってきた。

合宿が始まり、やはりまず自分の思い上がりに気づかされた。先生方の熱心に心から話される御言葉に感銘し、良き友にもめぐり逢え、これから学ぶべき方向を示して頂いた気がする。

### 朝の集ひにて

雲晴れて阿蘇の山々迫りくるああ美しき自然の姿よ

## 第二十五班—女子学生

### 真実を見つめる目を持ちたい

(御所浦中学校 教諭 山方富美子 31歳)

現代は様々なメディアが発達し、多くの情報が得られるものの、それを正しく受け止めるには心をしっかりと鍛え、磨いておかなければならないと思います。心を磨くということに

でも自分の考えというものは本当に自分のものなのだろうか。偏った情報だけしか受けていないのではないかという思いもあり、不安と何か得るものがあるのではないかという期待を胸にこ、阿蘇の地までやってきた。

合宿が始まり、やはりまず自分の思い上がりに気づかされた。先生方の熱心に心から話される御言葉に感銘し、良き友にもめぐり逢え、これから学ぶべき方向を示して頂いた気がする。

### 朝の集ひにて

雲晴れて阿蘇の山々迫りくるああ美しき自然の姿よ

## 第二十五班—女子学生

### 真実を見つめる目を持ちたい

(御所浦中学校 教諭 山方富美子 31歳)

現代は様々なメディアが発達し、多くの情報が得られるものの、それを正しく受け止めるには心をしっかりと鍛え、磨いておかなければならないと思います。心を磨くということに関して、この合宿で深く考えさせられたように思いました。

普段の生活においては時間に追われ、機械的に物事かたづけてしまい勝ちで、そうした生活の中では「考える」ということ、「人々の心を思う」ということがつい疎かになってしまいます。こうした中で勇氣と信念を持つことにより真実を

見つめる目を確かなものにしてゆきたいとこの合宿で感じました。

難き書も皆と幾度読みゆけば自づと分かる心地するなり

### 多くのことを学んだ

(熊本大学 法 二年 山下まみ)

この合宿に初めて参加して色々なことを学ぶことができた。五日間の出来事を思い出すと自分自身が日を重ねることに変わった様子が分かる。初日はやはり緊張と不安が入り混り、うまく自分を皆の前にさらけ出すことができなかったが、今ではその様な気も全く忘れ去っている。自分が思っていたよりも無知であること、自分の考えを他人の前で述べることの難しさ、他人の考えを受け入れながらもそれを吟味して自分のものにするこの大切さ等、本当に多くのことを学んだ。来年も是非参加したいが、そのためには学んで自分を磨いていかなければならないと思う。

住む場所も心も違ふ人々と打ち解け合ふはなんとすばらし

### 戦争の問題を考えたい

(御領小学校 教諭 卯野木希代子 27歳)

合宿の内容は殆どが戦争や昭和史に関するもので、今まで誰も教えてくれなかった日本人の立場から見た戦争や歴史に関する資料を目にすることができ、驚きとこんな考え方もあったのだという新鮮な感動を覚えました。私の祖父はフィ

リピンに兵隊として行き、どこで死んだかも分からず、遺骨もありません。会ったこともない祖父ですが、尊敬しており、祖母とともに慰霊祭にも参加してきました。しかし、それは別に戦争への罪意識、戦中の人達との思想の断絶を感じ、日本を誇りに思うことも素直にできないできたような気がします。小林先生の「かくまでに大御心を煩はし悩ましまつりぬ昭和のみ民は」の歌を読み、戦争の問題を自分の立場として捉え、よりよい日本にするための答えを見つけてゆかなければならないと強く思いました。

集ひける友らと語らひうちけて人の心のあたたかさ知る

### 長内先生のお話に感動した

(長崎大学 教 二年 有川由紀)

長内先生のお話はこの合宿で楽しみにしていたもので、先生のお父さんのお話はその情景が目には浮んでくる様でした。何か昔のことを思い浮べる時の様になつかしくもあり、寂しくもありました。その話の中に美しいものはなぜ美しく見えるのかという言葉があり、先生はそれは神の命と我が心が結びつくことだと言われ、その時点ではよく分かりませんでした。しかし、ラジオ体操の時、見上げたら真青な空があり、それを見た時心がスーとしました。自然の中に自分が融け込むことを心が開かれることと言うのかと思いました。神の命と繋るといふことは今学んでいる天皇のことや戦争のことを心から理解し感じることに繋るのではないかと思ひ、私はま

だそのことに怖さもありますが、やさしいおらかな心で頑張つてゆきたく思います。

ハイキング途中の踏切にて

真直ぐとのびゆく線路の上に立ち我ふるさをつくづく思へり

皆と別れるのが悲しい

(尚綱大学 文 一年 倉田あかね)

この合宿が始まった日、私は初めてということもあつて不安と緊張でとてもドキドキしていました。自分達の部屋に入つて班の人と顔を合わせた時、ああ本当に最終日まで頑張れるかなと思いました。講義も自分にはとても難しく、班別研修の時、感想を述べるのに随分苦勞しました。でもそんな時、班付の小林先生や他の班員の意見を聞いて理解でき、こんな風に自分が納得できるまで話してくれる友達ができたことがとても嬉しかったです。二、三日も過ぎると皆昔からの友達のように自然と会話ができて、贅塚までのハイキングもとても楽しいものでした。今日で皆と別れてしまうかと思うとても悲しいです。年齢・職業・学校に関係なくこの五日間を共に過し、意見を述べる合うことができ、とても良かったです。

阿蘇の地に不安な思いで来つれども終はりを向へ淋しく思ふ

班員に恵まれた

(拓殖大学 文 一年 宮下紀子)

最初はどんな合宿か分からずに来て、講義が始まつてからハードでただただ憂うつな時間を過ごしていました。でも私は班員に恵まれたので特別には研修も気がねせずに参加することができました。目的もなく参加した私ですが、考える時間が与えられ、いつもと違つた雰囲気の中で今までは違う自分が見えかくれたような気がします。

別れ際次いつ会へると友抱けばすぐ会へるよとまぶしく笑ふ

日本の素晴らしさに感動した

(熊本大学 法 二年 江原紀子)

申し込んでから阿蘇に着くまで少し不安がありました、日頃拝聴することのできない諸先生方の御講義に期待を馳せこの合宿に臨みました。それは決して裏切られる内容ではなく、五日間がとても短く感ぜられました。私はこの合宿に参加したのは今年でまだ二回目ですが、参加する毎に自分が血の通つた心を持つてるようになっていきたいと思います。大学に入るまでは考えもしなかつた日本の素晴らしさを素直に見つめ、感動できる自分に正直いつて驚いています。又、すぐにうち解け合えた班員、そして我の強い私達を最後まで優しく指導して下さつた小林先生、本当にお世話になりました。

青空を荷をまとめつつ見上ぐれば友と別るる今日ぞさびしき

この気持を持続させたい

(御領小学校 教諭 田苗安希子 23歳)

この五日間、色々な先生方の御話を聞き、又班員と討論し、新しい発見と同時に多くの課題を託されました。この合宿を終へるにあたり、二年前に参加した時と同じ心境を迎へていす。前回も合宿を終へたら、学んだ気持を忘れずに、又課題をいつも心に持ち続けていかうと思つてゐましたが、その気持は日々の生活の中に埋もれていつてしまひました。今回は前回より少しでもこの気持を持続させていけるように努力してゆきたいと思ひます。当り前のことに気付き、感謝の気持を忘れ勝ちな日常で、次の合宿までこのことを課題として学んでゆきたいと思ひます。

やうやくに心開きて語らむとするころなれど別れの訪づる

## 第二十六班——女子学生——

心通はせ合へることは何ものにもかへがたい

(熊本大学 法 二年 成清幸子)

心を開いて友と接することがなかなかできない私にとつて今回、二十六班の皆と様々な話を心を開いてすることができたことは私の中でとても大きなものとなつたと思ひます。一人一人個性を持つた友人らに囲まれ、時に自分の小ささを感じ

じ、時に友人らと心通はせ合へることの喜びは何ものにもかへがたいものと感じました。

今回特に心に残つたのは、長内先生の「美しいものはなぜ美しいか」という問ひかけと、班付で来られた加納先生の「女性らしく素直なる心を持つて生きて欲しい」といふ言葉でした。これらの言葉を胸にきざみ、これから人に接していかうと思ひます。

七人の輪となりてをれり目に見えぬ心のきつな固く結びて

皆まるで自分のことのように話を聴いてくれた

(尚綱学園本部事務局 田上伸子)

合宿に参加するにあたって、どちらかというといふ思案な私が入の意見を聴き、それを班別討論で感想を言つたり、ご講義で先生が述べられたことについて自分が感じ、思つたことを話したり聴いてもらうことが出来るのかといふ不安がありました。その不安感をやわらげてくれたのが班の仲間であつたのです。私がいずれもどの言葉で言うことに對して皆まるで自分のことのように真面目に私の方を向き話を聴いてくれたのです。こうしたことこそが現代の日常生活に欠けていることではないかと、その時、初めて体験しました。今日、これからそれぞれが家路につくわけですが、合宿で一番心に残り身にしみた言葉である「自己を知る」ということをこれからの私の目標にしていきたいと思ひます。

外へ出で見上ぐる空は気持ちよくなんとも言へぬ心地なりけり

真面目な事を真剣に話し合える友を見つけれられた

(県立山口女子大学 国際文化 一年 高井美和)

私は、最初、この合宿にあまり参加したいとは思いませんでした。なぜなら、今までの私の歴史に対する見方を変えられてしまうのではないかと不安があったからです。しかし、実際に参加してみても何が正しいとか間違っているとかのレベルの問題ではなく、「真実を知る」という事でした。これは歴史だけではなく、人間の心の問題にもかかわってくる事だと思いました。

又、この合宿で真面目な事を真剣に話し合える友人を見つけることができた事は私の人生に大きな意味を持ったと思います。こんなに自分の心を開いて友人と語り合うという事はありませんでした。

だまされたつもりで参加せしセミナーに来て得しものは真の友なり

本当に楽しい時間がもてた

(青山学院大学 理工 二年 山内真起子)

講義の中で特に印象深かったのは、小堀先生の御講義です。たった一つのことを話すだけでも五百年、一千年前の文化に広く目を向けられ、これから先の日本人が西欧や世界とどのように関わって行けば、日本が日本として存在し、かつ発展出来るのか、などについて本当に大切な示唆を与えてくれたように思います。

また、班員が皆朗らかで、毎日がとても楽しいものでした。短歌相互批評のときにも、班友の歌を皆で直しながら、その時の班友の様子を思い出して大きな声で笑い合ったりしていました。それは本当に楽しい時間でした。

最後に、小田村先生の御講義の資料にありました吉田松陰の『対策一道』を輪読しました。とても難しいものでしたが、その自信にあふれ堂々とした、現代にも立派に通用する見解、意見に強く心を打たれました。

国旗掲揚の折に

風をうけ陽に照らされて美しくはためくさまに言葉いでこす

真心で相手を見つめることが大切だ

(東北女子短期大学 生活 二年 守谷優子)

生涯の友を得たい。自分の見知らぬ土地で色々な人と出会いたい。合宿教室に行く前はそう感じていましたが、段々とその日が近づいてくるにつれ、浅はかな知識しか持たぬ私が参加していいのだろうか?と心配な気持ちが強くなりました。しかし、参加してみると心から語り合える生涯の友を多く得ることができ、それぞれの考え方や、物事に対する価値観がわかり、今までの生活の様子などを伺うことができ、この合宿を楽しく過ごすことができました。

講義内容は幅広く、又、難かしく思われるものもありましたが、天皇と私達国民の関わりをより詳しく知ることができ、又、長内先生の「物を観る目」という講話においては、真心

で相手を見つめることが大切だと感じとりました。

合宿で恥づる思ひを持ちつつもすぐに打ち解け心安らぐ

今まで何をしていたのだろう

(尚綱学園大学 文 三年 畑田真紀)

合宿の申込みメ切り直前に友達が行かなくなってしまったのでとても最初は心細かったです。でも、班が決まって部屋に入ると班員の人たちが皆いい人で何かほっとしたような気がしました。私は毎日アルバイトや学校へ行くというだけの生活でしたので合宿での毎日がこんなに充実し、時間を工夫すればこんなにあるんだということに気づかされました。今まで何をしていたのだろうと思いました。

この合宿では、大学の講義ではとても聞くことのできない考えさせられる問題や、物事の真実についてなど自分だけでは思い及ばないような考え方に触れることができました。そして、いろんな感じ方もあるのだと思えることができました。ここで学んだことをこれからのいろんな時に引き出していけたらと思つてます。和歌作りでは本当にありのまま自分の思つたことを出すことの大切さに気づかされました。

五日前初めて会った友達と思へぬほどに心通ひぬ

失いかけていた「大切な心」を見つつけられた

(尚綱学園大学 文 一年 中島ルミ)

いろいろな先生の御講話を聞かせていただき、その度に強

く胸を打たれることでした。その中で最も心に残つたのは、長内先生の御講話でした。「自分の運命を勇気をもって受け入れる」「自分自身を見つめる」等、私達へ語りかけて下さった言葉の一つ一つは本当に多くの人の心を動かしたと思えます。「身近で最もあたり前の事が最も大切な事である」という言葉に、私は一番心を引かれました。この合宿に参加することができたのも、理解ある家族があったからこそと、今は家族の皆に感謝の気持ちでいっぱいです。失いかけていた「大切な心」というものを見つけることができたように思います。

真剣に考ふることの大切さに深く感じたりけり

## 第二十七班—女子学生—

美しいもの、尊いものを素直に感じていきたい

(早稲田大学 教 二年 伊藤佳恵)

二度目の参加でしたが、昨年とはまた違う思いを感じる事ができました。それは、歴史や現代社会の動きを正しく学ぶには、清らかな心の動きが必要なのではないかとという事です。

日本の歴史や文化の素晴らしさ美しさを、知識としてだけでなく、自分の中に息づく確かなものとして感じるようになりたいと思います。そういった面で今回の合宿では、短歌にとっても心惹かれました。

班別研修で、小田村先生の資料の中の「山桜集」を読んだ折

には、桑木先生が「国のために戦争へ行く事はどんな気持ちなのか」という事を心を込めて話して下さい、なおさらに感動し、心が揺さぶられました。

これからも歴代の天皇様の御製や先人の方々のお歌に数多く触れて、その中にある美しいもの、尊いものを素直に感じていきたい思っております。ありがとうございます。

夜の集ひにて

我が祖国愛する大人らの歌声は力強く響きとよめく

吾もまた心あはせて歌はむと傍らの大人ら見上げたるかな

先人の御気持に応えていきたい

(奈良大学 文 三年 藤本康子)

この合宿に参加して、様々なことを考え、感じましたが、一番心に響いて来たことは、先生方、特に小田村先生と長内先生の御気持ち、これからの日本を背負っていく青年に対する願いでした。

慰霊祭では、厳かな雰囲気感動しました。祖先の方々が降りてこられて、私達を、日本国を、世界を守って下さっていると感じました。正しいこと、真実は覆い隠されていても必ず現れてくる。本当に素晴らしい日本の心、文化は消えないと私は心から信じています。そう思っているので祖先の方々に「日本を守って下さい、現実を守っていく私達に力を下さい、見守って下さい」と心から祈りました。

四泊五日終った今、語って下さった先生方、建国の時より

日本国を守って下さった御祖先方、いつも私達を慈しんで下さる天皇陛下、正しい愛国心を伝えてくれた父母に、心からの感謝の気持ちと、その御気持ちに応えていきたいという願いでいっぱいです。本当にありがとうございます。

長内先生の御話を聞きて

願ひこめこぶし握りて話さるる師の御気持が伝はりてくる

真心を持ちて尽さむ国のため先人方の御気持を汲みて

真の国際人になる努力をしたい

(東京大学 文Ⅲ 二年 山口花子)

私がこの合宿に参加したのは、学生のときから国文研で活動していた父が勧めてくれたからです。八年間、外国で生活した私にとって、日本のことを教えてくれたのは主に父母でした。でも、帰国してから自分が日本の文化や歴史について、まだまだ知らないことがあると分かり、この合宿に参加しようと考えました。

この合宿で得たものは想像以上に大きく、先生方の講義で真実の日本の歴史を深く知り、仲良くなった班友たちとの話の中で、自分の考えもつかなかった素晴らしい価値観に気付かされ、また班付の関口さんの大和心に胸を打たれました。

国際人になることが大切、と誰もが言うが、真の国際人は自国の文化についてしっかりとした知識を持ち、それを世界中に誇れる人間だということを今回の合宿で強く感じました。そのような人になるため精一杯努力をしたいと思えます。

終りに班友の皆と先生方、父に心から感謝します。

壇上で外国のこと語らるる我が父の姿勢らしく思ふ

### いくつかの課題を頂きました

(尚綱大学 文 一年 鳥飼美智子)

合宿へ行くことを決めた直接の理由は、日本文化への興味からでした。友人と日本文化を論じる機会の少ない私は、このように自分の考えを伝え、そして自分とは生まれた場所も年も違う人の意見を聴いてみたいと思っていました。とは思いつつ、討論など真剣にしたことのない私。その上全く面識のない人達ということでは不安でいっぱいでした。

初日の班別研修で人の意見を聴く新鮮さ、自分の意見を述べたあとの、どこか心の晴れる思いを感じ、これなら五日間なんとか過ごせそうだと思います。更に感じたのは、自分の思うことを的確に表現し相手に伝えることの、いかに難しいものかということでした。

各先生の御講話を聴き、今まで漠然と考えていたことに、明確な理論をつけて頂いた感じで、ありがたく思います。いくつかの課題を頂きました。考え続けていきたいです。

広される阿蘇の緑に包まれて班友と歩む朝すがすがし

### 「不請の友」になりたい

(拓殖大学 外国語 一年 牧田由紀美)

四泊五日間の合宿を終えて、私は今までにない経験をしま

した。それも一つではなく数々の貴重な体験となりました。短歌を創作するのもその一つです。そして班別批評で班員皆で一つの短歌について考えるという時間、二時間三十分という長い時もあつという間に過ぎてしまいました。

「不請の友」——何かあつたときに、自分が言わなくても手助けをしてくれる友を見つけられたらと思うと同時に、自分自身が気付いてあげられる人になりたいと思います。今は家族が何も言わなくても気付いてくれるので、相談もでき、助かっているのかもしれない。家族とは不思議なものです。この合宿では「生涯の友を見つけよ」と言われましたが、今こうしてすばらしい先生方、国文研の方々に、班の友達に恵まれ、喜びと共に感謝の気持ちでいっぱいです。

高く青く望みに満ちて生きてゆかむ日本のために世界のために  
阿蘇の友同じ思ひを胸に秘め励みて共に学び伝へむ

### 合宿教室の繁栄を祈ります。

(ドイツ銀行 川手和恵 49歳)

班別討論は、女子だけ、男子だけという別け方をせずに、一部屋に男子班女子班一組づつをペアにして行なってもよいと思います。意見の発表という点で男女の別はないはずですから。部屋は十畳くらいありますから、十四、五人くらいは座れると思います。活発な意見交換がおこなわれると思います。運営の参考にしていただければ幸いです。

社会人として参加して興味深く拝見しました。合宿教室の



繁栄を祈ります。

昔いにしへの祭りの跡や贗山にまの馬頭観音風に吹かるる  
にえ山の馬頭観音涼やかに風吹きわたる阿蘇の青山

### 自分を見直すいい機会だった

〔尚綱短期大学 厚生・学生・就職課 益田典子 21歳〕

合宿を終えて今一番感じることは、勉強不足だなということとです。私は社会人の仲間入りをしたばかりで余裕がなく、自分のことだけを考えて過ごしてきました。開会式での皆の意気込み、班別研修での貴重な意見、何気ない会話にもハッとさせられ、どれも今の私に欠けているものばかりでした。

初めての参加なので、とにかく人の話をよく聞こうと心に決めました。班友にもとても恵まれ、ここに来なければ出会うこともなかった友と交わした会話、笑顔どれも忘れることはできません。先生方の講義、講話からは多くのことを学びました。本当に自分を見直すいい機会をいただきました。

この期間、私の仕事を代わってくださった学校の先生方、この合宿を勧めて下さった先生、共に過ごしてくれた班友の皆さん、国文研のみなさん、ありがとうございました。

友だちと見たひとときのサーカスに講義忘れて歓声あげる

班友とめぐり会ひたる喜びを心にとめて再会願ふ

## 第三十一班 社会人

### 合宿で学んだ。自分の工夫とためまぬ努力

〔厚木市教育委員会七沢自然教室 井上 聡 36歳〕

例年にならない厳しい暑さが続く中、緊張と不安でこれからどんな五日間になるのだろうと思ひ乍ら、合宿に参加しました。先生方の講義を聴き乍ら、自分の中にいろいろな思いが巡ってまいりました。五日間過した班友の方々と心の通った交流や、学生達の真剣な目差しに胸が熱くなりました。先生方をはじめ運営委員の皆様方に大変お世話になりました。先生方、明日から又職場に戻りますが、この合宿で学んだ「自分の工夫とためまぬ努力」を日々実践していきたいと思ひます。

班友と熟き心を語り合ひ想ひは巡り草千里せんりを駆ける

### 自分の道筋に確信を得る

〔無職 小馬谷秀吉 69歳〕

四度目の合宿ですが今回も新たな感動を味わわせて頂きました。特にこの一年間の混迷した政局に憤りを感じておりましたが、自分の道筋に確信を得た思ひです。研友の方々との交流も毎回違ったものを得、友情を深める事ができ感謝しております。更に合宿での友人との再会が北海道にいる私には

得難い機会となっております。特に今回は最初の合宿での班友、蓑田誠一さんの所感発表を聴いて、その成長ぶりに感動の涙が流れました。若い方々がこのように合宿を通じて人生を成長させていくのかと思うと頼もしく嬉しい思いでした。私も新しい思いで頑張らねばという思いです。年に一度の合宿参加を私にとつての活力の目標にしたいと決意しております。

研修を終へて眺むる大阿蘇に満ちし思ひを伝へたしとぞ

### お互いの意見を出し合い研鑽する大切さ

(照國神社 樺山成剛 46歳)

以前からこのような集まりの参加を希望していて、今回初めて実現しました。今までは自分だけで日本の道義といったものを勉強してきましたが、やはり志を同じくする人達と切磋琢磨する中で生まれて来る考え方こそ、しっかりと自分の心に根付いたものになると感じ、勉強するにしても二人、三人でもお互いの意見を出し合い乍ら研鑽してゆく大切さをこの合宿で学んだ気が致します。今後は稚拙な意見でもいい、お互い自分なりの考えを出し合せて、実践する事を通して自分の考えを確認してゆけたらと思います。会の運営に当られた諸先生方には大変お世話をお戴き、本当に有難く思います。本会の益々の御発展を心よりお祈り申し上げます。

見はるかす阿蘇の大神に抱かれて生きるヒントを与へられけり

### 日本人としての誇りを持つて

(出光興産(株)店主室 山田幸治 35歳)

「国文研の合宿は我社店主室教育の根幹とも共通し、お手本にすべき所が多々ある」と先輩に伺ひ興味を持って参加させて頂きました。開会式での君が代二回斉唱には鳥肌が立つほどの感動があり「四泊五日の松下村塾」との言葉にも共感致しました。御講義は私にとつて良い確認と整理の場となり、山口秀範先生のお話は企業人としての生き方のヒントに満ちており、先生の生き様に拍手を送りたい気持ちになりました。班別研修では自己の一次的な物の見方に多少の肉付けができ、心をこめて聴くことに主観をおいた甲斐がありました。今後も日々の仕事、家庭を通じて相互研鑽し、日本人としての誇りを持って「お陰様」という気持ちも大切にしてゆきたい。最後に先生、班員の方々に深く感謝致します。

友どちと心豊かにかたらひて静かにかける大阿蘇の夜

### 何もやっていない己れに気づく

(日本植生(株)長野営業所 福田健志<sup>ケンシ</sup> 26歳)

会社指示で消極的な気持ちのまま参加させて頂きましたが、御講義を拝聴させて頂くにつれ先生方の御熱意、危機感がひしひしと伝わり、今までの程度での知識(会社の研修等)があるにもかかわらず何もやっていない己れに気づき、本心が洗われる思いでした。家庭では生後八ヶ月の父親でも

あり、子供の為にも正しい歴史、これからの日本について、もっと己れを磨き、学んでいきたいと思えます。

このような機会を与えて戴いた国文研の皆様を始め、この忙しい時期に参加させて頂き下さった社長をはじめ営業所の皆様に感謝致しております。この合宿がいつまでも続きます様、切にお祈り致しております。

本当に有難うございました。

大阿蘇の班友できて語りあひ己の未熟痛感させむ

〃角は角なりに〃生きていこう

(徳富太郎 39歳)

自分の言う事が世間一般では、なかなか受け入れられていない。それをこの合宿において大きな声で言える、この一つだけで私は感動致しました。まだまだ日本も「捨てたもんじゃねえな」と皆様と接し感じた次第です。加えて短歌創作で自らの尖った部分を丸くして載いた。独りでいるとどうしても角が出て、それをこの合宿で鉄槌で打たれ、ひっこめられた思いです。しかし乍ら、この国を憂う気持ちに変わりなく、いざとなれば剣一本にても戦う覚悟であります。

「角は角なりに」生きていこうと改たためて決意致しました。

有難うございました。

ひたすらに進めこの道真直にガンコ親父に我はなりたし

〃私にできる事は何か!〃

(株)BBS 金明 中田一義 49歳

いつも乍らお世話下さる方々の想像し難い御尽力によって今回も貴重な体験をさせて頂き、心より感謝致しております。小田村先生のお話、謝罪決議、思わず〃私にできる事は何か〃何としても私なりに行動を起さねばと身の震えを覚えました。それと共に今林兄の静かな立居振舞いに接する度に、心中如何にと感ぜずにはおられません。

三十一班の方々は本当にすばらしい大人の方々ばかりで、あつという間の五日間でした。とても楽しかったです。

本当に有難うございました。

次々と登壇致せし学生達の胸迫りくる言の葉多し

### 第三十二班——社会人——

日本の国柄の素晴らしさを感じた

(出光興産(株) 店主室 行成俊光 41歳)

初めて合宿に参加し、日本の国柄のすばらしさを感じた。この感じた事を今後いかに子供に伝えていくか、そして家庭・社会で実践していくかが、自分に課せられた命題であると思った。その為にも今後共、勉強を続けていく。

又、班別討議を通して自分の心が柔軟性を失なってきた

ると思つた。今後は多くの人と想いを語り合い、感じる心を養つて柔軟性を維持すると共に、大きくしていきたいと思つた。

国柄を知らぬ事にぞ気づかざるとき時間を忘れて友と語れば

### 自分の中に燃え上がる命を感じず

(もとだ鍼灸治療院 元田英明 35歳)

私は明治維新から大東亜戦争の真実について正しい認識を得たいと思ひ、共通の認識を持つ人々と深く語り合へることを期待してこの合宿に参加しました。結果は期待以上でした。友と語り合い何か自分の中に生き生きと命が燃え上がる様な気がしています。私は本当に家族の為、国の為に真剣に生き、命を捧げられた尊き御先祖の方が、現在、無視され誤解されている事に、しかも一部、意図的にそれが行われている事に對し、これでは将来、悔んでも悔みきれない事態が絶対に來そうな予感がして深刻な気持ちになりますが、これがエネルギーとなつて私を動かします。合宿では色々と勉強させられる事はかりで、自分の至らなさを痛感すると共に、この様な形で人と交流を持つ事の意義を改めて認識させられました。

くりかへし又くりかへしいくへにも識学びて我を高めん

### 合宿での刺激を今後の生活に生かす

(亜細亜大学学生部 高橋英樹 28歳)

あつという間の四泊五日でした。これは合宿教室がそれだ

け充実していたからだと思ひます。班別研修では殆ど意見を述べる事が出来ず聞き役に廻つてしまいました。この時ほど、自分の勉強不足が悔まれたことはありません。意見を述べようにも知識がないため何も発言できないのです。班員の方の發言、班付の先生の解説にただ納得するばかりでした。

一方、嬉しかったのは新しい人との出会いです。年令も職業も違う様な人達との生活は新鮮で、その話は勉強になりました。短歌創作も初めてで新しい喜びでした。短歌は短い文を作るのではなく、長い文を削りに削つて作るものだと分かりました。この五日間の様々な面から受けた刺激を今後の生活にどう生かしていくのが今の課題だと思つています。

友と行く阿蘇のみやしろ雨なれど宮居にたてば心やすらぐ

### 得るものの多き合宿であつた

(菊池神社 前田澄輝 25歳)

初めてこの合宿に参加させて頂き、非常に心を動かされました。

班別研修では、自分の考へていること、思つたことを素直に言うことがこんなにも難しいものかと思ひ知らされました。班友の方々がきちんと自分の気持ちを打ちあけているのに、それが出来なかつた自分に非常に憤りを感じずにはいられませんでした。

私がいた社会人班は幅広い年齢層で、その人その人の生きぬいてきた時代の貴重なお話が聞けたことも大変に勉強にな

りました。四泊五日の短い期間ではありましたが、得るものは多大だったと思います。

壇上で語れる班友の言の葉に胸打たれつつ我をかへりみき

一臂の力となるを願う

(株)公正不動産 安東祐範 77歳

日本を憂へ、世界を想ひ、そして己を覚める願望。昨日迄一面識なきお互ひが、この合宿で心打ちとけ、尊き友情の発醸、それは年令、職業、学識、人生経験の如何を問はず一様に認めるところ。

非力なる吾にはあれど国文研の一臂の力となるを願ふや頼り。

人はみな耐へる心を忘れまじかの空襲を思ひいだして

日本文化の危機を痛感す

(航空自衛隊教育隊生徒隊 村山寿彦 57歳)

今年も元気でこの合宿に参加させて頂くことが出来まして、大変、幸せに思っております。

諸先生方の御指摘のとほり、私も日本文化の危機を近年、特に痛感してをります。この合宿で自己の研鑽と共に、身近かな者への働きかけをより強めていかねばとの意を一層強く致しました。

ザワザワと木の葉を散らし巻き上げて阿蘇高原を風吹きぬける

### 第三十三班 社会人

誤つた歴史観から脱却しなければならぬ

(橋本フォーミング工業(株) 古川 修 52歳)

ことしは、天候にもめぐまれ、大変素晴らしい合宿となつた。この一年の政治・外交の混乱に対する危機感が自づと、この合宿の内容を方向づけたように思ふ。

導入講義での「大東亜戦争に対するマスコミ・教育界等の誤まつた歴史観」に対する批判は、文献に即した説得力のあるものであつた。『東京裁判史観』として、戦後の四十九年間を混乱せしめてきた誤つた歴史観から、早く脱却し、日本の主体制を確立すべきときが来てゐる。パール判事の判決文は、是非精読してみたいと思ふし、東京裁判の弁護側資料も出版される様なので、この問題の解明に、これからの一年、取りくんでみたい。

合宿の終る日迎へ澄みわたる阿蘇の岳々美しきかな

一年をこの合宿のため過ぎし白濱君の「所感」さはやか

とつとつと涙にじませ語りゆく初参加者の言葉に涙す

かくまでに心うたれし友あるかぎりつづけてゆかなむこの営みを

## 西欧と対峙してゆける思想は大和心の中にある

(安川情報システム株) 松田 隆 39歳)

やはり得るものが多かった合宿でした。最初の導入講義で大東亜戦争について考えさせられました。二日目には、徳岡先生の講義でしたが、質問の時間が短くなり、残念でした。三島氏との思い出について今少しお話しを頂ければと思います。三日目の小堀先生の講義は、日本人として最大のテーマであり、来年の戦後五十周年の記念日までにかかしの答なるものが見出せるよう、私もこれから努力していかなければならないと考えております。四日目の最後の小田村先生の講義に、小堀先生の課題のヒントが隠されているように感じました。西欧と対峙してゆける思想は、やはり大和心の中にあると思います。小学校の先生をしている班友の宮田先生に對し、自信をもって生徒を指導されます様お祈りします。

白井先生のご逝去を知りて

軍帽の姿忘れぬ防人の訃報を聞きて我は驚く

軍帽の御姿見えぬ壇上に若人立ちて今日も語りぬ

眼前に広がる阿蘇の山々の緑伝へむ対島の元へ

## 回を重ねる毎に充実感を覚える

(乃木神社) 松吉宣和 55歳)

私は、今回で四回目の参加となりますが、回を重ねるにしたがって、充実感を感じている様に思います。徳岡先生の「マ

スコミを信じるべきか」との講義をお聴きして、「作られたマスコミ」が日本の歴史をゆがんだ方向に結びつけていることを、大変残念に思います。「侵略戦争」についてのゆがめられた解釈で、日本国を代表する政治家が発言していることは、非常に残念でなりません。百五十年間の日本の歩みをおかりやすく講義された小田村先生、長内先生の熱のこもった講義には、毎回感動します。

学生達が直な気持を、自由に発表する姿にこころうたれました。真の日本人として誇りをもって前進する道しるべを示していただけたことに心から喜びを感じています。

慰霊祭にて

祭壇の左右に設けし松明の火はあかくところうつなり

「全体感想自由発表」を聞きて

胸つまり声もそぞろに語りゆく友らのことばに我身ふるえぬ

## 正しい歴史観を身につけたい

(厚木市立七沢自然教室) 吉澤浦介 51歳)

二回目の参加でありましたが、今回も徳岡先生、小堀先生および小田村先生をはじめとする国文研の諸先生方の戦後日本が進むべき道についての真剣な講義は胸を打たれる思いがいたしました。

今後は、諸先生方にご教示を受けました日本人としてのあり方等について研究し、正しい歴史観を身につけるよう努力したいと思えます。

ひたすらに友と学びし合宿は終りを迎へぬ時を忘れて  
来年の七沢合宿受け入れにころははせて楽しみやます

## 合宿で得たことを自分の生活の場で生かしたい

(宮崎神宮 川越 篤 35歳)

二回目の参加で、実に六年振りであった。その間、鳥原では、雲仙普賢岳の噴火により大きな被害を受け、思い出深きホテルも閉鎖されたままである。その主人は、プレハブの小さな土産物屋を営みつつ、鳥原の観光アピールを地道に続けていると聞く。今回の合宿で深く感銘を受け、心を揺り動かされたことは、絹田先生の合宿導入講義と、小田村先生のご講義、長内先生のご講義であった。前回は、只、反省と、感動のみで合宿を終え、普段の生活に戻っていた様に思う。しかし、この合宿で得たことを自分の生活の場に生かすことこそが、国文研の神髄であると信じる。私は死して後も日本人であり、神主なのである。いかに多忙であろうとも、問題意識を持って生きていかなければならない。日本の尊い伝統と文化の継承者として出来ることを実践していく所存である。

慰霊祭にて

瞳閉ち皆とうたひし「海ゆかば」御霊の御前に誓ふころで

阿蘇神社にて

雨上る清しき齋庭に流れくる神楽の調べに心晴れ行く

長内先生の講義を聴いて

お父さまお母さまと呼び給ふ高き御声に心打たるる

## 自分自身の問題意識を高めていきたい

(日本植生科 田村高弘 36歳)

私の会社では、毎朝の朝礼で国旗の掲揚を実施しています。又、現在のマスコミ報道が誤りであるという事実も会社で事ある毎に学んでいます。そういった会社生活の中で、今回初めてこの合宿教室に参加させていただき、感じている点は、自分の日頃の勉強不足と問題意識の低さです。

私自身、例えば国旗と国歌の問題にしろ、日本人なのだから、国旗を掲揚して国歌を歌うのは、あたり前のことだと、簡単に考えていました。それは、自分が今まで、いかに恵まれた環境で仕事をしてきたかが、わかっていなかったからだと思えます。今回の研修で、同室の方の話しを聞かせて頂いて、それがはつきりとわかりました。自分自身の問題意識を少しでも高めていく様に、学習したいと思います。

阿蘇にきて友と語りて気づきしは吾が身の日々の勉強不足

## 私は私自身と出会うことができた

(熊本県荒尾市立八幡小学校 宮田正男 27歳)

初めての合宿で、全国各地からの志ある友と、寝起きを共にし、同じ釜の飯を食べ、話を聞き、また聞いてもらって、共に思ひをぶつけあったことが、他では決して得ることの出来ない尊い経験であったといふ実感に、今、正に満されている。向ひ合って語る友の言葉は、いつはりのない友の心その

ものでした。真剣に話を聞いてくださる友の眼は、私自身の心を開かせてくれました。私は私自身と出会うことが出来たのだと思ひます。それは、私が、いかに「現代風」に酔って生きているかといふことに気がついたといふことです。今まで勉強しても勉強しても分からなかったことを、少しだけ感じることができたと思ひます。たとえ様もない喜びで胸が一杯です。

レクレーションで阿蘇神社に詣でしとき

はぐれたる友の姿を見出せず夕立ちの中我はとまどふ

### 第三十四班——社会人——

とめどもなく涙があふれた

（大矢野町立大矢野中学校 大塚芳生 30歳）

この合宿に初めて参加させて頂き、まず同胞に深く感謝します。私はこの合宿がどのやうな内容なのか全然知るよしもなく、ただ、今悩んでゐる事を解決するきっかけを探す目的で参加しました。

「運命の大東亜戦争」の御講義で、まず「本当なのかノエー。これが真実なのか？」と考へさせられ、頭の中の思考回路が少々オーバーヒートしました。翌日の御講義では少々この回路も回復するかと思へば、またテンプレーターが上がってしまひ、目頭が熱くなりました。つひに長内先生の御講義

では回路がずたずたに切断され、とめどもなく涙があふれました。この合宿で我心を真に発見し、常に努力して行く覚悟を持つことができました。また必ずこの合宿に参加します。

合宿に臨みて

目を覚ませ日頃甘へし我心同胞の尊き言葉にふるひたつ

人と心からつき合う楽しさ

（福島県立浪江高校 佐藤武士 30歳）

合宿教室には、学生の時、二回参加させて頂きました。時がたち、合宿教室は学生時代の楽しい思い出になり、気持ち上でも遠く離れたものになっていました。

先生方の講義を拝聴し、物事を考えていくにはどうするか、歴史に学んでいく、人間を知るにはどうするか等、日常生活の中で忘れかけていたものに気づかされました。また班での語り合いを通して、人と心からつき合う楽しさを感じ、学生時代の頃に帰つたように、生き生きとしてくる自分を感じました。合宿を通して、日本中につながる友人、歴史に学び、祖先につながる自分を感じ、再び職場、生活の中で、考えること、心を動かすことを忘れずに、さらに頑張っていこうという気持がわいてきました。ありがとうございました。

お互ひの強き思ひを語り合ふそのたび心に心とけゆく



## 心を使って勉強すること

(熊本県立菊池高校 川上良尚 33歳)

初めて合宿に参加させてもらい、すばらしい経験ができました。班別研修の中でいろんな意見を交換したり、すばらしい講師の先生方のお話を伺い大変勉強になりました。特に、小堀先生のお話が聴けて満足しております。又、徳岡先生のお話も非常に示唆深いものでした。一つ一つの物事を、理念をふりかざすのではなく、具体的な中でたどっていく勉強の方法を改めて強く認識させられました。心を使って勉強不足ということが少しずつわかってきました。まだまだ勉強不足でありますので、じっくり書物にむかって、心を使って勉強していきたいと思います。最後に、君が代をあんなに力強く聞けて、歌えて大変うれしく思い、感激しました。あの力強い国歌がどんな場面でも聞ける社会になるよう努力せねばならないと思っております。

## 自分自身でやらなければならない

(芦北町立佐敷小学校 荻田誠一 33歳)

今回も自分なりに先生方のご講義を受けとめ、班別研修で理解が深まったと思ふが、では果たして明日からの自分は何ができるのであろうか。まだまだ心もとない。ただ全身で心から語りかけられる先生方のご講義に対して、次の二点は今の自分の答へである。一、歴史に正面から向かひ、そのため

に本を読む。一、国といふこと、日本人といふことを前提にして子どもたちに教育をしていく。人のせむにするのでなく自分自身でやらなければならない。

白浜裕先生が以前「合宿に来て、これからの一年のエネルギーを充電するんだよ」と話されたことが、今この年齢になってわかってきた気がする。班の皆さんと真剣に考へ、語り合へた合宿。国文研の先生方、班の皆さんに心より感謝し、来年こそは仲間、同僚、教へ子を誘って参上したいと思つてゐる。

心から父さん母さんと呼べる子を我は育てむ今日の日よりは

## 本物と付き合う

(大矢野町立大矢野中学校 松岡幹男 39歳)

さまざまな情報がうずまく現代、どの情報を真実として受けとめたらよいか、つい戸惑つてしまう。伝聞と実態のずれをどうやって見分け、見定めるか、そういう力をどうやってつけていくか、その解決の糸口として占部先生が紹介された、骨董屋の弟子をどうやって一人前に育てていくかという話が印象に残っている。すなわち一番すごい本物をいつも見せるのである。たとえば国語の授業一つについて考えた場合、本物の教材を我々教師は探し出し、子供たちに提示する努力が必要だろう。実感を大切にし、感性を磨くこの合宿は、教育現場で今盛んに唱えられている「新しい学力観」に魂を入れるほどのものを内包していると感じた。最後に班長の宝辺さ

ん班友の皆さん、そして班付の小柳先生、占部先生に心より感謝申し上げます。

最終日合宿運営委員長のお話を聞きまして

後輩よ「不請の友」をもちたるかと声つまりらせて大人は語られり

### 自分の心を鍛えるしかない

(福岡県立太宰府高校 船津智生 40歳)

福岡県の新高教組に加入してからは、様々な研修を受けることができ、日本という国、日本の文化あるいは教育の諸問題について私なりに考えをまとめることができました。しかし私自身の不勉強で、実際にその考えに基づいて行動する際には思うとおりにできませんでした。また教育に関する諸問題に直面して、どうしたら解決できるかということを考え、た時、何が必要なかということに気づきました。それはまず自分自身を鍛えていく、自分の心を鍛えることしかない、それから始めなければならぬということです。

合宿を終えた今、すっかりとした爽快な気持ちでいっぱいです。これまで講のかかっていた部分がかかりと見えるようになります。今後さらに勉強を継続し、自己研鑽に努めていきたいと思えます。

合宿で共に学びし友どちと今別るれど絆は強し

### 祖先とつながって生きている

(福岡県立豊津高校 西川信次 43歳)

今の日本もしくは日本人の考え方の基本に個人尊重があると思う。この世に生まれ出でたる命は何事にかえても大事である。今までの私ならこれを素直に受け入れると思う。

しかしこの合宿で我々日本人は今生きている日本人だけでなく祖先とつながって生きていることを確信しました。戦後遺骨収集に行く国は日本だけです。祖先の血を受け、生まれた我々は祖先に感謝しながら生きていかなければいけない。ましてつばをはきかけるような生き方をすべきではない。

生きる柱がほしい、日本人としての誇りを持ちたいと思つてこの合宿に参加したが、「天」や「ぐちを言わない」といった自分なりの答を持って帰れることを幸せに思います。三十四班の皆さん、貴重な意見を本当に有難うございました。

打ちとけて本心語る喜びをひしひし感ずる研鑽の日々

空低く急ぎ流るる雲見れば早く会ひたし愛しき家族に

### これからもよろしく

(山口県立高森高校 寶邊矢太郎 42歳)

教員班の設置は大変良かったと思ふ。小中高の先生方お一人お一人まことに真摯な取り組みやうで、積極的に疑問、感想を投げかけ、久しぶりに語り合ふよろこびといふものを味はせて戴いた。平素から教育の場で直面してゐる難題があ

るためか、自分の身に引き寄せて思ひを述べることが、自然に出来たやうに思ふ。魅力溢れるお一人お一人の人格に接し得て心洗はれる気持です。有難うございました。これからもよろしく。

閉会式後「進めこの道」を歌ふ

はりあげし声もいつしかむせびきて底こもる力ふつつと湧く

## 指揮班

### 睡眠時間を削るほど忙しかった

（京都大学 大学院数理解析研究科 一年 濱地賢太郎）

今回は学生でありながらも「指揮班」に属した。合宿生活がスムーズに展開して行くための様々な業務を担当した。私の主な任務は「朝の集ひ」の開始前に、広場に行つて御製の垂れ幕を掲げ、国旗掲揚の準備することと、講義室壇上に水さしとおしほりを用意することだった。さらに「歌稿」の製作にも加はり、ワープロ打ちから印刷製本まで、その作業は深夜にまで及んだ。その他、睡眠時間を削るほどに忙しかったが、御講義は全て聞くことが出来た。ただ工作上、「班別研修」に加はることが出来なかつたことは残念だった。拝聴したお話の内容をいま一度、じっくりと考へ味はつてみたい。

指揮班の仕事に暇はないけれど友らを思へば力わきくる

## 見学参加者

明日の日本のために何とか志を伝えたい

（医学博士・市ヶ谷漢方クリニック 桑木崇秀 79歳）

①この合宿を知るのが遅すぎたやうに思ひます。

②東京裁判史観一色に塗りつぶされたかに見える日本を本来の姿に戻すことは至難の業だと思ひますが、結局はこのやうな合宿で一人でも多くの若者の思想と人生観を練磨して行く他に日本を救ふ道はないと思ひます。小生も老齢で大したことは出来ないが、何とか志を伝へ伝へて、万一にも日本が亡びることのないやうに努めたいと思ひます。

③小生はビルマ戦線で九死に一生を得た者の一人として、ビルマ英霊顕彰会の靖国部を担当し、「英霊にこたえる会」の運営委員もしてをりますので、今後、緊密な連絡をとつて行けたらと願つてをります。

④慰霊祭ほんたうに有難うございました。

慰霊祭にて

バカバカと馬の蹄の音耳に聞こゆと思ひしは幻

宵闇の中で行はれし慰霊祭戦死せし友も走り来たりしか  
国のため命を捨てし友どちの望む祖国と為さでやむべき  
英霊よこのまがつ世を正さんと努むる我等を見守り給へ

合宿を終へるに臨み学生諸君へ

日の本の伝統文化を学ばんと若きら集ふ頼もしきかな

ここに学びし日の本の道胸に刻み乱れし世をば正してよいざ  
誤れる史観に根ざすまがつ世を正すは君ら若者措きて無し

合宿中に創作された「短歌詠草」

——しきしまのみち——



## 短歌創作について

この合宿教室では、例年、主催者を含めて参加者全員が、短歌を作ることにしてをります。これは、この合宿教室の大きな研修課題の一つであり、今年もまた、多くの短歌が創作されました。

短歌は古来、私たちの祖先が「しきしまの道」と呼び、言葉の修煉、延いては心の錬磨の道として、永く守り伝えて来た伝統ある詩歌ですが、現代においては、人々の日常生活には馴染みの薄いものとなり、殊に若い世代には、文学的趣味の一つとしてしか受け容れられなくなってしまつてをります。従つて、この合宿に初めて参加する学生青年諸君にとつて、短歌創作は全くの疑問であり、一種の負担でさへあるかに見受けられるのですが、合宿の行程を踏むにつれ自らの心の動きを言葉にする難しさ、真心の籠もつた言葉の奥深い味はひを多少なりとも体験してゆく中で、次第にその意味が、把握されてくる様に思はれます。それに至る参加者の合宿課題の数々に取り組む努力は並々ならぬものがあるのですが、知識の集積や論理の整合に重きが置かれ、人間にとつて最も根源的な心の問題を等閑に附して来た現代教育の束縛を自ら感知し、そこから一步でも二歩でも抜け出さうとする営みが、この短歌創作、そして、その後の参加者同士の相互批評によつて集中的になされてゆきます。心の奥底に眠つてゐるまごころを呼び覚まし、人のまごころに鋭敏に感じる、素朴にして溢れる様な人間性を取り戻さうとする試みが細やかながらも実現されてゆくこの貴重な体験は、参加者全員にとつて、まさしく、忘れ難い印象として心の奥深く刻み込まれるに違ひありません。

合宿三日目の午後、福岡県立水産高等学校教諭、菅原亨二氏（国民文化研究会会員）よつて、僅か一時間の短歌創作導入講義によつて短歌を作る上での基本的なルールが指導され、その後の散策を経て夕刻には提出するといふ忙しい日程の中で生み出された短歌でありながら、作者の集中された内心の動きは、その言葉の端々に充分に表はされて

をり、強く惹かれるものが籠ってをります。提出時刻間近い夕食前の時間帯は、通路に行き交ふ人影も無く、合宿全体が厳肅な雰囲気に包まれ、真実の言葉に真向かふ一人びとりの張り詰めた心の動きが、肌に触れて感じられるやうでした。

提出された短歌は、その日の内に国民文化研究会の会員によって選歌が行はれ、翌日午後には歌集となって全員に配布されました。そして、その歌集をもとに、福岡市立奈田小学校教諭是松秀文氏（国民文化研究会会員）によって短歌創作全体に亘る講義が行はれ、短歌批評のポイントについて指導がなされた後、各々の班に別れて、班員同士の濃やかな相互批評が行はれることとなりました。ここでは、技巧の巧拙を論じ合ふのではなく、作者の心を忍びながら、その心に沿って、言葉を正しく客観化して行くといふ作業が、班員全員の知恵を集めて徹底的に行はれます。さうして互ひに友達の心に深く触れ合ふことによつて、合宿生活において寢食を共にし、胸中を披瀝し合つてきた友情の結び付きが、ここにおいて一段と深まつて行く事が確認されてゆくのです。かうした、短歌創作を通じて展開される日常生活は、誠に稀な精神生活の体験と参加者一人びとりに、言ひ知れない、ほのぼのとした喜びをもたらすのみか、学問と友情との分かちがたいつながりをも、自づから、想起せしめるに至るのです。

ここに収録された数々の短歌は、その表現形式においては稚拙であるかもしれませんが、参加者各々の切実な情意の率直な表白であり、この合宿教室を通して現出された感応相称の世界の一大交響曲と言つてよいかと思はれます。これらの短歌の中に瑞々しい貴重な魂の輝きをお読み取り下さり、短歌本来の姿が顕現されつつあることの一端をお汲み取り下されば、と心から祈念する次第です。

# 短歌詠草（しきしまのみち）合宿第一回目の創作作品

（参加学生の第二回目の作品は感想文の末尾に収録）

## 第一班

中央大文四 草野直樹  
一日を振り返り返りつつ班友等とくつろぎ語らぶ  
ときぞ楽しき

拓殖大外四 高橋卓哉  
連日の講義と暑さと寝不足で日をおふごとに  
疲れましきぬ

長崎大経三 悦 真影  
しらくまに思ひをはせて来たけれど隔離され  
ててあはれなりけり

中央大法三 京極士朗  
合宿でいつしよに学ぶ仲間たち年齢の隔でも  
なしに語りぬ

金沢大文一 熊谷真利  
日が昇り今日も朝からおこされて国歌を歌ひ  
体操をする

第一経済大経一 八波幸司  
つらなれる山のすがたも吹く風も三年前とか  
はりなき阿蘇

## 第二班

亜細亜大法四 松田裕幸  
こまかなる雨の降り落つ宮前のおごそかにし  
て美しく見ゆ

しづかなる宮居の中をみ友らと語らひ歩みて  
心なごみぬ  
専修大経四 田中泰行

柏手をたたきて拝む友を見つめ神社の門で心  
たひらかなり  
熊本学園大商三 濱口知久

連日の講義につかれた自分には花一輪に心休  
まる  
宮崎産業経営大経三 丸田武史

床につき今日一日を振り返りふとよみがへる  
先生の声  
日本大農獣医二 安東高明

真実の眼を持ちて学べよと仰せし言の葉我  
忘るまじ

## 第三班

拓殖大外二 宮澤朝見  
阿蘇神社願ひごととはと尋ねられはにかみなが  
ら笑みがこぼるる  
明星大日文二 大屋淳  
自らの悩みを友に言ひ出せばみな真剣に耳傾  
ける

九州国際大法経四 佐藤公治  
のんびりとふるる馬に草をやり講義内容思  
ひおこしぬ

創価大文四 遠藤直文  
「人のため」内なる自分をかへりみる我いま  
何をなさんとするか

拓殖大外二 坪井健  
阿蘇の空いづこへ向かふやとんぼたち我も同  
じく行く道見えず

日本デザイン学院グラフィック二 安部雅俊  
家すこしあまた田んぼがある村に心をよせて



故郷思ほゆ

富山大経二 節 充良

熊本の馬の瞳は澄みたれど空と景色はくもにかくれて

山形大医一 幸田 文明

広きかないつのまにやら入りにけり聞きしに勝る阿蘇のカルデラ

防衛大一 古川 恵司

雄大な阿蘇の草原たくましく阿蘇BOY行くきてきならしつ

金沢大文一 中元 大生

いななきの声が聞える阿蘇山の内に来たりて見る夢樂し

#### 第四班

関西学院大文三 竹岡 淳

肩たたたく音に気がつきふりむけば目に飛び込みぬ友の笑顔の

学習院大法四 山内 将生

胸を張って声出し歌ふ君が代のうたの美しさあらたに感ず

愛媛大法文四 花岡 伸明

先生に手紙書くよさを聴いたので今夜書かうか父母と弟へ

國學院大文二 高澤 一基

寝不足で明日も早いとわかりつつ消灯の後も友と語らふ

亜細亜大法一 黒須 武士

御講義は決して寝まいと決めけれど決意續かずまとも居眠る

東京大文Ⅲ一 東中野 多聞

大学の寂しいベンチにこしかけて道行く人をただ眺めてる

大阪国際大政経一 森田 泰臣

見上げれば青海の岳見下せば神の阿蘇の岳々

大阪芸術大芸術一 塚本 将史

限りなく続く平野の片隅の清い小川も草に隠るる

#### 第五班

熊本学園大商三 喜多村 純

提出の時間をかなり過ぎたれど今だによめことの苦しき

福岡大経四 別府 正寛

しづけさの中に聞こゆる蟲の音を御霊も共に聞き入りますらむ

金沢大工三 森田 康之

阿蘇の地に群れて飛びたる赤トンボ失はれゆく故郷を思ふ

福井工業大工二 加藤 博史

そよ風の中に飛びかふ赤トンボ君の気楽さうらやましいな

福岡教育大教一 月野木 健

阿蘇の地で熱き仲間と巡りあひ国を思ひて語る喜び

佐賀大農一 鈴木 考将

いつの日か故郷にもどりで生きなむと言ひし御先輩の目は輝ける

防衛大文一 大庭 弘継

君があてただるだけで幸せでただうれしくて時も忘れる

熊本学園大経一 田苗 輝昭

全国に広がつてほしい友らの輪今度会ふ日を夢にえがきぬ

#### 第六班

鹿児島大農二 佐々木 義和

白井大人の遺詠集を書籍の方へ置かして頂いて

白井大人の偲ばれるかなかむあがりましては

やくも八月へにけり

拓殖大外四 成田 誠悟

阿蘇の山日暮れに響く雷が我がの心身に響きつづける

東京大教養二 松岡 勲

雄大でふしぎなながめの外輪山一人でみるのはもったいないな

金沢工業大工二 水野 伊織

夏が来て阿蘇山見では思ひ出す馬に草やりああ楽しいな

九州大文二 井野口 武志

高らかにひづめ鳴らして一頭の駒かけぬけり力強くも

宮崎産業経営大経一 波多野 康博

雷鳴とともに走り去るSLの姿はまさに貴公子のやうに

福井工業大工一 安島 義道

山合ひを丘の上から見渡せば緑一面のいい景色なり

### 第七班

国文研 今村 武人

夕風にゆれる夏草ながめては友と語りぬ御祖の思ひを

拓殖大外四 川崎 良典

我が心阿蘇の元にて花開くこの感動を忘るまじと思ふ

奈良県立商科大商三 岩瀬 幸広

草をはむ馬とふれ合ふ友たちは馬の動きにたじろかさぬ

富山大工三 腰原 健

大阿蘇の外輪山に囲まれたこの地で学び語らふ友と

早稲田大法二 浜田 咲智

班員の熱のこもれる発言に己が言の葉顧みらるる

金沢大工一 佐野 記士

クラーの十分きいた教室で講義わからず頭が痛い

鹿児島大法文一 野口 大輔

日ごろ見ぬ馬の太さに驚きてこはがりつつも枯草をやるなり

久留米大医六 福田 兼知

去年よりくればよかった国文研ああ悔しきや一人去るのは

### 第八班

国文研 大日方 学

贄塚散策

雷のとどろく音に風さへも強く吹ききて稲穂さざめく

夕立ちの降りこぬことを祈りつつ友らと共に丘を登りぬ

帰らむと丘を下れば雲晴れて杵島の岳の美しく見ゆ

宮崎産業経営大経三 永石 白馬

合宿に集ひし仲間数知れずうれしき想ひ我を満たしゆく

龍谷大社三 上戸 大助

雑草と呼ばれてゐても生きてゐるぐんぐんぐんと伸びゆく日々を

拓殖大外二 江刈内 大

ふきぬけるだいちのかぜをかんじつつめざすにへづかはるかなりけり

専修大法二 大沼 章

贄塚にて

豆ほどの小さなカエルが目にとまり我は叫んで友は追ひかける

富山大教一 菅原 洋光

贄塚の広がる原に腰おろし故郷思ふ我が心が

金沢工業大一 成田 光彦

美しき山の景色と山の花今甦へる幼き心

### 第九班

宮崎産業経営大経営三 矢田 研人

かすみつつ噴煙あげたる阿蘇を見て二年前を  
思ひ出したり

亜細亜大法三 丸山 忠一郎

真剣に御講話される先生の熱き思ひの心に迫  
りく

長崎大教三 朝久野 圭一

さはやかに吹きくる風は耳元にかすかな笛の  
音運びくるなり

拓殖大外二 橋爪 貴弘

草原をふく風止みて音もなし我突然に宇宙を  
感ず

金沢工業大工二 大橋 一仁

大自然空もきれいだ山もい牛もいつばい草  
を食べてる

福井工業大一 小泉 英紀

夏の日に暑さしのぎの冷房はそよ風などにか  
なわないかな

### 第十班

九州大文三 別府 秀俊

贅塚に耳をすませばはるかにもひぐらしの声  
きこえくるかも

福井工業大工三 杉浦 信正

おのおのが和歌つくらむと思ひてか帰りの路  
は静かなりけり

明治大法三 吉野 裕介

贅塚にて  
頂ゆうまし景色を眺むればおのが心も清めら  
れけり

富山大理二 加藤 武俊

山の上そよかせの中たたずみて緑にとけこむ  
思ひするなり

西南学院大法一 篠原 和久

討論会皆手を上げぬ静けさに思はずお茶に手  
を近づける

拓殖大外一 藤村 暢哉

にへづかに登つてみれば景色よくそよ風吹き  
て時を忘れる

佐賀大理工一 本庄 寛行

水田のあぜみち歩き見たせばあまたのどん  
ぼ飛びにけるかな

熊本大文一 梅木 紀宏

霧霞む四方の外輪うつすらと風の流れに汽笛  
が聞ゆ

### 第十一班

国文研 北村 公一

班長を拜命して  
思はざる重きつとめにとまどふも心尽くして  
つとめむと思ふ

防衛大国際関係四 二宮 充史

丘の上そよぐ夏風すがすがしはるかにかすむ  
阿蘇の山々

富山大工三 新保 良成

贅塚にのぼりてまはりをみわたせばはるかに  
高き阿蘇の山々

明星大日本文化二 大西 寛人

風そよぐ阿蘇のふもとにつどひきて今は楽し  
き友と語れば

福岡大経二 多久和 明伸

汗かきてたどりつきたる山頂はずしき風吹  
き心地よきかな

金沢工業大工二 小林 信仁

山めぐりすずしき風に身をまかせ友と語らふ  
楽しき時を

拓殖大外一 宮本健之

見渡すと田んぼの稲は緑色丘の上まであと一息だ

### 第十二班

国文研 古川広治

それぞれがおもひおもひの格好でうたを詠まうと考へてゐる

早稲田大教四 鈴木由充

柵の間ゆ首を伸ばして吾が手より草食む馬のいとほしきかな

駒沢大経三 林 晃平

肥後の馬蝦夷の馬馬はみんな同じ馬

金沢大教三 田中 匡

ハエが飛ぶさくに腰かけ草をやり馬と親しみかはいく思ふ

福井工業大工二 福田 恭夫

阿蘇の道あるさまはりて目に入りぬ鳥の型した木のある庭を

明治学院大社会一 城田 育寛

眠い目をむりやり開けて講義室そこでも寝入りぬ図々しくも

拓殖大外一 山形和広

夏合宿心に不安があつたけど話が通じ心もな

ごむ

東京理科大経営一 小島 陵一

先生の話を聞きてマスコミを疑ふ心初めて持てり

### 第十三班

国文研 大島伸一

所感発表

壇上へ登る瞬間近付きて胸の高まりいやましにける

発表を終へたる後も緊張が抜けないままに班室に戻る

室に戻る

日本大法三 澤部 和道

太陽は雲に隠れて見えざれどみなどの散歩は

楽しかりけり  
宮崎産業経営大経三 前 畠 誠

頂上に着きたる時に吹く風に当たりて疲れ吹き飛びにけり

九州造形短大美術二 中尾 国博

田のみどり丘のみどりに囲まれてみんなと歩く足どりも軽く

西南学院大経一 小島 尚貴

頼り無き私の意見を真剣に論じる友に心打たれたり

福井工業大工一 増村博文

緑の丘風吹き上げてのぼる中ふとふりかへると阿蘇の山々

金沢工業大工一 鈴木 尊之

班友と丘に登れば雄大な阿蘇の大地に若人の声

### 第二十一班

尚綱学園 教務課 白井直子

にへ塚の草茂る丘にねころびてのびのびすれば心地よきかな

尚綱大文四 森 本 美保

せせらぎと草々の声染み渡るぼつりと生える蓮華草かな

中村学園大家政四 松隈 香代子

何事も心尽くして励まるる友と語れば力湧きくる

立教大文二 奥 富 さくや

さわやかなかぜをかんずるやまのうへふかまほしきはわれのみちさき

拓殖大外一 西村 久美子

阿蘇山の澄みたる風に東京で荒んだ心洗はれるかな

尚綱短期大家政一 久保園 えり子

山登り雷鳴つても足止めず目指す頂上まう一  
息か

榎東芝 丹 羽 冬紀子

頂きに立てば心に迫り来る光輝く一面の青き  
田

榎神戸製鋼所 北 村 くみ子

胸の内熱きおもひで語らるる友の姿はすばら  
しいと思ふ

## 第二十二班

佛教大通信教育 新 谷 幸 恵

生き生きとしたりし友の顔にふれば心ホッ  
としたりぬ

専修大経一 上 田 和花子

晴天の阿蘇路に響く友の声三日でできた熱き  
思ひ出

東北女子短大生活一 松 橋 綾

故郷は皆それぞれに違へども会へた不思議に  
感動おぼゆ

青山学院大経一 衛 藤 美 湖

差異見つめ凍へる心照らすものあかるき瞳夏  
の陽の比喩

大阪市立大文Ⅱ一 利 川 恭 子

窓辺にて阿蘇の山々眺めつつただ一面の青空  
願ふ

市ヶ谷漢方クリニック 杉 本 幸 絵

都会では通りすがりの人なれどここの散歩  
は会釈をさそふ

尚綱短期大家政科助手 武 内 倫 子

親馬にびたりと寄り添ふ子馬見て幼き頃の吾  
を思ひ出す

## 第二十三班

熊本大文聴講生 延 塚 恭 子

わが友のむつつまかざらぬ言の葉にまはりの  
班友も笑ひくずるる

防衛大国際関係三 大 谷 三 穂

八月の暑さも短歌の創作も苦労は同じと頭を  
抱へる

尚綱短期大家政二 枝 川 美 紀

初めてで不安を胸に参加したこの合宿もまう  
あと少し

尚綱大文二 浜 元 美 千代

見渡せばいにしへよりの山々に小さく見ゆる  
列車過ぎゆく

東京農工大農一 濱 口 香 織

植物園ステキな歌を見たけれど私の歌はこの  
とほりなり

長崎大教二 白 石 由美子

母親の後をつけゆく子馬みて幼き頃の我思ひ  
出す

我もまた二十年を父母に守られて育てられし  
と思ひて涙す

拓殖大外一 渡 辺 佳代子

ゴロゴロと鳴る雷の音の中はのかに香るラ  
ベンダーの花

## 第二十四班

早稲田大政経四 伊 藤 華 恵

この国に伝はるるものの美しさしかと学ばん心  
すまして

東北女子大家政四 寺 山 知 寿

阿蘇までの道のり重きこれからの不安を胸に  
タクシーに乗る

文化女子大家政三 城 田 和 見

キーキーキーリスザルがなきえさたべる後頭  
は坊主のやうだ

関西大商二 山 下 牧 子

速き地でこころ静かに向かふ時を与へられた  
り二十の夏に

尚綱大英文一 東 陽子

早朝の外の空気は若人の心きりりと引き締め  
るかな

中村学園大家政一 前田 美幸

さまざまの形をしたるツゲの木は道行く人の  
笑顔をさそふ

京都外国語大外一 井川 裕美子

現在の世を信じられぬと嘆くより自らの手で  
真実求めむ

荒尾市立荒尾第五中学校 坂本 順子

朝つゆのみどり地踏みて我がころとんぼの  
群れに応援される

## 第二十五班

御所浦町立御所浦中学校 山方 富美子

山道をとつとつ登り頂上のながめははるか緑  
たたずむ

熊本大法二 山下 まみ

人々と別れるその日のさびしさは日がたつこ  
とにせまるものかな

熊本大法二 江原 紀子

風の吹く頂きに立ちて眺むれば霞みてそびえ  
る阿蘇の山々

長崎大教二 有川 由紀

班員のみんなまで歩いてゆく道は楽しき笑ひの  
あふれるるなり

尚綱大文一 倉田 あかね

そよ風にさそはれのほる贅塚で眺める山のす  
ばらしきかな

拓殖大外一 宮下 紀子

こんな日はあの雲になり会ひにゆかう白い翼  
であなたのもとへ

五和町立御領小学校 卯野木 希代子

三日間の疲れと心のわだかまり緑と風と汗が  
流しさる

五和町立御領小学校 田苗 安希子

歩きつつ話もはづむ長き道語らふ友の声高ら  
かに

## 第二十六班

青山学院大理工二 山内 真紀子

初めて馬の背に乗り上下左右ゆられながら  
の一周は早い

瞬く間に一周が終はり背をおりて名残をしく  
てたてがみをたたく

尚綱大文三 畑田 真紀

雷の音を背に聞きハムスターだいて楽しみ写

真を撮りぬ

東北女子短期大生活二 守谷 優子  
ハイキング着いた所はくま牧場子供に返りて  
無邪気に遊ぶ

熊本大法二 成清 幸子

人見知りする我にては皆とともにやっていけ  
るか不安に思ふ

尚綱大文一 中島 ルミ

牧場にて胸はづませて子熊抱き友と一緒に記  
念撮影

山口女子大国際文化一 高井 美和

我ひぎに小さき子熊を座らせて売店に走り熊  
を手に入れ

尚綱学園事務局総務課 田上 伸子

阿蘇の山すべてをつつみすわつてる父のごと  
くにうでを広げて

## 第二十七班

早稲田大教二 伊藤 佳恵

はじめての班長なれど班員の笑顔にいつしか  
心も和む

奈良大文三 藤本 康子

吾のため草花のこと語らるる先輩の御姿うれ  
しく思ふ

東京大文Ⅲ 山口花子

愛らしき子熊と遊ぶひとときは友と笑ひあふ  
中日の休息

尚綱大文一 鳥飼美智子

内にある思ひを言葉になすことの難くしては  
がゆく思ふ

拓殖大外一 牧田由紀美

はるかなる望みを胸にいくつもの想ひを胸に  
いざ進みゆく

外資系会社員 川手和恵

大阿蘇に誘はれ来て天地の歌を聴くなり山  
にも田にも

尚綱短期大 就職課 益田典子

班友の一つ一つの言葉にも重み感じて心に積  
もる

### 第三十一班

国文研 中田一義

それぞれの生き方照らし語りたる言の葉重く  
心に響く

徳富太郎

牧場に向ひて見れば青きなる阿蘇の山には雷  
が鳴る

厚木市教育委員会七沢自然教室 井上聡

ひぐらしの声を聞きつつ阿蘇の山に時を忘れ  
て友と語らふ

出光興産株 山田幸治

いちにちの汗を流した風呂上り阿蘇の夕べに  
ここちよき風

小馬谷秀吉

丸米の地域と子らの交流を愛こめ語る友に涙  
す

照国神社 榊山成剛

見遙かす阿蘇の大神拝みて友情とは何か改め  
て問ふ

日本植生株 福田健志

阿蘇の地で正しい歴史指導され我行く道を考  
へ直す

### 第三十二班

国文研 村山寿彦

阿蘇神社にて  
火の山の阿蘇に鎮まる神社の二重の楼門は豪  
壮にして

班友と雨あがりたる神社にまうづる我は心な  
ごみて

神社をめぐりてゆけば杉木立の上よりせみの  
声ふりそそぐ

阿蘇の地で新たな友と語りあひ鑄びた心をキ  
ラリと磨く

亜細亜大学学生部 高橋英樹

敷島のすばらしき歴史字びつつ我娘に伝へる  
責任を思ふ

出光興産株 行成俊光

軒下で雨が止むのを待ちたれど葉月の空に願  
ひとどかず

菊池神社 前田澄輝

もただ鍼灸治療院 元田英明  
そびえたつあその山肌ながむればとはの流れ  
にいのち融けゆく

株式会社 安東祐範

その昔ヨナ(火山灰) 降る水も飲みたりき阿  
蘇の原野の秋季演習に

### 第三十三班

国文研 古川修

絹田君の「合宿導入講義」を聞き  
誤れる東京裁判史観を糺さむと君は訴ふ若き  
友らに

ほとばしる君の熱情ひしひしと聞く若皆のこ

ころうつなり

宮崎神宮 川越 篤

思ふことうまく言へねど真顔にて聞きくれる  
友ありがたきかな

安川情報システム 榎 田 隆

願掛けの石にさはりて願ふ身を我が妻見れば  
何と思はむ

日本植生 榎 田 村 高 弘

縁ありて阿蘇の社に来てみれば世の中の縮図  
を絵馬に垣間見る

厚木市教育委員会七沢自然教室 吉澤 涌 介

ともどちと汗したたらせ参拝す阿蘇の神社は  
雷鳴の中

乃木神社 松 吉 宣 和

祭場の定まりぬれば青竹に注連めぐらして御  
祭を待つ

荒尾市立八幡小学校 宮 田 正 男

降り出した雨に濡れつつ遅れたる友を待てど  
も姿は見えず

### 第三十四班

国文研 宝 辺 矢 太郎

小堀先生が御講義で亡き村松剛先生のこ  
とにふれられて

壇上に颯爽と登りたまひたる師のみすがたの  
まなかひ去らず

台風の来たりし年もみやまひにふせましし年  
もかけつけたまひき

吾の話をきく人あらば行きますとふ強きいら  
へをきくもかしこし

こやせる身をかへりみもせて皇室を案じたま  
ふ師のみこころしのびぬ

はやすでにおのが生も死もすててただに国の  
行末を念じらるるなり

福岡県立豊津高校 西 川 信 次

阿蘇の地に不安いだいて来てみたがみんなの  
熱意我を励ます

福岡県立大宰府高校 船 津 智 生

道に咲く夏の草花あざやかに名は知らねども  
心奪はる

大野町大矢野中学校 大 塚 芳 生

生きるため餌を欲しがる馬見たりつはもの  
姿悲しからずや

大矢野町大矢野中学校 松 岡 幹 男

あなつかし幼きころに遊びたるがまの穂あ  
またすつと伸びたる

熊本県立菊池高校 川 上 良 尚

幾たびも問ひ返しつ考ふる心開きて友と語  
らふ

芦北町立佐敷小学校 荻 田 誠 一

八月六日、丸米小の教へ子と長内先生に  
お会いす

「おはいりなさい」と優しき大人の声を聞き  
頬を赤らむ教へ子三人

福岡県立浪江高校 佐 藤 武 士

この言葉聞けただけでもこの合宿来たかひあ  
つたと喜びの声

### 事務局

湯前町立湯町中学校三年 田之上 滝

はしやぎつつエサをとりあふ子熊たちもし山  
ならばただ怖いだけ

外輪の風吹く丘に立ちながら千年後のかすみ  
を思ふ

気色悪い擬人化された置き物に冷汗するのは  
わたしだけかな

カルデラに水がたまれば大昔神様たちのお風  
呂だったかも

(二回目的作品)

ヒノキ風呂にて

落ち出づる水の織りなす透く布に左手傷の皮  
膚も潤ふ



大妻女子大学風山女子高校 小林 祐子

雲の影外輪山を移りゆく木々の色も移りゆく  
澄き透る青空広がる阿蘇の山暑さも忘れて見  
つめ続ける

### (二回目的作品)

壇上におちいちゃんが立ってゐる私の胸もど  
きどき高鳴る

慶應義塾湘南藤沢中等部二年 山口 蝶子  
新しい友人見つけ毎日のすぎ去る時間遠く感  
じる

子熊抱き少しきんちようしながらも小さなぬ  
くもり伝はつてくる

### 写真班

田上 富美子  
夜遅く一人で入る檜風呂澄んだ水の音疲れも  
忘る

### 見学参加

市ヶ谷漢方クリニック院長 桑木 崇彦  
阿蘇火口に立ちて

もくもくと湧き立つ煙わが立てる地球はげに  
や生きてあるらし

### 自室にて

夕立ちのやみてしき鳴く蟬の声阿蘇高原も早  
や暮れんとす  
散策の途

晴れわたる空に雷鳴轟くや篠つく雨の早も襲  
ひ来

阿蘇神社宮司九十一代目と聞きて  
畏しや九十一代いやつぎてこのみ社を守り来  
しといふ

### 指揮班

京都大学数理解析修士一 濱地 賢太郎  
賢塚に登りつめれば頂きに吹きつける風の心  
地よさかな

### 国民文化研究会

国民文化研究会理事長 小田村 寅二郎  
みそくとせ  
三十九年を積重ね来しこの合宿いま中つ日の  
夕べを迎へぬ

お二人の大人はそれぞれ心の丈を傾け訴へ  
たまひき

お二人のことはゆ溢るる誠心を二百五十人  
はいかに受けしか

み国いまおそるべきほど亡国のきざし日増し  
に高まりゆく時

力なき我にしあれど光輝ある皇御国を守らで  
やむべき

前九州造形短期大学教授 小柳 陽太郎  
蓑田先生の所感発表を聞く

草深き学び舎にして清らかなの子らとすごせし  
日を語りゆく  
躍る胸おさへて語るはるかなる子供らのおも  
は遠徳びつつ

日の本の若きいのちと育ちゆく子供らの幸ひ  
たに思へり

丘の上に子らと語りつつ学校の鐘遠く聞くう  
ましふるさと

「故郷」のうたさながらに山青く水清き里よ  
君が学び舎  
衰ふるみくにのいのちよみがへる力ここにあ  
り君が学舎

### (二回目的作品)

白濱裕運常委員長の「合宿を顧みて」を  
聞く

一年のおもひかたむけ語りゆく君が言葉に力  
こもれり

阿蘇の地に友らの心ひびきあふ場所つくらむ  
との一念に生く

学問にとりくむ姿勢かくあれと切々と語る君  
がみこば

はげしきたたかひの一年なりけむ語りゆく君  
がこばの途絶えがちなる

胸押へ語りゆく友よこの若き友のたふときを  
しみじみと思ふ

（熊千代田コンサルタント

代表取締役専務 上村 和男

にぎやかに語り合ひつゝ、贅塚を目指し道行く  
ひととき楽し

橋を渡り畦道行きてみ友らを待つひとときに  
風吹きわたる

（二回目の作品）

大阿蘇のみ山を覆ふ雲はれて今朝はさみどり  
あざやかに見ゆ

むらぎもの心にかゝる雲はれてみ友と共に進  
みゆかなむ

国民文化研究会事務局長 長内 俊平  
妻への便りののはしに

眼にしみる阿蘇山のなだりの緑原に浮雲の  
けうつりゆくかな

その景色えも言はれずといふ孫のことばを妻  
に伝へてやらむ

国造神社参拝（白浜君の案内にて）

谷川のさやける流れ御手洗に引ける水音神代

ながらに

みたらしに口を清めてあかざればなほ掌にう  
けて頂きまつる

二千年の神杉あるにも知られけりこの御社  
の古き由来を

宮川のせせらぎきまつことそげる尊き宮に  
折りささぐる

心知る友のあたたかきはからひに尊き宮に詣  
づるをえき

（二回目の作品）

一週間は夢とすぎゆきはや今日は分かれゆく  
べき日となりしかな

廊をゆくにもかたみに笑みを交しつむつび  
し友と分かれゆかむ

病床になづむみ友（寶邊兄）の上思ひ語り合  
ひたる朝夕なりしか

慰霊祭の斉庭に鳴きぬし虫の音も思ひぞ出づ  
る去りゆく今日を

ひととせの友らのいたつき思ひつゝ、望む杵鳥  
岳を雲流れゆく

日商岩井㈱ガス石炭本部副本部長

澤部 壽孫

八月六日夕方熊本空港に徳岡先生を迎ふ  
る

杖をつき小さきカバンさげ給ひ来まししみ姿

見ゆれば嬉しき

忙がしきなりはひのなかはろばると師は来給  
ひぬ熊本の上に

師とともに山路登れば夕立も止みて聞ゆるひ  
ぐらしの声

八月七日徳岡先生のご講義を聴きて

若きらにみ思ひこめて語ります師のみ姿に胸  
をうたるる

御話は活き活きとして集ひたる若きら聴きぬ  
眼を輝かせ

マスクミを信はずおのがじし考ふべし  
と師は説き給ふ

八月八日贅塚に登りて宝辺正久先輩を偲

ぶ  
吹き渡る風をうけつつ大人は今いかにいます  
と友と語らふ

思はざる胃のみやまひに臥します先輩いまさ  
ずてさびしき合宿

若きらのあまたつどひてつつがなく合宿しあ  
りと告げまつりたし

（二回目の作品）

白濱裕兄の御話「合宿を顧りみて」を開  
きて

一年の兄のいたつきさまさまに思ひ出さるる  
話聴きつつ

合宿の勧誘準備に眠る間も惜しみて兄は努め  
来ましぬ

み友らの助けを謝して絶句せし兄の姿に我も  
涙す

「全体感想自由発表」にて

合宿の火は絶やすまじ若きらの得がたき機会

と語るを聞けば

吾子立ちて合宿に來し喜びを語るを聞けば涙

こぼるる

かかるえにし与へ給ひし師や友にただ謝しま

つるこれの合宿

神奈川県立厚木南高校教諭 山内 健生

阿蘇神社にて

訪れし我らがために御社の由来を説かるる若

き神職は

心こめ説きゆく面わにまめやかに仕へたまへ

る日々の想はる

はつくにのみかどに連なる神々をまつりたま

ふと聞けばかしこし

世を累ね大宮司家は当代で九十一代と聞きて

驚く

時をつぎ世をかさねつつみ社をいつきまつれ

る御心尊し

小田原市立富永小学校教諭 岩越 豊雄

食事終へて友とくつろぐ部屋内に窓明かくそ

め夕日さしたり

緊張の講義無事終へくつろげる友の顔かが

やきて見ゆ

(二回目作品)

慰霊祭

齋庭場のまはりに生ふる鋒杉の形よろしもよ

りしろのごとく

見上ぐれば齋庭の前の鋒杉の木末高くに星の

輝やく

暗間に浮きたつかがり火しめ縄の齋庭照らし

てはむら立ちたり

かがり火も消えし闇夜にみ魂呼ばふ警蹕の声

遠にひびけり

もろともにみ国ささへしみ先祖等のみ魂呼ば

ひていつく畏さ

み先祖等の心偲びて日本を歪める邪説正さざ

らめや

さまざまな虫の声にもと御製詠む齋庭に秋の

虫のすだけり

百武学園専門学校講師 関口 靖枝

心知るなつかしき師と友どちの集へる阿蘇へ

とひた走りゆく

うちつゞく緑濃き田の筑紫路をはやくも過ぎ

て筑後路を行く

三年前夫は居まして共々に眺めし景色その

ま、に見ゆ

「台風のあとすさまじ」と語りたる声を今し

も聞く心地して

しのび寄る禍事憂ふる人あまた集ひ給へる阿

蘇は近づく

(二回目作品)

うら若く心の直き乙女らと国の行く末語りす

ごしぬ

先達の心を共にしのびつつ学びてゆかむ若き

友らと

みどり児をかひなに抱き育てゆく母となるべ

きこの乙女らと

「涵養」の文字調べむとすぐさまに辞書をひ

く友らのありがたきかな

励みませ養ひゆきませをみなごの直くやさし

き大和心を

日の本のみおやのいのち伝へゆかむすめらみ

くにのをみなごなれば

浄土真宗本願寺光隆寺 岡棟 猛

病床のみ友の上をしのびつつ戸外に出でぬ空

を見上げて

阿蘇岳はかすみかかりて見えざりき杉木立の

上を雲はおほへり

見はるかす外輪山を思へども今年は見えずさ

びしかりけり

阿蘇の地は友らいくたびも集ひけり思ひこも  
れる山よ木立よ

(二回目的の作品)

部屋部屋ゆ笑ひ声出づ友どちは心通ひてうれ  
しかるらむ

合宿も終り近づきやうやくに心通ひて語り合  
ふらむ

われもまた心ひらきて友どちと文交はしつづ  
生きむと誓ひぬ

元・サンデン交通係取締役 加藤 善之  
入院中の宝辺先輩を偲びて

大手術終へ早や一月越えにける宝辺先輩如何  
があるらむ

欠席は初めてならむ四十年の合宿教室に師の  
影はなく

やつれ結ふ面影今もまなかひをよぎりてやま  
ず阿蘇の旅路に

先輩も若き友らもこもごもに病状如何にと我  
に問ひかく

くさぐさに思ひはめぐりやまざらむ阿蘇の集  
ひを偲びたまへば

歌三首届きましぬと運営の白浜委員長知らせ  
くれたり

点滴の側に座しつづ歌詠まるやつれし姿の偲  
ばれやまず

さはあれど経過は良しと安らぎて我また詠ま  
む火の国阿蘇に

夕陽さし日は傾きて高原の空をみやればひぐ  
らしの鳴く

ひぐらしの鳴く木の下影を小柳さん岡棟さん  
の連立ちてゆく

不動産鑑定士 松吉基順  
下関の友は来らず大阿蘇の集ひ淋しもみ病ひ  
いかに

五月十一日亡き兄のみ祭りに集ひきて杯を献  
ぜし友にてありしに

薄がすむ大阿蘇の峰仰ぎみて友のみ病ひ癒え  
ませと祈る

草原にうすばきとんぼの舞ひをれど友のみ病  
ひいや頻き思ふ

(二回目的の作品)  
若きらと心ひらきて語りあひ悔なかりけり大  
阿蘇の集ひ

共に学び語らいあひしに正道を若きら忘れず  
生きぬきたまへや

つつがなき阿蘇の集ひに神々やみ祖のご加護  
をただ謝しまつる

元・法政大学 人事部長 香川 亮二

朝の集ひ——八月七日——

高く低く小さきとんぼのむれ飛びて朝にぎ

はしつどひの広場

秋あかねか見るにさあらずうす黄色のとんぼ  
なりけり今朝のとんぼは

はげしかりし夕立のゆえか芝草に残れる朝の  
露しげきかな

つどふ人にふるるばかりにしたしげにとんぼ  
むれとぶ朝の広場

その名をば“うすばきとんぼ”と呼ぶといふ  
こと聞き知りぬ帰りの路に

はろばろと島をつたひて沖繩より海渡りきし  
といふとんぼかなしき

(二回目的の作品)  
青空のもどり来りて阿蘇の空は朝の光のみち  
あふれたり

最終の日を迎へたるこの朝往生が岳のあざや  
かに見ゆ

濃きみどりの山肌を刻むいくなだり目にする  
くして山裾に向ふ

合宿の始まりしと思ふたちまちに四泊五日の  
早かりしかな

いとなみの深く力強く国内にひろがりゆくを  
ただに祈らむ

日産自動車㈱ 宇宙航空事業部 内海 勝彦

山口秀範先輩の御発表をお聞きして  
外国で我を支へてくれしもの三つありしと先

輩は語りぬ

団結のきづなも固く結ばれし家族の恵を話されし先輩

くさぐさの外国で得し友どちのみ情今も忘れずといふ

歌詠めば日の本の友俣はゆとふ先輩の心のたふとかりけり

(二回目作品)

「合宿を顧りみて」にて白濱裕先生が太子の「不請の友」といふ言葉を紹介されて

久々に聞きし太子のみ言葉に己が心の正さるる思ひす

「請ひてのち助くるは真の友にあらず」とふ

太子のみ言葉ただにかしこし

み言葉を持しまつりてこれよりは我が友どちと励みゆきなむ

福岡県立水産高校教諭 菅原亨二

短歌導入講義前に長内先生とお会ひして  
頑張りなさいと師の君が肩に手をおきはげましたまふ

わたしでも緊張しますとのたまひしお言葉うれしく心にしみぬ

しづかなる講義室にて眼とちいかにつたへむと心くだくも

(二回目作品)

今村武人(第七班) 班長の姿を拜見して温かく包みこむごと語らるるみ友の姿をありがたく思ふ

くさぐさの思ひを語る友どちに心をこめて応ふる君はも

(株)日本興業銀行証券部 小柳志乃夫

山口秀範先輩の発表を聞きて

「歌を詠むとは友を思ふこと」と語ります先輩の言葉の胸にせまりぬ

歌よめばはるか離れしみ友らの面舞姿のうかびましけむ

しきしまの道につらなるまじはりの信に生きゆく力えましいき

若き日に思ひさだめし一筋の道生きませる姿ともしき

(二回目作品)

小田村寅二郎先生の歌を読み

乱れゆく国の行く末案じます師の御心を偲びまつりぬ

師の君の深き憂ひと憤りをみ歌よみつしみじみ思ふ

大分県立日田高校教諭 石井雅晴

菅原先生のご講義での鮫の話に驚きて鮫の首はねられてもなほ生きてあれば君はな

触れそと子らを戒む

モップもて首をつつけば噛みつかむ鮫とはげにも恐しきなり

(二回目作品)

白濱裕運営委員長の「合宿を顧りみて」を聞きて

請はずとも手を差し伸べて呉るる友ぞまこと  
の友と師に教はりき

我が友にとりて不請の友と言へぬ我にまごころのなきを恥ぢ入る

東京短資(株)顧問 小田村四郎  
慰霊祭

肥の国のこの阿蘇の地に亡き人のみたまをまつるこの年もまた

そびえ立つ杉木立を背にみまつりのゆにはとのひきよめまつりぬ

廣庭にあきつとびかひ鈴虫の声涼やかに鳴きわたるかも

遠雷もいつしか去りてみまつりを無事につかふることのうれしき

寶邊正久兄

大阿蘇の姿は常と変はらねど君が面わを見得ぬ淋しさ

思はざる病に臥して合宿に來られぬ君が思ひやいかに

重き病とく癒えまして健やかに戻らるる日を  
ただ祈るかな

(二回目の作品)

合宿終了の日

この朝は空清く澄みさはやかに木立そよがし  
秋の風吹く

高岳と根子岳のみどり美しく朝日に映えてあ  
ざやかに見ゆ

いくたびも訪れ来たれど肥の国の阿蘇山なみ  
は眺め飽かずも

家路さし帰りゆくらむ若きならも阿蘇の思ひ出  
忘れざるべし

柳講談社広告局広告企画部部长 磯貝保博

熊牧場見物の折に

ひさうへに子熊いだきてうれしげに親を見る  
子の姿羨しも

親熊のたけだけしさにくらぶれば子熊の仕ぐ  
さいとも愛らし

(二回目の作品)

徳岡孝夫・小堀桂一郎両先生の御講議を  
聞きて

説き明かすことのくさぐさ身にしみて力わき  
たつ決意あらたに

世はたとひ動きはげしく移れどもとすゑき  
りてたたかひゆかむ

福岡八幡宮 宮司 關 正臣

開会式に宝辺兄(欠席)を偲ぶ

火の国の阿蘇の集ひは始まりぬをさともなむ  
大人来まさねど

としごとのみ心配り巡らして今日もいまさむ  
ベッドの上に

いつの間に五日過ぎけむ「今日はしも最終日  
だぞ」と聞きて驚く

いつの日の事か覚えす励みたる事明らかに記  
憶に残れど

学校法人尚綱学園監事 徳永正巳

やはらかき朝の日ざしに飛びかひてウスバキ  
トンボ羽光るかな

さしのぼる朝日の光木の間より目にもまばゆ  
く照り映ゆるかな

君が代の歌高らかに声合はせしづしづ揚る日  
の御旗かな

(二回目の作品)

徳岡孝夫先生の講議を聞きて

我はたゞ国を愛して戦場に立つてふ米兵の覚  
悟頼もし

五十年の平和の基忘れ果て日々享楽の世の  
様憂ふ

マスコミを鵜呑みに信ずべからずといふ記者  
の言の葉胸に刻みぬ

福岡県民教育協議会事務局長 小林 國男

「終戦の御詫」の朗読を聞きて

終戦の御詫賜りわが国の支収めたるその御詫  
はも

大御言葉の一言一句の迫りきて身もたなしら  
ぬ思ひするなり

大臣の鳴咽の声は満室にせき切ることく湧  
き起りしといふ

かくまで到大御心を煩はし悩ましまつりぬ昭  
和のみ民は

(二回目の作品)

「班別和歌相互批評」

班友のひとりひとりの和歌を詠みその和歌皆  
で直しゆくかも

なか／＼にむつかしかりけりやさしかること  
に見ゆれど言葉直すは

班員の知恵をしばりてあれこれと言葉をさが  
すことひときよ

言の葉の变りてゆけばおのづから歌の姿も変  
りゆくなり

すがしがる歌の姿になりゆけばおのが心もす  
がしくなりゆく

さりながら言葉いぢりに墮ちゆけば袋小路に  
墮ちゆく如し

四苦八苦歌直しゆく班員の心おのづと通ひゆ

くかも

元・日特金属工業(株)常務取締役 加納 祐五  
年々の夏のためしとをちこちゆ友ら寄りくる  
もの学びすと

円座くみともに語れば新しき友も久しき仲か  
とぞ思ふ

ゆくりなく速鳴神のひびくなり語ることばの  
たゆるひと、き

鳴神もともに語るか世をおもひなげき語らふ  
声に合せて

(二回目的作品)

「班別研修」にて

若きらと語りてあればひたむきのころにはふ  
れてときにたちろく

みな人の胸にやまとのまめごころやどりてあ  
るをひたに信ぜむ

国のあゆみあやふしといえど国民のまめごこ  
ろつむほかに途なけむ

新日本製鉄(株)機械プラント事業部次長 今林 賢

郁

心知る友らと語らひまた興じ贅塚めざせば心  
なごむも

はからずも迂回路行きてこもごもに友らと語  
らふひととき楽し

田舎道を語らひゆけば緑なす稲穂ゆらして風

渡るなり

(二回目的作品)

「全体感想自由発表」

素直なる感想のふる若きらの言の葉ますぐに  
心に迫りぬ

ただならぬ時にはあれど生れいづる若きら信  
じて進み行かなむ

熊本県立球磨農業高校教諭 田之上 正明

レクレーションのとき

見上ぐれば空一面はうすぐもりいつ夕立ちの  
来るやもしれず

見渡せば阿蘇の五岳や外輪の山々けぶりてか  
すかに見ゆる

をちこちゆ集ひ来たりし班友に晴れし景色を  
見せたきものを

阿蘇神社に参拝す

班友と見上ぐるばかりの楼門をくぐりて阿蘇  
の社に詣つ

玉砂利のしきつめられし境内は降りたる雨で  
しつとりとなりぬ

(二回目的作品)

いままさに「侵略」といふらく印をわが手で  
押さむとす動きあらはに

断絶をはかりて帰るべきところ無くさむとす  
る動きあらはに

思はざるかかる決議のなざるは靖国護持の  
さはりとなるを

熊本市役所 生活環境事業部 折田 豊生

徳岡先生のご講義をお聴きして  
筆をとるもののふなりと思ひけりそのみおも  
てはおだやかなれど

真実を伝ふるわざにたまゆらの命をかけて生  
きたまひけり

マスコミの様聞くほどにわが国の行末あやふ  
く思はるるかな

世の中は大人の眼もて見ずば誤まるべしと  
ふみことは忘れじ

(二回目的作品)

数々の心ゆさぶるみことばを聴きて今年も合  
宿終へにき

師の君の示したまひしただならぬみくにの様  
を改めて思ふ

みをやらのみあとと辿りてわがつとめ果さむと  
思ふつたなかるとも

国立病院九州医療センター循環器センター長

小柳 左門

斎場の笹の葉ゆらし風吹きて雲間にとほく神  
鳴りひびく

くもりたる空ながめつつみまつりの今宵は雨  
な降りそと祈りつ

合宿に年ごと見ゆる師の君の姿を今年は見ず  
てさびしき

み病にふせ給ひたる師の君のはやいませと  
心に祈る

(二回目の作品)

戦ひに若き命を捧げたる祖先<sup>ちや</sup>思ひて胸のつま  
りぬ

中島法律事務所 弁護士 中島 繁 樹  
贅塚へたどる道辺の水田の稲の葉青し乾きの

夏も

頂きへ続く轍の細道をたどりつ登る暑き陽を  
受け

(二回目の作品)

合宿最終日の朝

晴れ渡る空のかなたに山はだのさやけく映ゆ  
る往生岳は

上戸大助君(第八班、龍谷大三年)

風強き中をはためき日の丸は滑らかに昇る君  
の手により

大沼 章君(第八班、専修大二年)

まつ先に彼は進みて壇上でここに学びし喜び  
を語る

東急建設株東京支店工務部次長 奥 富 修 一

第二十一班の長女のことを

吾娘と共に宿に来れば班室に消えゆく姿の心

に残るも

初めての合宿なればいかほどに不安な思ひを  
いだきてをらむ

先輩の言葉にしたがひ合宿に早く慣れよと切  
に祈るも

班付に「元気にしてるよ」と聞きたれば恥づ  
かしきなかにも嬉しき思ひす

廊下にて逢ひたる吾娘は手をふりて元気に見  
えてたのもしきかな

レクリエーションの折北塚にゆきて

歩みつかれ小高き丘に休みをれば吹き来る風  
の心地良きかな

合宿の友らにあらむ贅塚の尾根ゆく影をしば  
し眺むる

語りつつ時に笑みつつ歩みゆく阿蘇の稲田の  
中の小道を

心しる友と歩めば大阿蘇の稲田海原楽しきろ  
かも

(二回目の作品)

「第十三班」の若き友らへ

えにしありて過ごせし日々よ五日前途ひ得し  
友とは思はれなくに

五日間を共に過ごせし大阿蘇の学びの宿を忘  
れたまふな

「逢はざれば心はかはく」と牧水が歌ひし歌

の心を偲ばむ

今の世にかかる集ひに恵まれて不請<sup>むせう</sup>の友と共に  
ならなむ

株中央塩ビ製作所

代表取締役会長 星 野 貢

ゆにはべのしつらひ直くささ竹を四方に立て  
てしめ縄めぐらす

魂呼ばふゆにはべいつかし友らと共に心をこ  
めてしつらえまつりぬ

(二回目の作品)

次々に壇に昇りて若き友ら語るを聞けば涙あ  
ふるる

もの学ぶ心を語る若き友をしたはしく思ふそ  
の一筋心

拓殖大学外国語学部英米語学科

教授 松 本 幹 男

二日目の阿蘇の合宿暮れ行きて部屋窓辺に  
日ぐらしの鳴く

(二回目の作品)

はしなくも友の話にひきこまれ汁の実一つひ  
ぎに落せり

航空自衛隊航空教育生徒隊第一教育科

村 山 寿 彦

阿蘇神社にて

火の山の阿蘇に鎮まる神社<sup>みやま</sup>の二重の桜門は豪



壮にして

班友と雨あがりたる神社にまうづる我は心な

ごみて

神社をめぐりてゆけば杉木立の上よりせみの  
声ふりそそぐ

新技術事業団 管理部 野間口 行 正

特急列車の座席にて

ねむりから醒めてとなりをふと見れば「短歌  
のすすめ」に見入る若人あり

(二回目の作品)

昨夏の軽薄きはまりなき細川首相の発言  
を聞きて

あまつさへ英霊に向ひ侵略せしと語れる首相  
の言葉悲しも

国のためみ命ささげしつはもの御霊はいか  
に聞き給ひしか

逝きし人の 黝しあなどの風潮を遺族はいか  
に嘆きますらむ

大成建設株式会社 山 口 秀 範

久々に会ひ得し友らと語らいつ野道たどれば  
心和めり

心知る友と野行けば寛ぎて田渡る風の心地良  
きかな

涼風は青き稲田を吹き渡り遠き雷時折り聞  
こゆ

(二回目の作品)

小田村先生のご講義

八十路とはとても思へず若さらに注ぐまなざ

し強きみ言葉は

御述懐一帖・勅語・勅諭と大部なる資料整へ

語ります師は

工夫こめ作り給ひし「年表」に師のみ心ばへ

ほのみゆるごとし

二十五年過ぎしその夏初参加の合宿の様思ひ  
出さる

その夏のご講義の折りも手づくりの「年表」

をもとに講義し給ひ

過ぎし日に返ることしも師の君のみ姿遠く拝  
しつづ聴けば

この気迫この憂国のみ思ひの若さらに届けと  
折りつつ聴く

熊本県立第二高校教諭 白 濱 裕

幾人の参加あるかと案ぜしが多数の友を迎へ  
てうれし

心知る友らと準備すすめこしこの一歳を思ひ  
出だすも

久留米大学附設高校教諭 名 和 長 泰  
み友らの心こもれる励ましを宝と覚えしこの  
合宿はも

(二回目の作品)

大阿蘇のみどりのごとく大らかに豊かにと祈  
る国の生命を

大牟田市立橘中学校教諭 西 原 正 博

何故に侵略なりと曰ふか総理の言葉軽くは

あらじ

いはれなき罪悪感を払へよとパール判事は語  
り給へり

(二回目の作品)

起き出でてふと見上ぐればあざやかな黄緑色

の往生岳見ゆ

さはやかに晴れわたりたる大空に往生岳の緑

映えたり

福岡県立福岡高校定時制課程

教諭 藤 寛 明

ビデオカメラで撮影しながら  
ファインダーを覗き見ればをちこちに輝く瞳  
のみ顔の浮かび来

(二回目の作品)

合宿五日目の朝

広場より遠く山々ながむれば朝靄はれて鮮や  
かに見ゆ

すそ野より往生岳に光り差し空ゆく雲の流れ  
は速し

みどりなす往生岳の雄姿をばしばし眺めつビ  
デオに収む

福岡大学医学部 精神医学教室 古井博明

贅塚に登りて

いただきの馬頭観音真向ひて阿蘇の五岳を見  
そなわすごと

(二回目の作品)

小田村寅二郎先生の御講議を聞きて

八十一歳とはとても思へぬ若々しく張りのあ  
る御声のひびきわたりぬ

国思ふ心に我ら若さらに正しき歴史を伝えん  
とさる

金文図書出版販売(株)青雲学館 竹内昭彦

二年の年月を経て眺めやる遙かに光る阿蘇の  
街の灯

(二回目の作品)

運営委員長の白濱裕先輩の「合宿を顧み  
て」を聞きて

請はずとも手伝ひくれし友どちのことを語り  
ぬ声つまらせて

長野県小諸市役所建設部建設課管理係

中澤榮二

八月八日贄山ハイキング

大阿蘇の風心地よく頬をなでくさぐさのこと  
しばし忘るる

故郷で我待ち侘びし吾妹子のこと思ひつつひ  
たに頑張る

(二回目の作品)

ともども

班員共に力合はせて指揮班の仕事成し遂げ合  
宿終はる

ご先祖のみ心偲びてこの盆に家族みんなで御  
霊迎へん

熊本地方事務局八代支局 徳田恒稔

本部にてスピーカーより流れる君が代を  
聴きて

合宿の事務を執りつつも君が代を聴けば体の  
引き締まる思ひす

(二回目の作品)

懐しい顔に会って

をちこちゆ集ひ来ませし友どちに会へばおの  
づと力湧さくる

愛媛県商工労働部総務商工課 鳥生秀雄

四年ぶりに合宿に参加して

便りすら途絶へがちな我なれどほほ多み迎  
へる友のうれしさ

(二回目の作品)

合宿の終りにあたって

合宿で感じしことをいやらに深めていきたく  
し学んで行きたし

熊本市立楠中学校教諭 坂本太郎

衰田先輩の発表をききて

責任と誇りを持ちて教育に臨む覚悟を我も忘

れじ

(二回目の作品)

五日目の「朝の集ひ」の折

雲間よりさす太陽の光受け往生岳は輝きて見  
ゆ

緑濃く輝き映ゆる山見れば心洗はれすがすが  
しきかな

熊本県立天草高等学校教諭 久保田 真

「合宿に来て本当によかったです」とこみ  
あげる様に君は語れる

学び舎で思ひを語れぬいらだちを語る言の葉  
力強しも

合宿の喜び語る友どちの言の葉聞けば我も嬉  
しき

(二回目の作品)

今ごろは励みであるらむなりはひに不参加と  
なりし東京の友は

合宿のこともちかか語りたし共に学びし集  
ひのさまを

熊本交通センター経営企画室 清水久仁子

緊張や恥らふ気持ちおさへつつ思ひ語らふ友  
らいとはし

山口県玖珂郡周東町立周北小学校

教諭 橋本明英

いややさし兄弟の童を背に乗せばくりぱくり

と歩む馬はも

(二回目的作品)

蓑田誠一先生(四月まで丸米小学校に勤務)が「所感発表」の中で教へ子の歌を

紹介す

丸米のすぐなる児らの歌を知り自づと大人の人柄を思ふ

宗像市役所 高倉庸輔

ラジカセゆ聴こゆる声の高ぶれば動かすペン

も思はず止まりぬ

(二回目的作品)

「全体感想自由発表」をスピーカーを通

して本部で聴きながら

ほがらかに感想語れるともどちの晴れたるおもわ想ひ浮かびぬ

福岡市立原小学校主任主事 奈田明憲

贅塚に行く道聞きし先輩にくにことばにて答ふる子らよ

(二回目的作品)

国政の乱れ行く様ときたまふ講師のみ声に力こもれり

長崎中央郵便局郵便課 橋本公明

合宿で過ごせし時は短けれどこのひとときを大切にしたり

(二回目的作品)

限りある日数なれども合宿で学びしことは貴しと思ふ

北九州市立八幡病院放射線科 森田仁士

合宿地へ向ふ途中、菊池溪谷にて

おさな児の浅瀬に入りて楽しげに水しぶきあげ遊びてをりぬ

己が子もここにしあれば瀬に入りて共に遊ぶらむ服をぬらして

(二回目的作品)

「全体感想自由発表」の折り

アメリカの友のごとくに誇り持ちて祖国愛すと言ひたしと言ふ

をとめこの声ふるわせつ語りたる尊き言葉に涙あふれく

大阪府立交野高校教諭 絹田洋一

合宿地で教へ子と会ひて

はれやかにあみをうかべて「先生」とよびかくる子のおもはなつかし

夜行バスもよくねわれましたとたのしげにかたれるききてうれしかりけり

(二回目的作品)

いのちさ、げみ国守りしみおやらのたふとき

わざをおとしむる世は

みおやらのたどりし道を若さらに伝へゆきな

む心尽くして

出光興産(株)店主室 広島 英明

涼風を期待して駅に降りたてば我を迎ふるはあつき風なり

(二回目的作品)

神々につらなるみ国に生まれしをほこりに生きたしゆめ忘るまじ

日立製作所(株)エネルギー研究所 松井哲也

突然に来にし我をば御友等が迎へてくれしがうれしかりけり

(二回目的作品)

小田村寅二郎先生の御講義を拝聴して

一人も處得ざれば朕が罪と仰せ賜ひし明治の

みかどは

大君のこのお言葉に我が心統べられてゆく思

ひするかも

大君の御言葉聞きし御民らが奮ひ立つさま思ばれにけり

福岡市立奈多小学校教諭 是松秀文

小柳左門先生のお話を聴いて

いつくしみあふるる思ひに支へられ今ある吾が身をありがたく思ふ

祖先から連綿としてつながれる人の命を尊しと思ふ

(二回目的作品)

早朝より折田豊生さんと「歌稿」の添削をせし折

み友らがつくりし歌を心こめ添削されゆく御姿尊し

熊本製粉(株)不動産部 吉村 浩之

早朝の草原ならぶ友どちのあたりあたりにナツアカネとぶ

(二回目の作品)

一年前阿蘇の合宿に協力を頼みし友は福岡ゆ来たりぬ

この夏は阿蘇へ行くよとこたへたる君の言葉のかたじけなくも

タマポリ(株)ラミネート営業 吉川 理夫

大島兄所感発表

発表の準備の為に深夜まで自分を見つめつつ原稿直す

前日の疲れも見せず登壇し語るおものはつらつとして

福岡県立春日高校教諭 與 島 誠央

徳岡孝夫先生の御講義を聞きて

ヒュルヒュルと飛び来る砲弾かいくぐりへりまで必死に駆けゆきしとぞ

駆け込みしへりゆ後方振りむけば煙の中に近づく人影

駆け出せぬ老人の手をとり悠然と歩き来ると

ふ英国記者はも

己が身を捨つる覚悟で老人の手を取る記者よ 益荒男ぞあ

(二回目の作品)

最終日の「検討会」終りて

この七日この時をひたに待ちあたりおのがつとめも今し終りぬ

次々と舞ひ込む仕事をさばきつも日に日に疲れはたまり来てあり

○

み空ゆく大阿蘇の雲ながめつつ心にひとすぢ光さし来る

安信住宅販売(株)新宿センター 松 吉 基 光

十五年前父と来たりし大阿蘇の山なみ見つつ

なつかしと思ふ

我もまた吾兄と来る日を夢見つつ赤トンボ舞ふ山道を走る

(二回目の作品)

長内俊平先生より寶邊正久先生(御入院療養中)用のテープのダビングを依頼され

病床のみ友を気づかふ師の君の篤きみ心はわが胸を打つ

熊本赤十字病院外科 福田 誠

「全体感想自由発表」

壇上に上りて思ひを語りたる友らの顔の活き活きとみゆ

父母の思ひをたどりて壇上のみ友は声をつまらせにけり

日本を伝へまもりし御祖先らの思ひしぬべば胸ふさがれぬ

合宿に来て本当に良かったとお礼を言ひて降りる友どち

福岡県立須恵高校教諭 那 須 三 元

「全体感想自由発表」にて

つぎつぎに語るを聞けば今更に合宿教室の威力を思ふ

靖国神社 大 山 晋 吾

国のため斃れし人の名誉をば守り給ひね阿蘇の神々

福島の佐藤君へ

南国殖産(株) 京 田 清 人

こんにはたとふ元気な声は去年の冬東京で会ひし時とかはらず

都辺で夏に合はうと言ひ交はししことのかなひて嬉しと思ふ

尚綱高校講師 大 塚 千 春

苦しみを乗り越えるほど痛みも知り許す心も生まれけるかな

「朝の集ひ」の広場にて

集ひ来る友らの中に教へ子の姿見つけて歩み  
寄り行く

生活の様子を問へば昨晩は消灯過ぎにも語り  
しと言ふ

新しき友との出会ひ微笑みつ語るを見るは嬉  
しかりけり

船橋市立法典東小学校教諭 竹内 孝彦  
歌を詠むことのはじめて教はりしここ阿蘇の  
地に出て来て来にけり

大いなる山ふところを抱かれし師や友どちと  
まみえんと思ふ

(株)興人 高藤 誠

合宿教室の初日、受付にて

合宿に集ひ来たりし友どちの語る姿は懐かし  
きかな

つきつきと集ひし友の顔見ればおのづと我が  
身のひきしまりくる

合宿に寄せられた会員の短歌

元・福岡教育大学 山田 輝彦

合宿参加の皆様方へ

大阿蘇の底つ岩根に燃ゆる火のとしへにあ

れ国のいのちも

つどひたる若きらのいのちあつまりてみくに  
支ふる力とぞなれ

(株)寶邊商店代表取締役会長 寶邊 正久

阿蘇の空は雲行くらむか原遠く草なびかむか  
偲びつつあり

全国ゆいよりつどいて国のゆく手に思ひをひ  
そむ時ぞ畏き

大地の揺るるが如き国のいま若きらここに集  
ふ畏さ

八月十日、朝

久しくも見ざりし雨雲わが窓を西に動きゆく  
あけぐれにして

日出づれば梢ゆれつつ雲低く西に移りゆくす  
がしかりけり

阿蘇の野の稲穂をわたる風さやに別れもゆく  
か合宿最終日

国のいにちただ守らんと重ねゆくわれらがね  
がひ神守りませ

元・亜細亜大学教授 宮 脇 晶三

世紀末危ふき日本を救ふべき雄叫び興れこの  
セミナーに

## あとがき

秋も日毎に深まってまゐりました。皆さんその後いかがお過ごしでせうか。雄大な阿蘇のふもとで共に学び合った「合宿教室」から早や三カ月が過ぎやうとしてをりますが、やうやくこの『感想文集』を皆さんのお手許にお届け出来ることになりました。この『感想文集』は、「合宿教室」の最後に「走り書き」して戴いた感想文と和歌を編集したものです。

編集作業は、まづ、それぞれの班の班長又は班付の方々（国民文化研究会会員）に、感想文と第二回の創作短歌を添削・編集していただくことから始めました。

皆さんお一人お一人の心のこもった文章・和歌を丹念に読み返し、編集してゆくことは神経を使ひ、時間のかかる作業ですが、皆さんがお書きになった生々しい言葉に心打たれ、同時に皆さんの緊張したあの時のお姿も思ひ出されました。それぞれの方々に編集していただいた編集方針は以下の通りです。

### (一) 「感想文」について

原文をできるだけそのまま掲載することを

基本方針としました。ページ数の関係で執筆者のお心のうちが最も強く表現されてゐると思はれるところを摘録しました。文意の不明瞭なところは、執筆者のお気持ちを辿りながら、原文のニュアンスが損はれないやう慎重に加筆しました。なほ、「かなづかひ」については、原文を尊重し、漢字及び文法上の誤まりについては訂正してをります。

### (二) 「和歌」について

合宿では二回にわたつて和歌をつくりましたが、第一回のもは、全参加者それぞれ一首以上を洩れなく本冊の巻末の「和歌詠草」のところに収めました。また、この感想文の執筆の折につくつていただいた第二回目の和歌は、それぞれの感想文の末尾に入れました。感想文と同じく、文法上の誤り等は訂正いたしました。

この『感想文集』作成のためには、班長および班付の方々以外にも多くの方々のご協力を得ました。お忙しいお仕事の中で、休日や勤務終了後の時間をさいてご協力いただきました磯貝保博、藤井貢、鍔信弘、小柳志乃夫、奈良崎修二、神谷正一、金子光彦、最知浩一、

吉川理夫、真田博之等の各氏に心から御礼申し上げます。

最後に、この『感想文集』の「あらまし」作成および第一回目の和歌の編集にご尽力いただいた国民文化研究会会員の諸氏に厚く御礼申し上げます。またカメラ・レポートの写真眞は福岡の田上富実子さんにお世話になりました。

いろいろな方々のご努力によつて出来上がった感想文集を、ご精読下さるやう切願してやみません。

「合宿教室」の四泊五日間の様々な経験が鮮明に甦ってくる事と思ひます。三カ月前に阿蘇で得た感動を単なる「思ひ出」に終らせることなく、合宿教室で得た眞に語りうる友との交流に、また新たな学問の求道への出発点とされるやう切に祈つてをります。なほ、ご精読後には、是非とも班長又は班付の方々に一筆御礼状を差し上げていただきたくお願ひ致します。

(山根 清記)

〔資料〕

第三十九回 “合宿教室（阿蘇）” 感想文集

平成六年十月三十一日発行

非売品

編集兼発行者

東京都中央区銀座七―一〇―一八 柳瀬ビル

電話 〇三―三五七二―一五二六（代）

FAX 〇三―三五七二―一五二七

社団法人 国民文化研究会

理事長 小田村寅二郎

編集委員

山根 清・内海 勝彦

吉川 理夫・小柳志乃夫

神谷 正一・大日方 学

